

ル金額ハ共通財産ニ之ヲ償フ可シ
若シ夫カ唯一人ニテ自己ノ名前ヲ用ヒ不分共通ニテ婦ニ屬シタル不動産
ノ一部又ハ全部ノ獲得者又ハ落札買入人トナリタル場合ニ於テハ婦ハ財
産共通解分ノ時ニ至リテ其物ヲ共通財産ニ委附シ又ハ獲得ノ代價ヲ共通
財産ニ償還シテ其不動産ヲ取戻スヲ自由タル可シ但シ共通財産ニ委附シ
タル時ハ共通財産ハ其代價中ニテ婦ニ屬スル部分ニ付キ婦ニ對シテ負債
者トナルモノトス(民八八三、一四三七一四七〇、一四九三)

○第貳款

共通財産ノ所屬件及ヒ之レヨリシテ共通財産ニ
對シ生スル所ノ訴權

第千四百九條

共通財産ハ所屬ニテハ左ノ諸件ヨリ組成スルモノトス

第一 夫婦ノ其婚姻ヲ行フノ日ニ負ヒタル總テ財産上ノ負債又ハ結婚
中ニ夫婦ノ受ケシ遺留財産ノ責任タル總テ財産上ノ負債但シ夫婦中
ノ一方又ハ他ノ一方ノ者ノ専有ノ不動産ニ關スル負債ニ付テハ補償
ヲ爲ス可キモノトス

第二 財産共通ノ間ニ夫ノ契約シ又ハ夫ノ承諾ヲ以テ婦ノ契約シタル
負債ノ元金并ニ年金賦額又ハ利息但シ補償ヲ爲ス可キ場合ニ於テハ

之ヲ爲ス可キモノトス

第三 夫婦ノ一身上ノモノタル所屬上ノ年金收受權ノ賦額又ハ負債ノ
利息ノミ

第四 共通財産中ニ入ラサル不動産ノ使用收益權ニ係ル修繕

第五 夫婦ノ養料子ノ教訓保育料及ヒ其他總テ結婚中ノ責任(民ニ。三三
。七三、一四五、二九六、三二四、一〇、一四二以下、一四二六、一四三七以下、二五一。)

第千四百拾條

結婚前ニ婦ノ契約シタル不動産上ノ負債ハ其結婚前ノ公正ノ

証書ヨリ生シ又ハ簿冊登記ニ依リ若クハ証書ノ署名者一人又ハ數人ノ死
去ニ依リ右時期ノ前ニ正確ナル日附ヲ受ケタル証書ヨリ生スル時ニ非サ
レハ共通財産ニ於テ之ヲ擔任セサルモノトス
婦ノ債主ハ結婚前ニ正確ナル日附ヲ有セサル証書ニ據リ婦ノ一身上ノ不
動産ノ虛所有權ノミヲ以テ婦ニ對シ其辨濟ヲ要求スルコトヲ得可シ

婦ノ爲メニ右ノ性質ノ負債ヲ辨濟シタリト稱言スル夫ハ其婦ニ對シテモ
又其相續人ニ對シテモ之レカ補償ヲ求ムルコトヲ得ス(民一三二八、一四二四、一四八
五)

第一千四百拾壹條 結婚中ニ夫婦ノ受ケタル純粹ニ動産ノモノタル遺留財産
ノ負債ハ全ク共通財産ノ責任タリ(民一四一八、一四九六)

第一千四百拾貳條 結婚中ニ夫婦中一方ノ者ノ受ケタル純粹ニ不動産ノモノ
タル遺留財産ノ負債ハ共通財産ノ責任タラス但シ債主ハ其遺留財産中ノ
不動産ヲ以テ其辨濟ヲ要求スルノ權利ヲ有スルモノトス
然レモ夫ノ其遺留財産ヲ受ケタル時ハ遺留財産ノ債主ハ夫ノ總テノ專有
財産ヲ以テ又然ノミナラス共通財産中ノ財産ヲ以テ其辨濟ヲ要求スルコ
トヲ得可シ但シ此第二ニ記シタル場合ニ於テハ婦又ハ其相續人ニ補償ヲ爲
スヘキモノトス(民一四三七)

第一千四百拾三條 若シ婦カ純粹ニ不動産ノモノタル遺留財産ヲ受ケ而シテ
婦ノ其夫ノ承諾ヲ以テ其遺留財産ヲ受諾シタル時ハ遺留財産ノ債主ハ婦

ノ一身上ノ總テノ財産ヲ以テ其辨濟ヲ要求スルコトヲ得可シ然レモ若シ婦
カ夫ノ否拒ニ於テ裁判所ノ許可ヲ受ケシノミニテ遺留財産ヲ受諾シタル
時ハ債主ハ遺留財産ノ不動産ノ不足ナル場合ニ於テ婦ノ其他ノ一身上ノ
財産ノ虛所有權ノミヲ以テ償還ヲ請求スルコトヲ得可キモノトス(民二一七一
四一七、一四二六)

第一千四百拾四條 若シ夫婦中一方ノ者ノ受ケタル遺留財産カ一部分ハ動産
ニシテ一部分ハ不動産タル時ハ其遺留財産ノ負ヒタル負債ハ不動産ノ價
額ニ比較シタル其動産ノ價額ニ准シ右負債中ニ於テ動産ノ分擔ス可キ部
分ノ額ニ充ツル迄ノ外共通財産ノ責任タラサルモノトス
其分擔ス可キ部分ハ若シ其遺留財産カ夫ノ一身ニ關係スル時ハ自己ノ權
利ヨリシテ作ラシメサルヲ得サル目錄ニ從ヒ之ヲ規定シ又婦ノ受ケタル
遺留財産ニ關スル時ハ其婦ノ行爲ヲ指揮シ及ヒ許可スルモノトシテ作ラ
シメサルヲ得サル目錄ニ從ヒ之ヲ規定ス(民九四一以下)

第一千四百拾五條 目錄ノ欠缺シ而シテ其欠缺ノ爲メ婦ニ損害ヲ被ラシムル

總テノ場合ニ於テハ婦又ハ其相續人ハ財產共通解分ノ時ニ至リ其當然ノ補償ヲ要求スルコトヲ得可ク又然ノミナラス家内ノ証券及ヒ普類并ニ証人ニ依リ又曰ムヲ得サルニ於テハ普通ノ評判ニ依リ目錄ナキ財產ノ組成及ヒ價額ヲ証スルコトヲ得可シ

夫ハ決シテ右ノ証ヲ立ツルコトヲ許サス(民一四四二一四九九二五〇四一五一〇)

第一千四百拾六條 第一千四百十四條ノ成規ハ一部分ハ財產ニシテ一部分ハ不

動產タル遺留財產ノ債主カ夫ノ其遺留財產ヲ受ケタルト婦ノ其夫ノ承諾ヲ以テ遺留財產ヲ受諾シタル時之ヲ受ケタルト問ハス共通財產中ノ財產ヲ以テ其辨濟ヲ要求スルノ障礙ヲ爲サ、ルモノトス但シ此場合ニ於テハ相互ノ補償ヲ爲ス可シ

若シ婦ノ裁判所ノ許可ヲ受ケシノミニテ遺留財產ヲ受諾シ然ルニ豫メ目錄ヲ作ラスシテ其動產ノ共通財產ノ動產中ニ混同シタル時ハ亦右ト同一ナリトス(民一四三七一四七〇一四九三二五二四)

第一千四百拾七條 若シ婦カ夫ノ否拒ニ於テ裁判所ノ許可ヲ受ケシノミニテ

遺留財產ヲ受諾シ而シテ其目錄アル時ハ債主ハ其遺留財產中ノ動產ト不動產トノミヲ以テ其辨濟ヲ要求シ若シ其不足ナル場合ニ於テハ婦ノ其他ノ一身上ノ財產ノ虛所有權ノミヲ以テ其辨濟ヲ要求スルコトヲ得可シ(民二一九二四一三二四二四以下)

第一千四百拾八條 第一千四百十一條以下ニ定メタル規則ハ財產相續ヨリ生シ

タル負債ノ如クニ贈與ニ附屬シタル負債ヲ管理スルモノトス

第一千四百拾九條 債主ハ婦ノ其夫ノ承諾ヲ以テ契約シタル負債ニ付テハ總

テノ共通財產ト夫又ハ婦ノ財產トヲ以テ其辨濟ヲ要求スルコトヲ得可シ但シ共通財產ニ其補償ヲ爲シ又ハ夫ニ其賠償ヲ爲ス可キモノトス(民一四〇二一四二六二四三七一四七〇一四九三)

第一千四百貳拾條 夫ノ一般ノ代理又ハ特別ノ代理ノミニ據テ婦ノ契約シタル總テノ負債ハ共通財產ノ責任タリ而シテ債主ハ婦ニ對シテモ又婦ノ一身上ノ財產ヲ以テモ其辨濟ヲ要求スルコトヲ得ス(民一四〇九一九九八)

○第貳節

共通財產ノ管理及ヒ婚姻ノ結社ニ關シテ夫婦中ノ

一方又ハ他ノ一方ノ所爲ノ效

第一千四百貳拾壹條

夫ハ唯一人ニテ共通財産中ノ財産ヲ管理ス

夫ハ婦ノ助成ナクシテ其財産ヲ賣拂ヒ所有權ヲ移轉シ及ヒ借入質ト爲ス
ヲ得可シ(民八二八二四。二二四二八二五。七二二。八四一三六一三八)

第一千四百貳拾貳條

夫ハ共通ノ子ノ定業ノ爲メノ外無償ノ名義ニテ共通財産中ノ不動産ノ生存中ノ處分ヲ爲スヲ得ス又動産ノ全括又ハ其一箇ノ量額ノ生存中ノ處分ヲ爲スヲ得ス

然レハ夫ハ無償及ヒ特定ノ名義ヲ以テ各人ノ利益ニ於テ動産ヲ處分スル
ヲ得可シ但シ之レカ爲メニハ其使用收益權ヲ己レニ貯存セサルヲ必
要トス(民一四。二二四三七。二四三九。一四六九)

第一千四百貳拾三條

夫ノ爲ス所ノ遺囑ノ贈與ハ共通財産中ニ於ケル夫ノ分
ケ前ニ過クルヲ得ス

若シ夫ノ右ノ法式ヲ以テ共通財産中ノ一箇ノ品物ヲ贈與シタル時ハ其受
贈者ハ右ノ品物ヲ分派ノ成リ行ニ依リ夫ノ相續人ノ區分財産中ニ加ハリ

タル時ニ非サレハ原品ノ儘ニテ之ヲ要求スルヲ得ス若シ其品物カ其相
續人ノ區分財産中ニ加ハラサル時ハ受遺囑者ハ共通財産中ニ於ケル夫ノ
相續人ノ分ケ前ト夫ノ一身上ノ財産トニ付キ其贈與セラレタル品物ノ價
額全部ノ補償ヲ受ク可キモノトス(民一。二二四七四)

第一千四百貳拾四條

准死ヲ惹起セサル重罪ノ爲メニ夫ノ受ケタル罰金ハ共
通財産中ノ財産ヲ以テ之ヲ要求スルヲ得可シ但シ婦ニ其補償ヲ爲ス可
キモノトス又婦ノ受ケタル罰金ハ財産共通ノ繼續スル間ハ其一身上ノ財
産ノ虛所有權ノミニニ付キ之ヲ執行スルヲ得可シ(民一四。九二四二五。一四二六
二四三七)

第一千四百貳拾五條

准死ヲ惹起スル重罪ノ爲メ夫婦中ノ一方ニ對シテ宣告
シタル言渡ハ共通財産中ニ於ケル其者ノ分ケ前及ヒ其者ノ一身上ノ財産
ノミニ及ホス可キモノトス

第一千四百貳拾六條

夫ノ承諾ナクシテ婦ノ行ヒタル所爲ハ假令裁判所ノ許
可ヲ受ケタルモノト雖モ共通財産中ノ財産ヲ結束セサルモノトス但シ婦

三五

第一千四百三拾貳條 婦ノ其一身上ノ不動産ニ付キ爲シタル賣拂ヲ連帶シテ擔保シ又ハ其他ノ方法ヲ以テ擔保スル所ノ夫ハ若シ其妨害セラル、ニ於テハ右ニ同シク共通財産中ニ於ケル婦ノ分ヶ前ニ付キ若クハ婦ノ一身上ノ財産ニ付キ婦ニ對シテ償還ノ請求ヲ爲シ得可キモノトス(民一〇〇、一四七八)

第一千四百三拾三條 若シ夫婦中一方ノ者ニ屬スル不動産ヲ賣リタル時又ハ夫婦中一方ノ者ノ專有タル不動産ニ對シテ負擔スル所ノ地務ヲ金額ヲ以テ買戻シタル者アル時共通財産中ニ其代金ヲ拂ヒ入レ而シテ全ク其再用ヲ爲サ、ルニ於テハ夫婦中ニテ其賣リタル不動産若クハ其買戻サレタル地務ノ所有者タリシ一方ノ者ノ利益ニ於テ右ノ代金ヲ共通財産中ヨリ先收ス可キモノトス(民一三三、一五二四七〇、一四九三、一四九七、一五二五)

第一千四百三拾四條 一箇ノ獲得ノ時ニ當リ夫カ嘗テ自己ノ一身上ノモノタリシ不動産ノ所有權移轉ヨリ得タル金額ヲ以テ自己ノ再用ニ供スル爲メ

其獲得ヲ爲セシ旨ヲ申述シタル度毎ニ夫ニ關シテハ其再用ヲ爲シタルモノト看做ス可シ(民一四七〇、一四九三)

第一千四百三拾五條 婦ノ賣リタル不動産ヨリ得タル金額ヲ以テ婦ノ再用ニ供スル爲メ獲得ヲ爲シタル旨ヲ夫ヨリ申述シタリト雖モ其申述ハ婦ノ明確ニ其再用ヲ受諾シタル時ニ非サレハ充分ナリトセス但シ婦ノ之ヲ受諾セサル時ハ婦ニ於テ財産共通解分ノ時ニ至リ單ニ其賣リタル不動産ノ代金ノ補償ヲ受クルノ權利アルノミトス(民一四三四、一四三七)

第一千四百三拾六條 夫ニ屬スル不動産ノ代金ノ補償ハ共通財産ノ合部ノニ付キ之ヲ執行シ又婦ニ屬スル不動産ノ代金ノ補償ハ共通財産中ノ財産ノ不足ナル場合ニ於テハ夫ノ一身上ノ財産ニ付キ之ヲ執行ス○如何ナル場合ニ於テモ其所有權ヲ移轉シタル不動産ノ價額ニ關シテ如何ナル申立ヲ爲スニ拘ハラヌ其補償ハ賣拂ノ基本ニ據ルニ非サレハ之ヲ爲ス可カラヌ(民一四七〇)

第一千四百三拾七條 夫婦中一方ノ者ノ專有タル不動産ノ代金或ハ其代金ノ

一部分又ハ地務ノ買戻ノ如ク其一方ノ者ノ一身上ノ負債又ハ責任ヲ辨償
スル爲メ若クハ其一方ノ者ノ一身上ノ財産ノ取戻保存又ハ改良ノ爲メ共
通財産中ヨリ一箇ノ金額ヲ取り用ヒタル度毎ニ及ヒ總テ一般ニ夫婦中一
方ノ者カ共通財産中ノ財産ヨリ一身上ノ利益ヲ得タル度毎ニ其一方ノ者
ハ之レカ補償ヲ爲ス可キモノトス(民五五三三五五二四〇六一四〇九一四一以下一
四二二二四二三二四六八二四六九二四七三二五一〇二五五四二一三三)

第千四百三拾八條 若シ父母ニ於テ其分擔セント欲スル所ノ部分ヲ明示セ
ヌシテ相共同シテ共通ノ子ニ嫁資ヲ與ヘタル時ハ共通財産中ノ品物ヲ以
テ其嫁資ヲ供給シ或ハ約束シタルト夫婦中一方ノ者ノ一身上ノ財産ヲ以
テ嫁資ヲ供給シ或ハ約束シタルト問ハス父母ハ各々一半ツ、嫁資ヲ與
ヘタルモノト看做ス可シ

右第二ノ場合ニ於テハ夫婦中ニテ自己ノ一身上ノ不動産又ハ品物ヲ嫁資
ニ設定セラレタル一方ノ者ハ贈與ノ時ニ於ケル其贈與シタル品物ノ價額
ニ准シテ右嫁資ノ一半ニ付テノ賠償ノ訴權ヲ他ノ一方ノ者ノ財産ニ付キ

有スルモノトス(民八四三二四二二二二五四四)

第千四百三拾九條 夫一人ヨリ共通財産中ノ品物ヲ以テ共通ノ子ニ設定シ
タル嫁資ハ共通財産ノ責任タリ而シテ婦ノ共通財産ヲ受諾シタル場合ニ
於テハ婦ハ右嫁資ノ一半ヲ擔任セサルヲ得ス但シ夫カ其嫁資ヲ全ク己レ
ニ責任シ又ハ一半ヨリ更ニ多キ部分ヲ己レニ擔任ス可キ旨ヲ明カニ申述
シタル時ハ格別ナリトス(民一四二二)

第千四百四拾條 嫁資ノ擔保ハ之ヲ設定シタル各人ニ於テ負擔ス可シ而シ
テ嫁資ノ利息ハ假令辨濟ノ爲メノ期限アル時ト雖モ結婚ノ日ヨリ生スル
モノトス但シ之ニ反シタル約權アル時ハ格別ナリトス(民一五四七)

○第三節 財産共通ノ解分及ヒ其效果中ノ或者

第千四百四拾壹條 財産共通ハ左ノ諸件ニ依テ解分ス

- 第一 死去
- 第二 准死
- 第三 離婚

第四 分居

第五 財産ノ離分(民三〇六三一―二四四三)

第一千四百四拾貳條 夫婦中一方ノ者ノ死去又ハ准死ノ後ニ於ケル目録ノ欠缺ハ財産共通ヲ繼續スルノ原由タラス但シ關係各人ハ共通ノ財産及ヒ品物ノ組成ニ關シテ訴ヲ起スコトヲ得可ク而シテ其性質ノ証ハ証券并ニ普通ノ評判ニ依テ之ヲ爲スコトヲ得可キモノトス

若シ幼年ノ子アル時ハ目録ノ欠缺ハ右ノ外夫婦中ノ生殘ル者ニ其入額ノ收益ヲ失ハシメ而シテ目録ヲ作ルコトヲ其者ニ強サリシ代後見人ハ幼者ノ利益ノ爲メニ宣告セラルハコトアル可キ總テノ旨渡ヲ其者ト相連帶シテ擔任ス可シ(民三八四七九五―四一五―四五六―四七〇―四七二―四七三―四八二―四八三―四八四―四八五―四八六―四八七)

第一千四百四拾三條 財産ノ離分ハ夫婦ノ嫁資ノ危険ニ附セラレ而シテ夫ノ事業ノ錯亂シタルカ爲メ夫ノ財産ヲ以テ婦ノ權利及ヒ取戻ノ權利ヲ履行セシムルニ足ラサルノ恐レアル時ニ於テ婦ヨリ裁判所ニ之ヲ要求スルコトヲ得可キノミトス

凡ソ任意ノ離分ハ無効ノモノナリ(民一四四七一―五六三―四九八六五以下第六五以下)

第一千四百四拾四條

財産ノ離分ハ夫ノ財産ノ額ニ充ツル迄公正ノ証書ニ依テ成就シタル婦ノ權利及ヒ取戻權利ノ現實ノ辨濟ニ依リ之ヲ執行シ又ハ少クハ裁判ノ後十五日内ニ始メテ其後中斷セサル義務執行ノ請求ニ依リ之ヲ執行シタルニ非サル時ハ假令裁判所ヨリ宣告シタルト雖モ無効ノモノナリ(民一四六三―四七二―八七三)

第一千四百四拾五條

凡ソ財産ノ離分ハ其執行ノ前ニ始審裁判所ノ重立タル廳堂ニ特ニ設ケアル帖上ニ貼附ヲ爲シテ之ヲ公ケニ爲サハル可カラス且ツ右ノ外若シ夫ノ商人銀行者商賣タル時ハ其住所ノ地ノ商事裁判所ノ重立チタル廳堂ニ特ニ設ケアル帖上ニ貼附ヲ爲シテ之ヲ公ケニ爲サハル可カラス若シ然ラサル時ハ其執行ノ效ナカル可シ

財産ノ離分ヲ宣告スル所ノ裁判ハ其效ニ關シテハ請求ノ日ニ溯及スルモノトス(民一一五三―四八七二以下)

第一千四百四拾六條

婦ノ一身上ノ債主ハ婦ノ承諾ナクシテ財産ノ離分ヲ求

ムルヲ得ス

然レハ夫ノ家資分散又ハ破産ノ場合ニ於テハ婦ノ一身上ノ債主ハ其債權ノ額ニ充ツル迄其負債者タル婦ノ權利ヲ執行スルヲ得可シ(民二一六六二四六四二二二)

第一千四百四拾七條 夫ノ債主ハ自己ノ權利ノ詐害ニ於テ宣告セラレ又然ノミナラス執行セラレタル財産ノ離分ニ對シテ上訴スルヲ得可ク又然ノミナラス離分ヲ爭フ爲メ其離分ノ請求ニ付テノ訴訟ニ參加スルヲ得可シ(民二一六七二四六四四八七二八七三)

第一千四百四拾八條 財産ノ離分ヲ得タル婦ハ自己ノ資産ト夫ノ資産トニ比准シテ家事ノ費用ト共通ノ子ノ教育ノ費用トヲ分擔セサルヲ得ス若シ夫ニ何等ノモノモ存セサル時ハ婦ニ於テ全ク此等ノ費用ヲ負擔セサルヲ得ス(民二〇三二二以下二一四一五三七二五七五)

第一千四百四拾九條 居ト財産トヲ離分シ若クハ財産ノミヲ離分シタル婦ハ其財産ノ自由ナル管理ヲ取戻スモノトス

其婦ハ自己ノ動産ヲ所分シ及ヒ其所有權ヲ移轉スルヲ得可シ

其婦ハ夫ノ承諾ナク又夫ノ否拒ニ於テハ裁判所ノ許可ヲ受クルヲ得可シテ自己ノ動産ノ所有權ヲ移轉スルヲ得ス(民二一七一八八二二二二二三四一五三六以下二五四九一五六三二五九五二七一九二七二八)

第一千四百五拾條 夫ハ離分シタル婦カ裁判所ノ許可ヲ受ケテ所有權ヲ移轉セシ不動産ノ代金ノ益用又ハ再用ノ欠缺ニ付キ其擔保者タラサルモノトス但シ夫ノ其契約ヲ助成シ又ハ夫ノ其金額ヲ收受シ又ハ其金額ノ夫ノ利益トナリタルノ証アル時ハ格別ナリトス

若シ夫ノ立會ニテ且ツ其承諾ヲ以テ右ノ賣拂ヲ爲シタル時ハ夫ハ其益用又ハ再用ノ欠缺ノ擔保者タリ但シ夫ハ其益用ノ有益ナルヲ付テハ之レカ擔保者タラサルモノトス

第一千四百五拾壹條 居ト財産トノ離分若クハ財産ノミノ離分ニ依リ解分シタル財産共通ハ雙方ノ承諾ヲ以テ之ヲ復スルヲ得可シ其財産共通ハ公証人ノ面前ニ於テ作リタル証書ニ依ルニ非サレハ之ヲ復

スルヲ得ス但シ其証書ノ細字ノ正本ヲ存シ置キ而シテ其副本ヲ第千四百四十五條ノ法式ヲ以テ貼附セサル可カラズ

此場合ニ於テハ其復シタル財産共通ハ結婚ノ日以來ノ其效ヲ取戻シ事物ヲ其離分アラサリシ時ト同一ノ景狀ニ復セシム可シ然レハ其間ニ於テ第千四百四十九條ニ從ヒ婦ノ行ヒタルコトアル可キ所爲ノ執行ト相觸ル、コトナカル可シ

夫婦ノ以前財産共通ヲ規定セシモノト異ナリタル條件ヲ以テ其財産共通ヲ復セントスル總テノ合意ハ無効ノモノナリ(民一三九四、一四四五、四八七二)

第千四百五拾貳條 離婚ニ依リ又ハ居ト財産トノ離分若クハ財産ノミノ離分ニ依リ爲シタル財産共通ノ解分ハ婦ノ生殘ノ權利ヲ開始セサルモノトス然レハ婦ハ其夫ノ死去又ハ准死ノ時ニ於テ右ノ權利ヲ執行スルノ權能ヲ保存ス(民三二二、四四三以下、一五一八)

○第四節 共通財産ノ受贈及ヒ共通財産ニ付キ爲スコトヲ得可キ拋棄并ニ之ニ關スル條件

第千四百五拾三條 財産共通解分ノ後婦又ハ其相續人及ヒ受贈人ハ其共通財産ヲ受贈シ又ハ之ヲ拋棄スルノ權能ヲ有スルモノトス但シ之ニ反シタル總テノ合意ハ無効ノモノナリ(民一四六三、一四六六、一四九二)

第千四百五拾四條 共通財産中ノ財産ニ干渉シタル婦ハ其共通財産ヲ拋棄スルコトヲ得ス

純粹ニ管理上又ハ保存上ノ所爲ハ干渉ヲ惹起セサルモノトス(民七七八、七七九、一四六三)

第千四百五拾五條 一箇ノ証書ニ於テ共通者タルノ分限ヲ取リタル成年ノ婦ハ目錄ヲ作ラサル前ニ其分限ヲ取リタル時ト雖モ最早其分限ヲ拋棄スルコトヲ得ス又其分限ニ對シテ回復スルコトヲ得ス但シ夫ノ相續人ノ方ニ詎欺アル時ハ格別ナリトス(民一一六以下)

第千四百五拾六條 共通財産ヲ拋棄スルノ權能ヲ保存セント欲スル生殘リタル婦ハ夫ノ死去ノ日より三月内ニ夫ノ相續人ト相對シ又ハ法ニ適シテ其相續人ヲ招喚シタル上共通財産中ノ總テノ財産ノ誠實正確ナル目錄ヲ

作ラシメサルヲ得ス

其目錄ハ其終成ノ時ニ當リ之ヲ作リシ公ケノ役員ノ面前ニ於テ婦其眞實眞正ナル旨ヲ確言セサルヲ得ス(民七九三、一四五七、一四九九、一四六六、九四一以下)

第一千四百五拾七條 其婦ハ夫ノ死去ノ後三月ト四十日内ニ夫ノ住處ヲ有セシ郡ノ始審裁判所ノ書記局ニ其拋棄ヲ爲サ、ルヲ得ス但シ其証書ハ財産相續ノ拋棄ヲ受クル爲メニ設ケタル簿冊ニ之ヲ記入セサルヲ得サルモノトス(民七八四、一四六一、一四六五、八七四、九九七)

第一千四百五拾八條 寡婦ハ景況ニ從ヒ其拋棄ノ爲メ前條ニ定メタル期限ノ猶豫ヲ始審裁判所ニ訟求スルヲ得可シ但シ其猶豫ハ別段ノ道理アル時ハ夫ノ相續人ト相對シ又ハ法ニ適シテ其相續人ヲ招喚シタル上之ヲ宣告ス可シ(民七九八、一四六一)

第一千四百五拾九條 前ニ定メタル期限内ニ拋棄ヲ爲サ、リシ寡婦ハ干涉スルコトナク而シテ目錄ヲ作リタルニ於テハ拋棄スルノ權能ヲ失ハサルモノトス唯其寡婦ハ拋棄スルニ至ル迄ハ共通者トシテ訴ヲ受クルコトアル可ク

而シテ其拋棄ニ至ル迄己レニ對シテ爲サレタル費用ヲ負擔ス可キモノトス

其寡婦ハ三月ニ至ラサル前ニ目錄ヲ終成シタル時ハ其目錄ノ終成ヨリ四十日ノ經過セシ後ニ亦訴ヲ受クルコトアル可シ(民八〇、一四六一以下)

第一千四百六拾條 共通財産中ノ或ル品物ヲ竊取シ又ハ隱匿シタル寡婦ハ其拋棄ニ拘ハラヌ共通者ナリト宣告セラル可シ又其寡婦ノ相續人ニ關シテモ之ト同一ナリトス(民七九三、一四七七、一四八三)

第一千四百六拾壹條 若シ寡婦ノ目錄ヲ作ラヌ又ハ之ヲ完了セヌシテ三月ノ經過セサル前ニ死去シタル時ハ其相續人ハ目錄ヲ作り又ハ之ヲ完了スル爲メ寡婦ノ死去ヨリ起算シテ更ニ新タナル三月ノ期限ト其目錄終成ノ後熟考スル爲メノ四十日ノ期限ト有ス可シ

若シ寡婦ノ其目錄ヲ完了セシ上ニテ死去シタル時ハ其相續人ハ熟考ヲ爲ス爲メニ其死去ヨリ起算シテ更ニ新タナル四十日ノ期限ヲ有ス可シ其相續人ハ右ノ外前ニ定メタル法式ヲ以テ共通財産ヲ拋棄スルヲ得可

ク而シテ第千四百五十八條及ヒ第千四百五十九條ハ其相續人ニ適用ス可
キモノトス(民一四六六一四七五二四九一)

第千四百六拾貳條 第千四百五十六條以下ノ成規ハ准死者ノ婦ニ其准死ノ
始マリタル時ヨリ之ヲ適用ス可キモノトス

第千四百六拾三條 離婚セラレ又ハ分居セラレタル婦ノ其離婚又ハ分居ノ
確定ノ宣告アリシ後三月ト四十日内ニ共通財産ヲ受諾セサル時ハ之ヲ拋
棄シタルモノト看做ス可シ但シ其婦ノ猶期限内ニ在リテ夫ト相對シ又ハ
法ニ適シテ夫ヲ招喚シタル上裁判上ニテ其猶豫ヲ得タル時ハ格別ナリト
ス(民三一四四五)

第千四百六拾四條 婦ノ債主ハ自己ノ債權ノ詐害ニ於テ婦又ハ其相續人ノ
爲シタル拋棄ヲ取消サント求メ而シテ此等ノ者ノ權利ニ依リ共通財産ヲ
受諾スルコトヲ得可シ(民七八八一六七)

第千四百六拾五條 寡婦ハ其受諾スルト拋棄スルトヲ問ハス目錄ヲ作り及
ヒ熟考スル爲メニ附與セラレタル三月ト四十日ノ間ハ自己ノ飲食料及ヒ

其雇人ノ飲食料ヲ現存スル所ノ貯品中ヨリ取り用ヒ若シ其欠缺ニ於テハ
共通財産合部ノ計算ニ於ケル金額借入ニ依リ右ノ飲食料ヲ取り用フルノ
權利アリ但シ其飲食料ハ節約シテ之ヲ用フ可キノ責任アリトス
寡婦ハ右ノ期限間共通財産ニ附屬スル家屋又ハ夫ノ相續人ニ屬スル家屋
内ニ爲シタル住居ノ爲メニ或モ其借賃ヲ負擔スルコトナシ又財産共通解分
ノ時期ニ於テ夫婦ノ住居セシ家屋カ借賃ノ名義ヲ以テ之ヲ借受ケシモノ
タル時ハ婦ハ同上ノ期限間ハ右ノ借賃ノ辨濟ヲ分擔セシテ財産合部中
ヨリ其借賃ヲ取り用フ可キモノトス(民一四九五二五七〇)

第千四百六拾六條 婦ノ死去ニ依リ財産共通ノ解分シタル場合ニ於テハ婦
ノ相續人ハ法律上ニテ生殘リタル婦ノ爲メニ定メタル所ノ期限ト法式ト
ニ於テ共通財産ヲ拋棄スルコトヲ得可シ(民一四五三二四七五二四九一)

第五節 受諾ノ後共通財産ノ分派

第千四百六拾七條 婦又ハ其相續人ノ共通財産ヲ受諾シタル後ハ以下ニ定
メタル方法ヲ以テ其能働件ヲ分派シ及ヒ其所働件ヲ負擔ス可シ(民八一五一

四〇二四。九一四五以下一四六八以下一五二二)

○第壹款 能働件ノ分派

第千四百六拾八條 夫婦又ハ其相續人ハ本章第一部第二節ニ於テ前ニ定メタル規則ニ從ヒ補償又ハ賠償ノ名義ヲ以テ共通財産ニ對シテ償ヲ負ヒタル所ノ諸件ヲ其現存スル財産ノ合部中ニ返還ス(民一四二以下一四三五以下)

第千四百六拾九條 夫婦中ノ各自又ハ其相續人ハ夫婦中ノ各自カ他婚ノ子ニ嫁資ヲ與フル爲メ又ハ共通ノ子ニ己レ一身上ニテ嫁資ヲ與フル爲メ共通財産中ヨリ引キ出シタル金額又ハ共通財産中ヨリ取り用ヒタル財産ノ價額ヲ亦同シク返還ス(民八四三以下四三九一五四四二。九三)

第千四百七拾條 夫婦中ノ各自又ハ其相續人ハ財産ノ合部中ヨリ左ノ諸件ヲ先收ス

- 第一 共通財産中ニ入ラサル自己ノ一身上ノ財産カ原品ノ儘ニテ存在スル時ハ其財産又ハ再用ノ爲メニ獲得シタル財産
- 第二 財産共通ノ間ニ所有權ヲ移轉シ而シテ其再用ヲ爲サ、リシ自己

ノ不動産ノ代價

第三 共通財産ヨリ己レニ對シテ負擔シタル賠償(民一四〇四以下一四一九一四三一以下一五〇二以下一五一五以下附五五七)

第千四百七拾壹條 婦ノ先收ハ夫ノ先收ノ前ニ之ヲ執行スルモノトス其先收ハ最早原品ノ儘ニテ存在セサル所ノ財産ニ付テハ先ツ共通財産中ノ金圓ニ付キ之ヲ執行シ次キニ共通財産中ノ動産ニ付キ之ヲ執行シ尙ホ補助ノ爲メ共通財産中ノ不動産ニ付キ之ヲ執行スルモノトス但シ此最後ノ場合ニ於テハ婦及ヒ其相續人ニ不動産ノ撰擇權ヲ附與ス可シ(民八三二以下一四一五以下一四七〇以下一四八三以下一四九三以下一四九四附五五七)

第千四百七拾貳條 夫ハ共通財産中ノ財産ノミニ付キ其取戻ノ權利ヲ執行スルコトヲ得可シ

婦及ヒ其相續人ハ共通財産ノ不足ナル場合ニ於テハ夫ノ一身上ノ財産ニ付キ其取戻ノ權利ヲ執行ス(民八八三以下一四三六以下一四七〇以下一四七六以下一五二二以下附五五七)

第一千四百七拾三條 共通財産ヨリ夫婦ニ對シテ負擔シタル再用及ヒ補償并ニ夫婦ヨリ共通財産ニ對シテ負擔シタル補償及ヒ賠償ハ財産共通解分ノ日ヨリ當然利息ヲ惹起ス(民一四四二一四七九)

第一千四百七拾四條 夫婦雙方ノ總テノ先收ヲ合部中ニ付キ執行シタル後ハ其殘餘ヲ夫婦又ハ之ニ代ハル者ノ間ニ一半ツ、分派ス(民一四八三二一五七二)

第一千四百七拾五條 若シ婦ノ相續人數名ノ互ニ其意見ヲ異ニシテ其中ノ或者ハ共通財産ヲ受諾シ他ノ者ハ之ヲ拋棄シタル時ハ其受諾シタル者ハ婦ノ區分ニ入りタル財産中ニ於テ自己ノ分頭ニシテ且ツ相續スル部分ナラデハ收取スルコトヲ得ス

其殘餘ハ夫ニ於テ之ヲ保存シ而シテ夫ハ其拋棄シタル相續人ニ對シテ婦カ拋棄ノ場合ニ於テ執行スルコトヲ得可キ權利ヲ責任ス可シ然レハ拋棄者ノ相續スル分頭ノ部分ノ額ノヨニ充ル迄之ヲ責任ス可キモノトス(民八七三一四六六二四九二二四九五)

第一千四百七拾六條 右ノ外共通財産ノ分派ハ其法式不動産ノ不分物雜賣ヲ

爲ス可キ時ハ其雜賣分派ノ效分派ヨリ生スル擔保及ヒ補尼金ニ關スル所ノ諸件ニ付テハ共同相續人ノ間ニ於ケル分派ニ付キ財産相續ノ卷ニ定メタル總テノ規則ニ服從ス可シ(民八一五八三三二一〇三三二一〇九九六六)

第一千四百七拾七條 夫婦中ニテ共通財産中ノ或ル品物ヲ竊取シ又ハ隱匿シタル者ハ右ノ品物ニ於ケル自己ノ部分ヲ剝奪セラル、モノトス(民七九二八

〇二四六〇番五九四)

第一千四百七拾八條 成就シタル分派ノ後若シ夫婦中一方ノ者ノ財産ノ代金ヲ他ノ一方ノ者ノ一身上ノ負債ヲ辨濟スルニ用ヒタル時ノ如ク又ハ總テ其他ノ原山ノ爲メ其一方ノ者カ他ノ一方ノ者ノ一身上ノ債主タル時ハ其一方ノ者ハ共通財産中ニテ他ノ一方ノ者ノ受ケタル分ヶ前ニ付キ又ハ他ノ一方ノ者ノ一身上ノ財産ニ付キ自己ノ債權ヲ執行ス(民一四三三二)

第一千四百七拾九條 夫婦ノ一方カ他ノ一方ニ對シテ執行ス可キ一身上ノ債權ハ裁判所ニ於ケル請求ノ日ヨリ後ニ非サレハ利息ヲ生セズ(民一一五三二四

四〇一四七三二五七〇)

第一千四百八拾條 夫婦中ノ一方ヨリ他ノ一方ニ爲スコアリタル贈與ハ共通財産中ニ於ケル贈與者ノ分ケ前及ヒ其贈與者ノ一身上ノ財産ノミニ付キ之ヲ執行ス(民一〇九一以下)

第一千四百八拾壹條 婦ノ喪服ハ既ニ死去セシ夫ノ相續人ノ費用タル可シ其喪服ノ價額ハ夫ノ家産ニ准シテ之ヲ規定ス可シ

共通財産ヲ拋棄シタル婦ニ付テモ亦右ト同一ノモノヲ擔任ス可シ(民一四九二一五七〇)

○第貳款 共通財産ノ所働件及ヒ負債ノ分擔

第一千四百八拾貳條 共通財産ノ負債ハ一半ツ、夫婦中ノ各自又ハ其相續人ノ責任ナリ但シ封印目録動産賣捌算定不分物雜賣及ヒ分派ノ費用ハ其負債ノ一部分ヲ爲スコトス(民一四〇九一四五六一四八三二四九〇一五一〇)

第一千四百八拾三條 婦ハ夫ニ對スルト價主ニ對スルトヲ問ハス其利得ノ價ニ充ツル迄ノ外共通財産ノ負債ヲ擔任セズ但シ之レカ爲メニハ善良誠實ナル目録ノ存在シ且ツ右ノ目録中ニ包含シタルモノト分派ニ依リ自己ノ

受ケタル所ノモノトヲ計算スルコトヲ必要トス(民一三二八二四〇九二四三二二四五六一五一〇)

第一千四百八拾四條 夫ハ己レノ契約シタル共通財産ノ負債ヲ其全部ニ付キ擔任ス可シ但シ夫ハ右負債ノ一半ニ付キ婦又ハ其相續人ニ對シテ償還ヲ請求スルコトヲ得可キモノトス(民一四七八二四八三)

第一千四百八拾五條 夫ハ婦ノ一身上ノモノニシテ共通財産ノ責任中ニ加ハリタル負債ニ付テハ其一半ノミヲ擔任ス可シ(民一四一〇以下二四一三以下)

第一千四百八拾六條 婦ハ自己ノ權利上ヨリ生シテ共通財産中ニ入りタル負債ノ全部ニ付キ訴ヲ受クルコトアル可シ但シ婦ハ右負債ノ一半ノ爲メ夫又ハ其相續人ニ對シテ償還ヲ請求スルコトヲ得可キモノトス(民一四一〇二四七八)

第一千四百八拾七條 婦ハ共通財産ノ負債ノ爲メ一身上ニ義務ヲ負ヒタル時ト雖モ其負債ノ一半ノミニ付キ訴ヲ受ク可シ但シ其義務ノ連帶ノモノタル時ハ格別ナリトス(民一二〇〇二四八九)

第一千四百八拾八條 共通財産ノ負債ヲ自己ノ一半以上辨済シタル婦ハ其過分ノ爲メ債主ニ對シテ取戻ノ權利ヲ有セサルモトス但シ受取証書ニ其婦ノ辨済シタルモノハ自己ノ一半タル旨ヲ明示シタル時ハ格別ナリトス
(民一三三三三三三七七)

第一千四百八拾九條 夫婦中一方ノ者ノ其分派ニ依テ受ケタル不動産ニ付キ執行セラレタル書入質ノ効ニ依リ共通財産ノ負債ノ全部ニ付キ訴ヲ受ケタル時ハ其負債ノ一半ノ爲メ他ノ一方ノ者又ハ其相續人ニ對シテ當然償還ヲ請求スルコトヲ得可キモノトス(民八七三三二二四)

第一千四百九拾條 前ノ成規ハ分派ニ依リ共同分派人中ノ一方又ハ他ノ一方ヲシテ負債ノ一半ヨリ更ニ他ノ量額ヲ辨済シ又然ノミナラス全ク之ヲ辨償スルノ責任ヲ受ケシムルノ障碍ヲ爲サハルモノトス
若シ共同分派人中ノ一人ハ其己レニ擔任シタル部分以外ノ共通財産ノ負債ヲ辨済シタル度毎ニ其過分ニ辨済シタル者ヨリ他ノ一方ノ者ニ對シテ償還ヲ請求スルコトヲ得可キモノトス(民一四八二二四八七)

第一千四百九拾壹條 夫又ハ婦ニ關シテ前ニ記シタル諸件ハ其一方ノ者又ハ他ノ一方ノ者ノ相續人ニ關シテ適用ス可ク而シテ其相續人ハ其代ハル所ノ夫婦中一方ノ者ト同一ノ權利ヲ執行シ且ツ之ト同一ノ訴ニ服從ス可シ
(民一四六二二四六六二四七五二四九五)

第六節

共通財産ノ拋棄及ヒ其效

第一千四百九拾貳條 拋棄シタル婦ハ共通財産中ノ財産ニ付キ各種ノ權利ヲ失ヒ又然ノミナラス自己ノ權利上ヨリ共通財産中ニ入りタル動産ニ付テモ各種ノ權利ヲ失フモノトス
其婦ハ唯自己ノ使用ニ於ケル布類及ヒ衣服ノミヲ引取ルモノトス(民一四五三二四六三二四九五二五六六二二四五五五七七以下)

第一千四百九拾三條

拋棄シタル婦ハ左ノ諸件ヲ取戻スノ權利アリ

- 第一 自己ニ屬スル不動産ノ原品ノ儘ニテ存在スル時ハ其不動産又ハ再用ノ爲メ獲得シタル不動産
- 第二 婦ノ不動産ノ所有權ヲ移轉シテ前ニ記シタル如ク其代金ノ再用

ヲ爲シ及ヒ受諾セサル時ハ其代金

第三 共通財産ヨリ婦ニ對シテ負擔スルコトアル可キ總テノ賠償(民一四〇

四一四三三三二四七〇(第五七七以下)

第一千四百九拾四條

拋棄シタル婦ハ夫ニ對スルト債主ニ對スルトヲ問ハス總テ共通財産ノ負債ノ分擔ヲ免除セラル、モノトス○然レハ其拋棄シタル婦ノ其夫ト相合同シテ義務ヲ負ヒタル時又ハ共通財産ノ負債トナリタル負債カ原來其婦ノ權利ヨリ生出セシ時ハ債主ニ對シテ之ヲ擔任ス可シ但シ其婦ハ夫又ハ其相続人ニ對シテ償還ヲ請求スルコトヲ得可キモノトス(民一四三三二四八六)

第一千四百九拾五條

拋棄シタル婦ハ共通財産中ノ財産ト夫ノ一身上ノ財産トニ付キ前ニ詳記シタル總テノ訴權及ヒ取戻ノ權利ヲ執行スルコトヲ得可シ其婦ノ相続人モ亦同シク右ノ權利ヲ執行スルコトヲ得可シ但シ布類及ヒ衣服ノ先收並ニ目錄ヲ作り及ヒ熟考スル爲メニ附與セラレタル期限間ノ住

居及ヒ飲食料ニ關スルモノハ格別ニシテ此等ノ權利ハ純粹ニ生殘リタル婦ノ一身上ノモノトス(民一〇五四一四六五二四九二二四九三二五一四)

○夫婦中ノ一方又ハ其雙方共ニ前婚ノ子アル時ニ於ケル法律上ノ財産共通ニ關スル成規

第一千四百九拾六條

前ニ記シタル諸件ハ夫婦中ノ一方又ハ其雙方共ニ前婚ノ子アル時ト雖モ之ヲ遵守ス可シ然レハ若シ動産及ヒ負債ノ混同カ生存中ノ贈與及ヒ遺囑ノ卷第千九十八條ニ許可セラレタル所ニ超ヘタル得益ヲ夫婦中一方ノ者ノ利益ニ於テ爲ス時ハ他ノ一方ノ者ノ前婚ノ子ハ其減削ノ訴權ヲ有スルモノトス(民一〇九八二五二七)

○第貳部

合意上ノ財産共通并ニ法律上ノ財産共通ヲ改樣シ又然ノミナラス之ヲ除斥スルコトヲ得可キ合意

第一千四百九拾七條

夫婦ハ第千三百八十七條第千三百八十八條第千三百八十九條及ヒ第千八百九十條ニ反セサル各種ノ合意ニ依リ法律上ノ財産共

通ヲ改竊スルヲ得可シ
其重立チタル改竊ハ下ニ記スル方法中一ノ者又ハ他ノ者ヲ約權スルニ依
リ生スル所ノモノトス

- 第一 共通財産ニ獲得物ノミヲ包含ス可キ事
- 第二 現在又ハ將來ノ動産ハ共通財産中ニ入ラサル事又ハ一部分ナラ
テハ共通財産中ニ入ラサル事
- 第三 動産ト爲スノ方法ニ依リ現在又ハ將來ノ不動産ノ全部又ハ一
部ヲ共通財産中ニ包含ス可キ事
- 第四 夫婦ノ別々ニ其結婚以前ノ負債ヲ辨濟ス可キ事
- 第五 拋棄ノ場合ニ於テハ夫婦ノ其持參物ヲ負債ヲ免カレテ取戻スヲ得
可キ事
- 第六 生殘ル者ニ於テ先取ヲ有ス可キ事
- 第七 夫婦ノ互ニ不平等ナル分ケ前ヲ有ス可キ事
- 第八 夫婦ノ間ニ全括ノ名義ニ於ケル財産共通ノアル可キ事(民一四九八)

一五〇〇、一五〇五、一五一〇、一五一四、一五一五、一五二〇、一五二六、一五二七以下)

○第壹節 獲得物ニ減セラレタル共通財産

第一千四百九拾八條 若シ夫婦ノ間ニ獲得物ノ財産共通ノミノアル可キ旨ヲ
約權シタル時ハ其各自ノ現在及ヒ將來ノ負債并ニ其相互ノ現在及ヒ將來
ノ動産ヲ共通財産中ヨリ除斥シタリト看做サル可シ
此場合ニ於テハ夫婦各自ニ於テ法ニ適シテ證明セラレタル自己ノ持參物
ヲ先収シタル後夫婦ノ結婚中ニ相合シテ爲シ又ハ別々ニ爲シタル獲得物
ニシテ其共同ノ勉業ト夫婦ノ財産ノ果實及ヒ入額ニ付キ爲シタル節約ト
ヨリ生出シタルモノ、ミニ其分派ヲ限ル可キモノトス(民一四〇、一四三、一四
三五、一四七〇、一四九七)

第一千四百九拾九條 若シ結婚ノ時ニ存在シ又ハ其後ニ受ケタル動産ヲ目錄
又ハ法式ニ適ヒタル景狀書ヲ以テ證明セサル時ハ之ヲ獲得物ト看做ス可
シ(民一四〇、一四五〇、四九三、四九四)

○第貳節 動産ノ全部又ハ一部ヲ共通財産ヨリ除斥スルノ約

款

第一千五百條 夫婦ハ其現在及ヒ將來ノ動産全部ヲ其共通財産ヨリ除斥スル
コトヲ得可シ

若シ夫婦ニ於テ定マリタリ金額又ハ價額ニ充ツル迄相互ニ其動産ヲ共通
財産中ニ加フ可キ旨ヲ約權シタル時ハ此事ノミニ依リ其餘ノモノヲ己レ
ニ貯存シタリト看做サル可シ(民一四二八、一五〇三以下)

第一千五百壹條 右ノ約款ハ夫婦ヲシテ共通財産ニ對シ其共通財産中ニ加ヘ
ント約務シタル金額ノ負債者トナラシメ且ツ之ヲシテ其持參ヲ證明スル
ノ義務ヲ負ハシム(民一八四五)

第一千五百貳條 其持參ハ夫ニ付テハ婚姻ノ契約書ニ其動産ハ云々ノ價額ヲ
ル旨ノ申述ヲ記載シタルニ依リ充分ニ證明セラレタルモノトス

其持參ハ婦ニ付テハ夫ヨリ婦ニ附與シタル受取證書又ハ婦ニ嫁資ヲ與ヘ
タル者ニ附與シタル受取證書ニ依リ充分ニ證明セラレタルモノトス

第一千五百三條 夫婦各自ハ結婚ノ時ニ持參シタル動産又ハ其後ニ受ケタル

動産カ其共通財産中ニ加フ可キ旨ヲ定メシ額ニ過キタルモノ、價額ヲ財
産共通解分ノ時ニ於テ取戻シ及ヒ先收スルノ權利アリ(民一四七〇、一五三二、
五五一)

第一千五百四條 結婚中ニ夫婦各自ノ受ケタル動産ハ目錄ヲ以テ之ヲ證明セ
サルヲ得ス

夫ノ受ケタル動産ノ目錄ノ欠缺又ハ負債ヲ引去リタル其動産ノ組成及ヒ
價額ヲ證明スルニ適當ナル証券ノ欠缺ニ於テハ夫ハ其動産ノ取戻ノ權利
ヲ執行スルコトヲ得ス

若シ目錄ノ欠缺カ婦ノ受ケタル動産ニ係ル時ハ婦又ハ其相續人ハ証券ニ
依リ若クハ証人ニ依リ若クハ然ノミナラス普通ノ評判ニ依リ其動産ノ價
額ヲ証スルコトヲ許サル、モノトス(民一四一五、九四三)

○第三節 動産ト爲スコトノ約款

第一千五百五條 若シ夫婦雙方又ハ其中ノ一方カ其現在又ハ將來ノ不動産ノ
全部又ハ一部ヲ共通財産中ニ入ラシムル時ハ此約款ヲ名ケテ動産ト爲ス

事ト云フ(民一四〇二一四九八、一四九九一五〇六一五〇七)

第一千五百六條 動産ト爲ス事ハ特定ノモノタリ又ハ不特定ノモノタルヲ得可シ

若シ夫婦ニ於テ云々ノ不動産ノ全部又ハ云々ノ不動産ヲ特定ノ金額ニ充ツル迄動産ト爲シテ共通財産中ニ加フ可キ旨ヲ申述シタル時ハ之ヲ特定ノモノトス

若シ夫婦ニ於テ特定ノ金額ニ充ツル迄自己ノ不動産ヲ共通財産中ニ持參ス可キ旨ヲ單一ニ申述シタル時ハ之ヲ不特定ノモノトス

第一千五百七條 特定ノモノタル動産ト爲ス事ノ效ハ之ヲ受ケタル一箇又ハ數箇ノ不動産ヲ動産自カラノ如クニ共通財産中ノ財産ト爲スニ在リトス。若シ婦ノ一箇又ハ數箇ノ不動産ヲ全ク動産ト爲シタル時ハ夫ニ於テ共通財産中ノ其他ノ品物ノ如クニ之ヲ所分シ且ツ全ク其所有權ヲ移轉スルヲ得可シ

若シ其不動産ヲ特定ノ金額ノミニ付キ動産ト爲シタル時ハ夫ハ其婦ノ承

諾ヲ得ルニ非サレハ之レカ所有權ヲ移轉スルヲ得ス然レハ夫ハ其動産ト爲シタル部分ノ額ノミニ充ツル迄ハ婦ノ承諾ナクシテ之ヲ書入質ト爲スヲ得可シ(民一五〇九一五一二二二四)

第一千五百八條 不特定ノモノタル動産ト爲ス事ハ共通財産ヲシテ之ヲ受ケタル不動産ノ所有者トナラシムルヲナク其效ハ夫婦中ニテ之ヲ承諾セシ一方ノ者ヲシテ財産共通解分ノ時ニ至リ己レノ約務シタル金額ニ充ツル迄自己ノ不動産中ノ或者ヲ財産合部中ニ包含スルノ義務ヲ負ハシムルノミニ止マルモノトス

夫ハ前條ニ於ケル如ク不特定ノモノタル動産ト爲スノ約款ヲ設ケタル不動産ノ全部又ハ一部ヲ婦ノ承諾ナクシテ所有權ヲ移轉スルヲ得ス然レハ夫ハ其動産ト爲シタル額ニ充ツル迄其不動産ヲ書入質ト爲スヲ得可シ(民一四二二二二三四)

第一千五百九條 夫婦中ニテ其不動産ヲ動産ト爲シタル一方ノ者ハ分派ノ時ニ至リ其不動産ノ當時ノ代價ヲ以テ之ヲ自己ノ分ケ前中ニ先算シテ其不

動産ヲ留置クノ權能ヲ有シ又其者ノ相續人モ之ト同一ノ權利ヲ有スルモ
ノトス(民一四七四)

○第四節 負債離分ノ約款

第一千五百拾條 夫婦ニ於テ其身上ノ負債ヲ別々ニ辨濟ス可キ旨ヲ約權ス
ル所ノ約款ハ財産共通解分ノ時ニ至リ夫婦中ニテ其負債者タリシ一方ノ
者ノ義務免除ノ爲メ共通財産ヨリ辨償シタリト証明セラレタル負債ニ付
キ相互ニ補償ヲ爲ス可キノ義務ヲ負ハシム
右ノ義務ハ目錄ノアルト否トヲ問ハス相同シカル可シ然レモ若シ夫婦ノ
持參シタル動産ヲ目錄又ハ結婚前ノ公正ノ景狀書ニ依テ証明セサル時ハ
夫婦中ノ一方又ハ他ノ一方ノ債主ハ其要求セラレタル差別ニ毫モ拘ハラ
ズシテ其目錄ヲ作ラサル動産並ニ共通財産中ノ總テ其他ノ財産ニ付キ其
辨濟ヲ請求スルヲ得可シ
財産共通ノ間ニ夫婦ノ受ケタル動産ヲ右ニ同シク目錄又ハ公正ノ景狀書
ニ依テ証明セサル時ハ債主ハ其動産ニ付キ右ト同一ノ權利ヲ有スルモノ

トス(民一四三七一四七八一四八二)

第一千五百拾壹條 若シ夫婦ノ特定ノ金額又ハ特定物ヲ共通財産中ニ持參シ
タル時ハ此クノ如キ持參ハ其持參物ヲ結婚前ノ負債ヲ負ハサルノ承認ノ
合意ヲ爲シタルモノトス而シテ其約務シタル持參物ヲ減少スル所ノ總テ
ノ負債ハ夫婦中ニテ其負債者タル一方ノ者ヨリ他ノ一方ノ者ニ之ヲ補償
セサルヲ得ス(民一四七八)

第一千五百拾貳條 負債離分ノ約款ハ結婚ノ後ニ生シタル利息及ヒ年金ヲ共
通財産ノ責任ト爲スノ妨ケトナルヲナシ(民一四〇九ノ第二及ヒ第三)

第一千五百拾三條 若シ共通財産カ契約ニ依リ結婚前ノ總テノ負債ヲ免カレ
タリト申述セラレタル夫婦中一方ノ者ノ負債ノ爲メニ訴ヲ受クル時ハ其
配偶者ハ共通財産中ニテ負債者タル一方ノ者ノ受クル所ノ分ケ前若クハ
其一方ノ者ノ一身上ノ財産ヲ以テ收取ス可キ賠償ヲ得ルノ權利ヲ有スル
モノトス而シテ其不足ノ場合ニ於テハ右一方ノ者ノ負債ヲ免カレタリト
申述セシ父母尊屬親又ハ後見人ニ對シ擔保ノ方法ヲ以テ右ノ賠償ヲ請求

スルヲ得可シ

若シ其負債カ婦ノ權利ニ由來シタル時ハ財產共通ノ間ト雖モ夫ヨリ右ノ擔保ヲ執行スルヲ得可シ但シ此場合ニ於テハ財產共通解分ノ後ニ至リ婦又ハ其相續人ヨリ擔保者ニ償還ヲ爲サ、ルヲ得サルモノトス(民一四一〇、一四四〇、一四七八)

○第五節

婦ノ其持參物ヲ負債ヲ免カレテ取戻スヲ得セシムル爲メ其婦ニ附與シタル權能

第一千五百拾四條 婦ハ共通財產ヲ拋棄スル場合ニ於テ結婚ノ時若クハ其後ニ持參シタル所ノモノ、全部又ハ一部ヲ取戻ス可キヲ約權スルヲ得可シ然レハ其約權ハ明確ニ表示セラレタル物件ノ外ニ之ヲ及ホスヲ得ス又指定セラレタル者ヨリ更ニ他ノ各人ノ利益ニ於テ之ヲ及ホスヲ得ス故ニ婦ノ結婚ノ時ニ持參シタル動産ヲ取戻ス可キノ權能ハ結婚中ニ受ケタル動産ニ及ハス故ニ又婦ニ附與セラレタル權能ハ其子ニ及ハス又婦及ヒ其子ニ附與セラ

レタル權能ハ尊屬又ハ傍系ノ相續人ニ及ハス

如何ナル場合ニ於テモ持參物ハ共通財產ヨリ辨償シタル婦ノ一身上ノ負債ヲ引去ルニ非サレハ之ヲ取戻スヲ得ス(民一五二五前五七七以下)

○第六節

合意上ノ先取

第一千五百拾五條 夫婦中ノ生殘ル者ニ於テ總テ分派ノ前ニ特定ノ金額又ハ動産ノ特定ノ分量ヲ原品ノ儘ニテ先收スルヲ許可セラル、所ノ約款ハ生殘リタル婦ノ共通財產ヲ受諾スル時ニ非サレハ其婦ノ利益ニ於テ其先收ノ權利ヲ附與セス但シ婚姻ノ契約ニ假令拋棄スルト雖モ右ノ權利ヲ婦ニ貯存シタル時ハ格別ナリトス

右貯存ノ場合ノ外ハ其先取ハ分派ス可キ財產合部ノミニ付キ之ヲ執行ス可ク既ニ死去セシ配偶者ノ一身上ノ財產ニ付キ之ヲ執行ス可カラズ(民一〇九二、一〇九五三、一五一九)

第一千五百拾六條 先取ハ贈與ノ法式ニ從フタル一箇ノ得益ナリト看做ス可カラズ一箇ノ婚姻ノ合意ナリト看做ス可シ(民一〇九二、一〇九八、一五二七)

第一千五百拾七條 死去又ハ准死ハ先取ヲ開始ス

第一千五百拾八條 若シ離婚ニ依リ又ハ分居ニ依テ財產共通ノ解分シタル時ハ先取物ノ現在ノ引渡ヲ爲スコトハ然レモ夫婦中ニテ離婚若クハ分居ヲ得タル一方ノ者ハ生殘ノ場合ニ於テハ自己ノ先取ノ權利ヲ保存スルモノトス○若シ其者カ婦タル時ハ先取ヲ組成スル金額又ハ物件ヲ常ニ必ス假リニ夫ニ保存シ置ク可シ但シ保証人ヲ立ツ可キノ責任アリトス(民三一一一四五二)

第一千五百拾九條 共通財產ノ債主ハ常ニ先取物中ニ包含シタル物品ヲ賣ラシムルノ權利ヲ有ス但シ第一千五百十五條ニ從ヒ夫婦中ノ一方ヨリ償還ヲ請求スルコトヲ得可キモノトス(民一四一六)

○第七節 夫婦各自ニ共通財產中ニ於ケル不平等ノ分ケ前ヲ附與スル所ノ約款

第一千五百貳拾條 夫婦ハ其中ノ生殘ル者又ハ其相續人ニ共通財產中ニ於テ其一半ヨリ更ニ少ナキ分ケ前ノミヲ附與スルニ依リ若クハ其一方ノ者又

ハ其相續人ニ總テ共通財產ニ付テノ權利ノ爲メ特定ノ金額ノミヲ附與スルニ依リ若クハ共通財產ノ全部カ特定ノ場合ニ於テハ夫婦中ノ生殘ル者又ハ其中ノ一方ノ者ノミニ屬ス可キ旨ヲ約權スルニ依リ法律上ニ定メタル平等ノ分派ニ違フコトヲ得可シ(民一五二二二五二四)

第一千五百貳拾壹條 若シ夫婦中一方ノ者又ハ其相續人カ共通財產ノ三分一又ハ四分一ノ如キ其特定ノ分ケ前ナラテハ得可カラサル旨ヲ約權シタル時ハ斯クノ如クニ減セラレタル一方ノ者又ハ其相續人ハ能働件中ニ於テ其收取スル所ノ分ケ前ニ比准スルニ非サレハ共通財產ノ負債ヲ負擔セサルモノトス

若シ其合意カ夫婦中ニテ斯クノ如クニ減セラレタル一方ノ者又ハ其相續人ニ更ニ多分ノ負債ヲ擔任スルヲ強ヒ又ハ其合意カ右負債中ニテ其一方ノ者又ハ其相續人ノ能働件中ヨリ收取スル所ノ分ケ前ニ等シキ分ケ前ヲ負擔スルコトヲ免除スル時ハ其合意ハ無効ノモノタリ(民一二七三二八五五)

第一千五百貳拾貳條 若シ夫婦中一方ノ者又ハ其相續人カ總テ共通財產ニ付

テノ權利ノ爲メ特定ノ金額ナラテハ得ント稱言スルコトヲ得サル旨ヲ約權シタル時ハ其約款ハ共通財産ノ善惡ニ拘ハラヌ又共通財産ノ右ノ金額ヲ辨償スルニ足ルト否トヲ問ハス他ノ一方ノ者又ハ其相続人ニ其合意シタル金額ヲ辨償スルノ義務ヲ負ハシムル所ノ一箇ノ請負ナリトス(民一四六七)

第一千五百貳拾三條 若シ其約款カ夫婦中一方ノ者ノ相続人ノミニ關シテ請負ヲ設定シタル時ハ其一方ノ者ハ自己ノ生殘リタル場合ニ於テハ法律上一半ノ分派ヲ得ルノ權利アリトス(民一四六七以下)

第一千五百貳拾四條 第一千五百二十條ニ表示シタル約款ニ據リ共通財産ノ全部ヲ留メ置ク所ノ夫又ハ其相続人ハ共通財産ノ總テノ負債ヲ辨償ス可キノ義務アリトス

債主ハ此場合ニ於テハ婦ニ對シテモ又其相続人ニ對シテモ一箇ノ訴權ヲ有セサルモノトス

若シ生殘リタル婦ニ於テ合意シタル金額ヲ辨償スルニ依リ夫ノ相続人ニ對シテ共通財産ノ全部ヲ留メ置クノ權利ヲ有スル時ハ其婦ハ夫ノ相続人ニ

ニ右ノ金額ヲ辨償シテ總テノ負債ヲ擔任シ又ハ共通財産ヲ拋棄シテ其財産及ヒ責任ヲ夫ノ相続人ニ委付スルコト自由ナリトス(民一四九二以下)

第一千五百貳拾五條 夫婦ハ共通財産ノ全部カ其生殘ル者又ハ其中ノ一方ノ者ノミニ屬ス可キ旨ヲ約權スルコトヲ許サル、モノトス但シ他ノ一方ノ者ノ相続人ハ其先人ノ權利ヨリシテ共通財産ニ加ハリタル持參物及ヒ元金ノ取戻ヲ爲スコトヲ得可シ

此約權ハ本案ニ付テモ又ハ法式ニ付テモ贈與ニ關スル規則ニ從フタル一箇ノ得益ナリト看做ス可カラヌ唯單一ニ婚姻ノ合意ニシテ且ツ社買間ノ合意ナリト看做ス可シ(民九三二、九四二、九八一、四九八、四九九、一五〇、七一五、二〇、一五二七)

○第八節 全括ノ名義ニ於ケル財産共通

第一千五百貳拾六條 夫婦ハ其婚姻ノ契約ニ依リ現在ト將來トノ動産并ニ不動産ノ全括ノ財産共通又ハ總テ其現在ノ財産ノミノ全括ノ財産共通又ハ總テ其將來ノ財産ノミノ全括ノ財産共通ヲ釐定スルコトヲ得可シ

○前八節ニ共通ノ成規

第一千五百貳拾七條 前八節ニ記シタル處ハ合意上ノ財産共通ニ付キ爲スヲ得可キ約權ヲ其各節ニ明記シタル成規ニ制限セス
夫婦ハ第一千三百八十七條ニ記シタル如ク總テ其他ノ合意ヲ爲スヲ得可シ但シ第一千三百八十八條第一千三百八十九條第一千三百九十條ニ記シタル改換ニ從ハサルヲ得ス

然レハ前婚ノ子アル場合ニ於テハ夫婦中一方ノ者ニ生存中ノ贈與及ヒ遺囑ノ卷第一千九十八條ニ規定セラレタル部分以外ヲ附與スルニ至ル可キノ效アル總テノ合意ハ凡ソ右ノ部分ニ過キタル諸件ニ付テハ其效ナカル可シ然レハ共同ノ勞力及ヒ夫婦雙方ノ各自ノ入額ノ假令相等シカラスト雖ハ其各自ノ入額ニ付キ爲シタル節約ヨリ生ズル所ノ單一ナル利益ハ前婚ノ子ノ損害ニ於テ爲シタル得益ナリト看做ス可カラス(民一〇九八)

第一千五百貳拾八條 合意上ノ財産共通ハ契約ニ依リ暗黙又ハ明白ニ法律上ノ財産共通ニ違フタルトナキ總テノ場合ニ付テハ法律上財産共通ノ規則

ニ服從ス可キモノトス(民一四九七)

○第九節 財産共通ヲ除斥スル合意

第一千五百貳拾九條 若シ夫婦カ嫁資ノ制ニ服從スルトナク共通財産ナクシテ結婚シ又ハ財産ヲ離分シタル旨ヲ申述スル時ハ其約權ノ效ハ以下ノ如ク之ヲ規定ス(民一三八七―三九一以下)

○第一欸 夫婦ノ共通財産ナクシテ結婚スル旨ヲ定ムル約

欸

第一千五百三拾條 夫婦ノ共通財産ナクシテ結婚スル旨ヲ定ムル約欸ハ婦ニ自己ノ財産ヲ管理スルノ權利ヲ附與セス又其財産ノ果實ヲ收取スルノ權利ヲ附與セス此等ノ果實ハ結婚中ノ責任ヲ維持スル爲メ夫ニ持參シタルモノト看做ス可シ(民二〇三三―二四一四。二四二二―二五四〇。二五四九―二五七五)

第一千五百三拾壹條 夫ハ婦ノ動産及ヒ不動産ノ管理ヲ保存シ依テ又婦ノ嫁資トシテ持參シタル總テノ動産又ハ結婚中ニ婦ノ受ケタル總テノ動産ヲ收取スルノ權利ヲ保存ス但シ夫ハ婚姻解分ノ後又ハ裁判所ヨリ宣告セラ

レタル財産離分ノ後ニ至リテ之レカ返還ヲ爲サ、ルヲ得サルモノトス(民
一四二二)

第一千五百三拾貳條 若シ婦ノ嫁資トシテ持參シタル動産又ハ結婚中ニ婦ノ
受ケタル動産中ニ消耗スルコトナクシテ使用スルコトヲ得サル物アル時ハ婚
姻ノ契約書ニ之レカ評價目錄ヲ添ヘ又ハ其之ヲ受クル時ニ於テ之レカ目
録ヲ作ラサル可カラス而シテ夫ハ其評價ニ從ヒ之レカ代金ヲ返サ、ルヲ
得ス(民五八七)

第一千五百三拾三條 夫ハ使用收益權ノ總テノ責任ヲ擔任ス可シ(民六〇〇以下、
五六二一五八〇)

第一千五百三拾四條 本款ニ表示シタル約款ハ婦ノ毎年自己ノ受取証書ノミ
ヲ以テ已レノ保育及ヒ己レノ一身上ノ需要ノ爲メ其入額ノ特定ノ一部分
ヲ收受ス可キ旨ヲ合意スルノ障碍ヲ爲サ、ルモノトス(民一五四九)

第一千五百三拾五條 本款ノ場合ニ於テ嫁資ニ設定セラレタル不動産ハ所有
權ヲ移轉ス可カラサルモノニ非ス

然レハ其不動産ハ夫ノ承諾ナクシテ其所有權ヲ移轉スルコトヲ得ス又夫ノ
否認ニ於テハ裁判所ノ許可ナクシテ其所有權ヲ移轉スルコトヲ得ス(民二一七
以下六一八一五五四以下)

○**第貳款** 財産離分ノ約款

第一千五百三拾六條 若シ夫婦ノ其婚姻ノ契約ニ依リ財産ヲ離分ス可キ旨ヲ
約權シタル時ハ婦ハ自己ノ動産及ヒ不動産ノ完全ノ管理ト自己ノ入額ノ
自由ナル收益トヲ保存ス(民一四四九一五七六)

第一千五百三拾七條 夫婦各自ハ其契約書ニ包含シタル合意ニ從ヒ結婚中ノ
責任ヲ分擔ス而シテ若シ此事ニ關シテ合意ノ存在セサル時ハ婦ハ自己ノ
入額ノ三分一ニ充ツル迄右ノ責任ヲ分擔ス(民二〇三以下、一四四八一五七五)

第一千五百三拾八條 如何ナル場合ニ於テモ又如何ナル約權ノ爲メナリハ婦
ハ其夫ノ特別ノ承諾ナクシテ自己ノ不動産ノ所有權ヲ移轉スルコトヲ得ス
又夫ノ否認ニ於テハ裁判所ノ許可ヲ受クルコトナクシテ自己ノ不動産ノ所
有權ヲ移轉スルコトヲ得ス

凡ソ婚姻ノ契約ニ依リ若クハ其後ニ婦ニ其不動産ノ所有權ヲ移轉スルノ一般ノ許可ヲ附與シタルト雖モ其許可ハ無効ノモノナリ(民二一七一五七六前七)

第一千五百三拾九條 若シ離分シタル婦ノ其自己ノ財産ノ收益ヲ夫ニ委付シタル時ハ夫ハ其婦ヨリ受クルコトアル可キ認求ノ上若クハ婚姻ノ解分ニ至リ現ニ存在スル果實ヲ差出スコトヲミテ擔任ス可ク而シテ夫ハ當時ニ至ル迄消耗シタル果實ヲ計算スルニ及ハス(民一五七八)

第三章 嫁資ノ制

第一千五百四拾條 嫁資トハ此制ニ於テモ第二章ノ制ニ於ケルカ如ク婚姻中ノ責任ヲ負擔スル爲メ婦ノ其夫ニ持參スル所ノ財産ヲ云フ

第一千五百四拾壹條 凡ソ婦ノ己レニ設定スル諸件又ハ婚姻ノ契約ニ依リ婦ニ贈與セラレタル諸件ハ嫁資タルモノトス但シ之ニ反シタル約權アル時ハ格別ナリトス(民一三九二一五四九一五五四)

第壹節 嫁資ノ設定

第一千五百四拾貳條 嫁資ノ設定ハ婦ノ現在及ヒ將來ノ財産ノ全部又ハ其現在ノ財産ノミノ全部又ハ其現在及ヒ將來ノ財産ノ一部又ハ然ノミナラス一箇ノ物品ニ及ボスコトヲ得可シ

汎博ノ語ヲ以テスル婦ノ財産全部ノ設定ハ將來ノ財産ヲ包含セス(民一一六五二三九二一三九二一三九五二五四九一五五三二五五四一五七四以下一五八一)

第一千五百四拾三條 嫁資ハ結婚中ニ之ヲ設定スルコトヲ得ス又然ノミナラス之ヲ増加スルコトヲ得ス(民一三九五二五七四)

第一千五百四拾四條 若シ父母ノ其各自ノ分ケ前ヲ區別スルコトナク合同シテ嫁資ヲ設定シタル時ハ其嫁資ハ平等ノ部分ヲ以テ設定シタルモノト看做ス可シ

若シ父母ノ權利ノ爲メ父一人ノミヨリ嫁資ヲ設定シタル時ハ母ハ假令其契約ニ立會ヒタルト雖モ結束セラル、コトナクシテ其嫁資ハ全ク父ノ責任タル可シ(民一一三四一四三八)

第一千五百四拾五條 若シ父母中ノ生殘ル者ニ於テ其部分ヲ定ムルコトナク父

母ノ財産ニ付キ嫁資ヲ設定シタル時ハ其嫁資ハ既ニ死去セシ配偶者ノ財産中ニ於ケル將來ノ夫婦中一方ノ權利ニ付キ先ツ之ヲ收取シ而シテ其餘分ヲ設定者ノ財産ニ付キ收取ス可シ(民一四三八)

第一千五百四拾六條

父母ヨリ嫁資ヲ與ヘラレタル女カ假令其父母ニ於テ收益スル自己ノ專有ノ財産ヲ有スル時ト雖モ其嫁資ハ設定者ノ財産ニ付キ之ヲ收取ス可シ但シ之ニ反シタル約權アル時ハ格別ナリトス(民三八四)

第一千五百四拾七條

嫁資ヲ設定シタル者ハ其設定シタル物品ノ擔保ヲ擔任スルモノトス(民一四四〇・一六二五)

第一千五百四拾八條

假令辨濟ノ爲メノ期限ヲ定メタル時ト雖モ其嫁資ノ利息ハ之ヲ約務シタル者ニ對シテ其結婚ノ日ヨリ當然發生スルモノトス但シ之ニ反シタル約權アル時ハ格別ナリトス(民一四四〇・一五七〇)

○第貳節

嫁資ノ財産ニ付テ夫ノ權利及ヒ嫁資ノ不動産ノ所有權ヲ移轉ス可カラサル事

第一千五百四拾九條

夫ハ結婚中一人ニテ嫁資ノ財産ノ管理ヲ有スルモノトス

ス

夫ハ一人ニテ嫁資財産ノ負債者及保有者ニ對シテ訴ヲ爲シ其果實及ヒ利息ヲ收取シ并ニ其元金ノ償還ヲ收受スルノ權利アリ

然レハ婚姻ノ契約ニ依リ婦ハ毎年自己ノ受取証書ノミヲ以テ己レノ保育及ヒ己レノ一身上ノ需要ノ爲メ其入額ノ一部分ヲ收受ス可キ旨ヲ合意スルヲ得可シ(民八一八・一四二二・一四二八・一五三二・一五三四・一五四一・一五五四・一五七四・一二二二・一三三三以下)

第一千五百五拾條

夫ハ嫁資ノ收受ノ爲メ保証人ヲ立ツルニ及ハス但シ婚姻ノ契約ニ依リ保証人ヲ立ツルニ服從セシメラレタル時ハ格別ナリトス(民六〇〇以下・一五六二・一五八一)

第一千五百五拾壹條

若シ契約書ニ其價ヲ記載シタル動産ヲ以テ嫁資ト爲シ又ハ嫁資ノ一部分ト爲シ而シテ其評價ヲ以テ賣却ヲ爲シタルモノトセサル旨ヲ申述スルコトナキ時ハ夫ハ之レカ所有者トナリ而シテ其動産ニ附與シタル代價ノミノ負債者タルモノトス(民一五六四)

第一千五百五拾貳條 嫁資ニ設定シタル不動産ニ附與シタル評價ハ夫ニ之レカ所有權ヲ轉移セス但シ其轉移ノ旨ヲ明カニ申述シタル時ハ格別ナリトス(民一五五二)

第一千五百五拾三條 嫁資ノ金額ヲ以テ獲得シタル不動産ハ嫁資タルモノニ非ス但シ其益用ノ條件ヲ婚姻ノ契約ヲ以テ約權シタル時ハ格別ナリトス金圓ニ於テ設定シタル嫁資ノ辨濟ニ於テ附與シタル不動産ニ付テモ亦右ニ同シ(民一四三五、一五五九、一五九五ノ第三)

第一千五百五拾四條 嫁資ニ設定シタル不動産ハ結婚中夫ニ於テモ又ハ婦ニ於テモ又ハ夫婦雙方相合同スルモ其所有權ヲ轉移シ又ハ書入質ト爲ヌヲ得ス但シ以下ニ記スル所ノ例外ハ格別ナリトス(民八七三、一〇七五、一〇九〇、一一五二、一三三八、一三八三、一三九三、一四二六、一四四九、一五四九、一五五六、一五五八、一五六〇、一五六三、一五七二、一〇四五、一一五七、一一九五、一三三〇、一三〇四)

第一千五百五拾五條 婦ハ夫ノ許可ヲ受ケタル上又夫ノ否拒ニ於テハ裁判所ノ許可ヲ受ケタル上其前婚ノ子ノ定業ノ爲メ自己ノ嫁資ノ財産ヲ贈與スルヲ得可シ(民一〇七五、一一三三、一一三四、一五五四、一五五五、一五六三)

第一千五百五拾六條 婦ハ亦夫ノ許可ヲ受ケタル上ニテ其共通ノ子ノ定業ノ爲メ自己ノ嫁資ノ財産ヲ贈與スルヲ得可シ(民一〇七五、一一三三、一一三四、一五五四、一五五五、一五六三)

第一千五百五拾七條 嫁資ノ不動産ハ婚姻ノ契約ニ依リ其所有權轉移ヲ許サレタル時ハ之レカ所有權ヲ轉移スルヲ得可シ(民八、一八八、一三三〇、九一三、八三三、一三八七、一三九二、一三九八、一四三三、一四四九、一五五四、一五五八、一五六〇、一九八八)

第一千五百五拾八條 嫁資ノ不動産ハ左ノ場合ニ於テハ亦裁判所ノ許可ヲ受ケタル上三次ノ貼附ノ後轉賣ヲ以テ之レカ所有權ヲ轉移スルヲ得可シ夫又ハ婦ヲ獄舎ヨリ出テシムル爲メ婚姻ノ卷第二百三條第二百五條第二百六條ニ定メタル場合ニ於テ家族ニ養料ヲ給與スル爲メ婦ノ負債又ハ嫁資ヲ設定シタル者ノ負債ヲ辨濟スル爲メ但シ此等ノ負

價カ婚姻ノ契約以前ノ正確ナル日附ヲ有スル時
嫁資ノ不動産ノ保存ノ爲メニ缺ク可カラサル大修繕ヲ爲ス爲メ
其不動産ヲ第三ノ人ト不分ニテ共有シテ之ヲ分派ス可カラスト認
定セラレタル時

總テ此等ノ場合ニ於テハ認定セラレタル需要以上ノ其賣拂代金ノ餘分ハ
嫁資タルモノト爲シ置キ而シテ斯クノ如キモノトシテ婦ノ利益ニ於テ其
益用ヲ爲ス可シ(民六〇六八二七一三一七二四二七一五五七一五五九一六八六二九一二一
九八番七)

第一千五百五拾九條 嫁資ノ不動産ハ婦ノ承諾ヲ得タル上ニテ少クハ五分ノ
四ニ付キ之ト同價額ノ他ノ不動産ニ對シテ交換スルコトヲ得可シ但シ其交
換ノ有益ナルコトヲ証明シ且ツ裁判所ノ許可ヲ受ケ而シテ裁判所ヨリ職權
ヲ以テ任シタル鑑定人ノ爲セシ評價ニ從フコトヲ必要トス
此場合ニ於テハ交換ニ於テ收受シタル不動産ハ嫁資ノモノタル可ク又代
金ノ餘分アルニ於テハ其餘分モ亦嫁資ノモノタル可ク而シテ其餘分ハ斯

クノ如キモノトシテ婦ノ利益ニ於テ其益用ヲ爲ス可シ(民一三九五二五五四一
五五八二七〇二)

第一千五百六拾條 前ニ説明シタル例外ノ場合ノ外若シ婦又ハ夫又ハ雙方相
合同シテ嫁資ノ不動産ノ所有權ヲ移轉シタル時ハ婦又ハ其相續人ハ婚姻
解除ノ後其所有權ノ移轉ヲ廢止セシムルコトヲ得可ク而シテ其結婚中ハ婦
又ハ其相續人ニ如何ナル期滿效ヲ以テモ對抗スルコトヲ得ス但シ婦ハ財產
離分ノ後モ之ト同一ノ權利ヲ有スルモノトス
夫自身モ亦結婚中右所有權ノ移轉ヲ廢止セシムルコトヲ得可シ然レモ其賣
リタル財產ノ嫁資ノモノナリシ旨ヲ契約ニ於テ申述セサル時ハ買主ニ對
シテ損害ノ賠償ヲ負擔ス可キモノトス(民一一二五一四九一三〇四一三八二二五
四二五五七一五五八一六三〇一六三四二〇一三三二二二二二五二一九五二二五六)
第一千五百六拾壹條 婚姻ノ契約ニ依リ所有權ヲ移轉スルコトヲ得可シト申述セ
ラレサル嫁資ノ不動産ハ結婚中ハ期滿效ヲ得可カラサルモノトス但シ期
滿效ノ其以前ヨリ始マリタル時ハ格別ナリトス

然レ其不動産ハ期満效ノ始マリタル時期ノ如何ヲ問ハス財產離分ノ後ハ期満效ヲ得可キモノトナル可シ(民二二七三。六以下六八二六八三二五六。二二五五二二五六)

第一千五百六拾貳條 夫ハ嫁資ノ財產ニ關シテハ使用收益者ノ總テノ義務ヲ擔任ス可シ

夫ハ自己ノ懈怠ニ依リ獲得セラレタル總テノ期満效及ヒ發生セシメタル總テノ損壞ニ付キ其實ニ任ス可キモノトス(民六〇。一五三三二五八。二二二二二二一三五)

第一千五百六拾三條 若シ嫁資ノ危險ニ附セラレタル時ハ婦ヨリ第一千四百四十三條以下ニ記シタル如ク財產ノ離分ヲ訴フルヲ得可シ

○第三節 嫁資ノ返還

第一千五百六拾四條 若シ嫁資カ不動産ヨリ成ル時

又ハ婚姻ノ契約書ニ評價セサル動産又ハ評價ハ婦ニ其所有權ヲ失ハシメサル旨ノ申述ヲ以テ價ヲ記シタル動産ヨリ成ル時

此等ノ場合ニ於テハ夫又ハ其相續人ニ婚姻解分ノ後猶豫ナク其嫁資ヲ返還スルヲ強ニルヲ得可シ(民一五五二。一五五三)

第一千五百六拾五條 若シ嫁資カ金額ヨリ成ル時

又ハ評價ハ夫ヲ所有者ト爲サ、ル旨ノ申述ナクシテ契約書ニ其價ヲ記シタル動産ヨリ成ル時

此等ノ場合ニ於テハ解分ヨリ一年ノ後ニ非サレハ嫁資ノ返還ヲ要求スルヲ得ス(民一五五二。一五五三)

第一千五百六拾六條 若シ婦ニ於テ所有權ヲ保存シタル動産カ夫ノ過失ニ依ラス其使用ニ依テ損敗シタル時ハ夫ハ後ニ存スル所ノモノ、ミヲ其現在ノ景狀ニ於テ返還ス可シ

然レハ婦ハ如何ナル場合ニ於テモ自己ノ現在ノ使用ノ爲メニ布類及ヒ衣服ヲ取戻スヲ得可シ但シ其布類及ヒ衣服ヲ原來評價シテ設定シタル時ハ其價額ヲ先算ス可キモノトス(民五八九。二四九二)

第一千五百六拾七條 若シ嫁資中ニ債權又ハ年金收受權ノ設定ヲ包含シ而シ

テ其價權又ハ年金收受權設定カ夫ノ懈怠ニ依ルニ非スシテ消滅シ又ハ減削ヲ受ケタル時ハ夫ハ之ヲ負擔セシメテ其契約書ヲ返還スルニ依リ實ヲ免ガル可キモノトス(民五八八二九一以下)

第一千五百六拾八條 若シ使用収益權ヲ嫁資ニ設定シタル時ハ夫又ハ其相續人ハ婚姻解分ノ時ニ至リ其使用収益ノ權利ヲ返還ス可キノ義務アルノミニシテ結婚中ニ收受ス可キモノトナリタル果實ハ之ヲ返還ス可キノ義務ナシ(民五八八)

第一千五百六拾九條 若シ嫁資ノ辨濟ノ爲メニ定メタル期限ノ終リシヨリ十年間婚姻ノ繼續シタル時ハ婦又ハ其相續人ハ夫ノ其嫁資ヲ收受セシ旨ヲ証スルニ及ハスシテ婚姻解分ノ後夫ニ對シテ之ヲ取戻ス可キ得可シ但シ夫ニ於テ其嫁資ノ辨濟ヲ已レニ得ル爲メニ無益ニ爲シタル手續ヲ証明スル時ハ格別ナリトス(民一五〇二)

第一千五百七拾條 若シ婦ノ死去ニ依リ婚姻ノ解分シタル時ハ返還ス可キ嫁資ノ利息及ヒ果實ハ解分ノ日ヨリ婦ノ相續人ノ利益ニ於テ當然發生ス

若シ夫ノ死去ニ依リ婚姻ノ解分シタル時ハ婦ハ其喪ニ居ル一年ノ嫁資ノ利息ヲ要求シ又ハ右ノ時間夫ノ遺留財産ノ費ニテ已レニ養料ヲ給與セシムルノ自由ナリトス然レモ右二箇ノ場合ニ於テ其一年間ノ住居ト喪服トハ夫ノ遺留財産中ヨリ婦ニ之ヲ給與セサルヲ得ス而シテ婦ニ辨濟ス可キ利息ニ充用ス可カラサルモノトス(民一四六五―四八二―三三五)

第一千五百七拾壹條 婚姻ノ解分ニ至リ嫁資ノ不動産ノ果實ヲ最後ノ一年間婚姻ノ繼續シタル時間ニ比准シテ夫ト婦トノ間又ハ其相續人ノ間ニ分派ス可シ

其一年ハ婚姻ヲ行ヒシ日ヨリ始マルモノトス(民五八五五八六)

第一千五百七拾貳條 婦及ヒ其相續人ハ嫁資ノ取戻ノ爲メ書入質ニ於テ自己ヨリ以前ノ債主ニ優先セシメ先取特權ヲ有セサルモノトス(民二二二二二二三三)

第一千五百七拾三條 若シ父ノ其女ニ嫁資ヲ設定シタル時夫ノ既ニ無資力ニシテ且ツ接養ヲモ職業ヲモ有セサル時ハ女ハ其嫁資ノ償還ヲ已レニ得ンカ爲メ其夫ノ遺留財産ニ對シテ有スル所ノ訴權ノミヲ父ノ遺留財産ニ返

還ス可キモノトス

然レモ若シ夫ノ結婚ノ後ニ無資力トナリタル時

又ハ已レノ爲メ財産ニ代ハル可キ工技又ハ職業ヲ有シタル時

此等ノ場合ニ於テハ嫁資ノ損失ハ婦ノミニ歸スルモノトス(民八四三以下)

○第四節 嫁資外ノ財産

第一千五百七拾四條 嫁資ニ設定シタルモノニ非サル婦ノ總テノ財産ハ嫁資外ノモノトス(民一五三六一五四〇)

第一千五百七拾五條 若シ婦ノ總テノ財産ノ嫁資外ノモノニシテ而シテ契約

中ニ婦ニ結婚中ノ責任ノ一部分ヲ負擔セシムル爲メノ合意アラサル時ハ

婦ハ自己ノ入額ノ三分一ニ充ツル迄其責任ヲ分擔ス(民二〇三以下一五三七)

第一千五百七拾六條 婦ハ其嫁資外ノ財産ノ管理及ヒ收益ヲ有ス

然レモ婦ハ夫ノ許可ナク又夫ノ否拒ニ於テハ裁判所ノ許ナクシテ右財産

ノ所有權ヲ移轉スルコトヲ得ス又右財産ノ爲メ裁判ニ現出スルコトヲ得ス(民

二一五以下一五八一)

第一千五百七拾七條 若シ婦ヨリ夫ニ其嫁資外ノ財産ヲ管理スル爲メノ委任

ヲ與ヘ而シテ其果實ヲ已レニ計算セシムルノ責任ヲ定メタル時ハ夫ハ總

テノ代理者ノ如クニ婦ニ對シテ實ニ任ス可キモノトス

第一千五百七拾八條 若シ夫カ代理委任ナク又然レモ婦ヨリ故障ヲ受クルコ

トク其婦ノ嫁資外ノ財産ヲ收益シタル時ハ夫ハ婚姻ノ解分ニ至リ又ハ婦

ヨリ請求ヲ受ケ次第現ニ存在スル果實ヲ差出スコトヲ擔任ス可ク而シ

テ夫ハ當時ニ至ル迄消耗シタル果實ヲ計算スルニ及ハス(民一五三九)

第一千五百七拾九條 若シ夫カ婦ノ証明セラレタル故障ニ拘ハラヌ嫁資ノ財

産ヲ收益シタル時ハ夫ハ現ニ存在スル果實ト消耗シタル果實トヲ總テ婦

ニ對シテ計算ス可キモノトス(民五二七)

第一千五百八拾條 嫁資外ノ財産ヲ收益スル夫ハ使用收益者ノ總テノ義務ヲ

擔任スルモノトス(民六〇一五三三二五六二)

○特別ノ成規

第一千五百八拾壹條 夫婦ハ嫁資ノ側ニ服従スルト雖モ獲得物ノ會社ヲ約權

スルヲ得可シ而シテ其會社ノ效ハ第千四百九十八條及ヒ第千四百九十九條ニ記シタル如ク之ヲ規定ス

○第六卷 賣買千八百四年三月六日決定同月十六日宣令

○第一章 賣買ノ性質及ヒ法式

第千五百八拾貳條 賣買トハ一方ノ者ニ於テハ一箇ノ物ヲ引渡スノ義務ヲ己レニ負ヒ他ノ一方ノ者ニ於テハ之ヲ辨濟スルノ義務ヲ己レニ負フ所ノ合意ヲ云フ

賣買ハ公正ノ証書又ハ私シノ署名証書ヲ以テ之ヲ爲スコヲ得可シ(民一〇。二。一。三。一。三。一。三。一。三。一。九)

第千五百八拾三條 物ト代價トヲ合意シタル時ハ假令未タ其物ヲ引渡サス又其代價ヲ辨濟セスト雖モ賣買ハ雙方ノ者ノ間ニ於テハ完全ニシテ所有

權ハ賣主ニ對シテ當然買主ニ獲得セラル、モノトス(民七。一。一。一。三。八。一。一。四。一。一。二。一。七。一。一。八。一。五。九。一。一。六。一。六。一。四。一。二。一。八。二)

參照 第千四百四十條ノ下ニ配シタル千八百五十五年三月二十三日ノ法律ヲ看ル可シ

第千五百八拾四條 賣買ハ單純ニ之ヲ爲シ又ハ停止若クハ解除ノ未必條件ヲ以テ之ヲ爲スコヲ得可シ

賣買ハ亦二箇又ハ數箇ノ選擇スコヤ物ヲ以テ目的ト爲スコヲ得可シ如何ナル場合ニ於テモ賣買ノ効ハ合意ノ一般ノ原則ヲ以テ之ヲ規定ス(民一。一。六。八。一。一。八。二。一。一。八。五。二。一。八。九)

第千五百八拾五條 消耗品ヲ一圓ニシテ賣ラヌ重量數額又ハ度量ヲ以テ賣リタル時ハ其賣リタル物ガ之ヲ秤權シ算計シ度量スルニ至ル迄ハ賣主ノ危險ニ在ルノ義意ニ於テハ其賣買ハ完全ナリトセス然レモ買主ハ其引渡ヲ求メ又ハ約務不執行ノ場合ニ於テ損害アル時ハ其損害ノ賠償ヲ求ムルヲ得可シ(民五。二。五。二。二。一。四。二。一。八。三。一。三。一。五。八。三。一。六。一。四。一。六。一。六。一。六。一。〇。)

第千五百八拾六條 若シ之ニ反シテ消耗品ヲ一圓ニシテ賣リタル時ハ假令

未々其消耗品ヲ秤糶シ算計シ又ハ度量セスト雖其買買ハ完全ナリトス
第一千五百八拾七條 酒油及ヒ其他ノ物ニシテ其買入ヲ爲ス前ニ試嘗スルノ
習慣アルモノニ關シテハ買主ノ之ヲ試嘗シテ承認セサル間ハ賣買ナシト
ス

第一千五百八拾八條 試驗ヲ以テ爲ス所ノ賣買ハ常ニ必ス停止ノ未必條件ヲ
以テ爲シタルモノト思量ス可シ(民一八二以下一五八四)

第一千五百八拾九條 雙方ノ者ニ於テ物ト代價トニ付キ相互ノ承諾アル時ハ
賣買ノ約束ヲ以テ賣買ニ等シキ効力アリトス(民一七九一五八三二五九二)

第一千五百九拾條 若シ手附ヲ以テ賣買スルノ約束ヲ爲シタル時ハ契約者各
自ハ左ノ如クニシテ之ヲ棄止スルコトヲ得可キモノトス
手附ヲ與ヘタル者ハ之ヲ損失スル事

手附ヲ收受シタル者ハ其倍額ヲ返還スル事(民一七一五)
第一千五百九拾壹條 賣買ノ代價ハ雙方ノ者ニ於テ之ヲ定メ及ヒ指示サ
ル可カラズ

第一千五百九拾貳條 然レハ其代價ハ第三ノ人ノ裁斷ニ任カスコトヲ得可シ但
シ第三ノ人ニ於テ其評價ヲ爲スコトヲ欲セス又ハ之ヲ爲スコト能ハサル時ハ
賣買ナシトス(民一八五四)

第一千五百九拾三條 証書ノ費用及ヒ其他賣買ニ附屬スル費用ハ買主ノ責任
ナリ(民一二四八二三八二一九九九二〇六二)

○第二章 買コト又ハ賣ルコトヲ得ル人

第一千五百九拾四條 凡ソ法律ニ於テ賣買ヲ禁止セサル所ノ各人ハ買コト又
ハ賣ルコトヲ得可シ(民一二八四五五三七一三三二五〇七一五五四一五七六一五九六以下
一八六〇前四三)

第一千五百九拾五條 賣買ノ契約ハ左ノ三箇ノ場合ニ非カレハ夫婦ノ間ニ爲
スコトヲ得ス

- 第一 夫婦中一方ノ者カ己レト裁判上ニテ離分シタル他ノ一方ノ者ニ
其權利ノ辨濟ニ於テ財産ヲ讓渡ス場合
- 第二 夫ヨリ己レト離分セサルモノト雖其婦ニ爲ス所ノ讓渡カ其婦

ノ所有權ヲ移轉シタル不動産又ハ其婦ニ屬スル金額ノ再川ノ如キ正當ノ原由ヲ有スル場合但シ其不動産又ハ金額カ共通財産中ニ加ハラサル時ニ限ル

第三 財産共通ノ除斥アル時婦ヨリ其夫ニ嫁資トシテ約束シタル金額ノ辨濟ニ於テ婦ヨリ其夫ニ財産ヲ讓渡ス場合
但シ右三箇ノ場合ニ於テ若シ間接ノ得益アル時ハ契約者ノ相續人ノ權利ヲ害ス可カラサルモノトス(民一四〇・二四三・二四四以下一五四)

第一千五百九拾六條 左ノ各人ハ己レ自身ニテモ又ハ介入者ヲ以テスルモ左

ノ財産ノ落札買入人トナルコトヲ得ス若シ之ヲ買入レタル時ハ其買入ハ無効ナリトス

後見人ハ其後見ヲ爲ス者ノ財産

代理者ハ其賣ルコトヲ委任セラレタル財産

管理人ハ自己ノ管照ニ委託セラレタル邑又ハ公同設立場ノ財産
公ケノ役員ハ自己ノ紹介ヲ以テ其賣拂ヲ爲ス國ノ財産(民四五〇・九一二)

第一千五百九拾七條 裁判官其補官檢察官ノ職務ヲ行フ官吏裁判所書記使吏

代書人好爲辨護人及ヒ公証人ハ其職務ヲ執行スル地ヲ管轄スル裁判所ノ所轄タル訴訟又ハ争訟アル權利及ヒ訴訟ノ讓受人トナルコトヲ得ス若シ之ヲ讓受ケタル時ハ其讓受ハ無効タル可ク且ツ費額及ヒ損害ノ賠償ヲ擔任ス可シ(民一六九九條七二)

第三章 賣ルコトヲ得可キ物

第一千五百九拾八條 凡ソ各人ノ所分内ニ在ル所ノモノハ特別ノ法律ニ其所
有權ノ移轉ヲ禁セサル時ハ之ヲ賣ルコトヲ得可シ(民五三八・二二八・二六〇・三三六)

第一千五百九拾九條 他人ノ物ノ賣拂ハ無効ナリ但シ他人ノ物ノ賣拂ハ買主

カ其物ノ他人ニ屬スルコトヲ知ラサル時ハ損害賠償ヲ生セシムルコトヲ得可シ(民一三六一・三七八四三・二二・二四二・二一六五・一四〇・九一六・二六・一六五九・一六九六・一七〇・七二二・六五・三二八〇)

第一千六百條 生存スル人ノ財産相續ハ假令其人ノ承諾アリト雖モ之ヲ賣ル

トヲ得ヌ(民七九二一三〇、一三三。四)

第一千六百壹條 若シ賣拂ノ時ニ當リ其賣リタル物ノ全ク滅盡セシ時ハ其賣拂ハ無效タル可シ

若シ其物ノ一部分ノミノ滅盡セシ時ハ獲得者ニ於テ其賣買ヲ拋棄シ又ハ全部ニ比較シタル價ノ見積ニ依リ代價ヲ定メシメテ其保存セラレタル部分ヲ求ムルヲ自由ナリトス(民一九三二一九五三〇。一)

○第四章 賣主ノ義務

○第壹節 總則

第一千六百貳條 賣主ハ其己レニ義務ヲ負フ所ノモノヲ明カニ説明ス可キモノトス

總テ不分明又ハ義意ノ曖昧ナル合意ハ賣主ノ損失トナル様之ヲ解釋ス(民一一五六一一六二)

第一千六百三條 賣主ニ重要ノ義務ニ箇アリ其賣リタル物ヲ引渡スノ義務及ヒ之ヲ擔保スルノ義務是レナリ(民一六〇四一六二五)

○第貳節 引渡

第一千六百四條 引渡トハ賣リタル物ヲ買主ノ威權及ヒ占有ニ移ス事ヲ云フ(民一一三六)

第一千六百五條 不動產ヲ引渡スノ義務ハ建造物ニ關シテハ賣主ヨリ其鑰ヲ渡シタル時又ハ賣主ヨリ所有權ノ証券ヲ渡シタル時ハ賣主ノ方ニ於テ之ヲ履行シタルモノトス

第一千六百六條 動產ノ引渡ハ左ノ方法ニ依テ成ルモノトス
現實ノ引渡ニ依リ

又ハ其動產ヲ入レタル建造物ノ鑰ヲ渡ス事ニ依リ
又ハ賣買ノ時ニ當リテ其動產ノ運送ヲ爲スコトヲ得ヌ又ハ買主カ他ノ名義ヲ以テ既ニ其動產ヲ自己ノ權力内ニ有シタル時ハ雙方ノ者ノ承諾ノミニ依リ(民一一三八一一四二一六。五)

第一千六百七條 無形ナル權利ノ引渡ハ証券ヲ渡スコトニ依リ又ハ獲得者カ賣主ノ承諾ヲ以テ爲シタル其權利ノ使用ニ依リ之ヲ爲スモノトス(民一六八九)

以下二〇七九)

第六百八條 引渡ノ費用ハ賣主ノ責任タリ又移送ノ費用ハ買主ノ責任タリ但シ之ニ反シタル約權アル時ハ格別ナリトス(民二二四八)

第六百九條 引渡ハ賣主ノ時ニ當リ其目的タル物ノ在リタル場所ニ於テ之ヲ爲シ、ルヲ得ス但シ之ニ異ナリタル合意アル時ハ格別ナリトス(民二二四九)

第六百拾條 若シ賣主カ雙方ノ者ノ間ニ合意シタル時期ニ於テ引渡ヲ爲ス、トシテ而シテ其遲延ガ賣主ノ所爲ノミヨリ生シタル時ハ獲得者ハ自己ノ選擇ニ從ヒ賣買ノ解除ヲ求メ又ハ其占有ヲ得ント求ムルヲ得可シ(民二二五〇)

第六百拾壹條 如何ナル場合ニ於テモ合意セラレタル期限ニ於テ引渡ノアラサルニ依リ獲得者ノ爲メニ損害ヲ生シタル時ハ賣主ニ其損害ノ賠償ヲ得ルヲ得ス(民二二五二)

第六百拾貳條 買主ノ其物ノ代金ヲ辨濟セズ且ツ賣主ヨリ其辨濟ノ爲メ

ノ猶豫ヲ買主ニ附與セザル時ハ賣主其物ヲ引渡ス、トヲ擔任セズ(民一六五〇以下)

第六百拾三條 賣主ヨリ其辨濟ノ爲メノ猶豫ヲ附與シタル時ト雖モ若シ其賣買ノ後ニ買主ノ家資分散ヲ爲シ又ハ破産ノ景狀トナリテ賣主ノ其代金ヲ損失ス可キ差迫リタル危難ニ在ルニ於テハ賣主ハ亦引渡ノ義務ヲ負ハス但シ買主ヨリ期限ニ至リテ辨濟スル爲メノ保証人ヲ賣主ニ對シテ立テタル時ハ格別ナリトス(民二二五三)

第六百拾四條 物ハ賣買ノ時ニ於ケル其現在ノ景狀ニ於テ之ヲ引渡シ、ルヲ得ス

其日ヨリ後ハ總テノ果實ハ獲得者ニ屬スルモノトス(民二二五四)

第六百拾五條 物ヲ引渡スノ義務ハ其物ノ附屬物及ヒ其物ノ永久ノ使用ニ供セラル、タル諸件ヲ包含ス(民二二五五)

第六百拾六條 賣主ハ契約ニ載セタル如キ面積ヲ引渡ス、トヲ擔任スルモ

ノトス但シ以下ニ明示スル所ノ改竄ニ從ハザルヲ得ス(民一七六五)

第一千六百拾七條 若シ若干ノ度量ニ付キ價幾許タルノ割合ヲ以テ面積ヲ指示シテ不動産ノ賣買ヲ爲シタル時ハ賣主ハ若シ獲得者ヨリ要求スル時ハ其契約ニ指示シタル分量ヲ獲得者ニ引渡ス可キノ義務アリトス

若シ賣主ノ其事ヲ爲ス能ハス又ハ獲得者ノ之ヲ要求セサル時ハ賣主ハ之ニ比准シタル代價ノ減少ヲ受ク可キノ義務アリトス(民一六二七、一六三六、一七六五)
第一千六百拾八條 若シ之ニ反シテ前條ノ場合ニ於テ契約ニ明示シタルモノヨリ更ニ大ナル面積アル時其過分カ申述セラレタル面積以上二十分一タルニ於テハ獲得者ハ其代價ノ追補ヲ供給シ又ハ契約ヲ取消ス可自由ナリトス(民一六八一以下)

第一千六百拾九條 總テ其他ノ場合ニ於テハ

特定シテ制限アル物体ノ賣買ヲ爲シタルト
異別ニシテ離分セラレタル不動産ヲ以テ賣買ノ目的ト爲シタルト
度量ヲ以テ賣買ヲ始メ又ハ賣買シタル物品ノ指定ヲ以テ賣買ヲ始メ然

ル後ニ度量ヲ爲シタルト問ハス

其度量ノ明示ハ現實ノ度量ト契約ニ明示シタル度量トノ差異カ其賣買シタル物品全部ノ價額ニ釣合ハセテ其多キ又ハ少キノ二十分一タル時ニ非サレハ度量ノ過分ノ爲メ賣主ノ利益ニ於テ毫モ代價ノ追補ヲ生セシム可カラズ又度量ノ不足ノ爲メ獲得者ノ利益ニ於テ毫モ代價ノ減少ヲ生セシム可カラズ但シ之ニ反シタル約權アル時ハ格別ナリトス

第一千六百貳拾條 前條ニ從ヒ度量ノ過分ノ爲メニ代價ノ増加ヲ爲ス可キ場合ニ於テハ獲得者ハ其契約ヲ取消シ又ハ代價ノ追補ヲ供給スル可自由ナリトス而シテ獲得者ノ不動産ヲ保チタル時ハ其代價ノ追補ヲ供給スルニ付キ之レカ利息ヲ加フ可キモノトス(民一六八一)

第一千六百貳拾壹條 獲得者カ契約ヲ取消スノ權利ヲ有スル總テノ場合ニ於テハ賣主ハ既ニ其代金ヲ收受シタル時ハ其代金ノ外右契約ノ費用ヲ獲得者ニ返還ス可キモノトス(民一六三〇)

第一千六百貳拾貳條 賣主ノ方ニ於ケル代價追補ノ訴及ヒ獲得者ノ方ニ於ケ

ル代價減少ノ訴又ハ契約取消ノ訴ハ契約ノ日ヨリ起算シテ一年内ニ之ヲ
 起サ、ルヲ得ス若シ然ラサレハ其訴ヲ爲スノ權利ヲ失フ可シ(民一六一七)
第一千六百貳拾三條 若シ同一ノ契約ニ依リ一箇同一ノ代價ヲ以テ二箇ノ不
 動産ヲ賣リ其各箇ノ度量ヲ指示シタル時其中一箇ノ面積ハ少ナク他ノ一
 箇ノ面積ハ多キニ於テハ其相當レル額ニ充ツル迄相殺ヲ爲シ而シテ代價
 追補ノ訴若クハ代價減少ノ訴ハ前ニ定メタル規則ニ從フニ非サレハ之ヲ
 爲ス可カラサルモノトス

第一千六百貳拾四條 引渡以前ニ於ケル其賣リタル物ノ滅盡又ハ損壞ハ賣主
 又ハ獲得者中何レノ負擔セサル可カラサルモノト爲ス可キヤノ問題ハ契
 約即チ一般ニ合意上ノ義務ノ卷ニ定メタル規則ニ從ヒ之ヲ裁定ス可シ(民
 一三七一、一三三以下、一三三二、一三三四、一三三〇、二)

○第三節 擔保

第一千六百貳拾五條 賣主ヨリ獲得者ニ對シテ負擔スル所ノ擔保ニハ二箇ノ
 目的アリテ其第一ハ賣リタル物ノ靜安ナル占有其第二ハ其物ノ隠レタル

瑕疵則チ賣買ヲ解除スルヲ得セシムル瑕疵是レナリ(民一五九九、一六〇三、一六一
 〇、一六四一以下)

○第一節 親奪ノ場合ニ於ケル擔保

第一千六百貳拾六條 假令賣買ノ時ニ於テ擔保ノ事ニ付キ毫モ約權ヲ爲サ、
 リシ時ト雖モ賣主ハ獲得者カ其買ヒタル物品ノ全部又ハ一部ニ於テ受ク
 ル所ノ親奪又ハ其物品ニ付キ稱言セラレタルモノニシテ賣買ノ時ニ申述
 セサリシ責任ニ付キ當然獲得者ニ擔保スルノ義務アリトス(民八八四、一四八、
 一六一九、一六二七、一六二八、一六二九、一六三〇、一六三六、一六四〇、一六八一、一七〇、五一七、八二、九
 一、九七一、七)

第一千六百貳拾七條 雙方ノ者ハ別段ノ合意ヲ以テ其當然ノ義務ヲ増加シ又
 ハ其效ヲ減少スルヲ得可ク又然ノミナラス雙方ノ者ハ賣主ノ毫モ擔保
 ニ服從セサル旨ヲ合意スルヲ得可シ(民一三三三、一三三六、一三三九、一三四〇、
 一三六一、一三六二、一三六三)

第一千六百貳拾八條 假令賣主ノ毫モ擔保ニ服從セサル旨ヲ定メタル時ト雖
 モ賣主ハ自己ノ一身上ノ所爲ヨリ生スル所ノ擔保ヲ擔任ス可シ但シ之ニ

反シタル總テノ合意ハ無効ノモノナリ(民一六二六一六二九一六九三)

第一千六百貳拾九條 右ニ同シキ無擔保ノ約權ノ場合ニ於テ賣主ハ視奪ノ場
合ニ於テハ代金ノ返還ヲ擔任スルモノトス但シ獲得者カ其賣買ノ時ニ當
リ視奪ノ危難ヲ知り又ハ獲得者カ自己ノ危険及ヒ危害ニテ買入レタル時
ハ格別ナリトス(民一六二六一六二八、一六三八、一六四二)

第一千六百三拾條 若シ擔保ヲ約務シタル時又ハ此事項ニ付キ何事ヲモ約權
セサル時若シ獲得者ノ視奪セラル、ニ於テハ獲得者ハ賣主ニ對シテ左ノ
諸件ヲ請求スルノ權利アリトス

第一 代金ノ返還

第二 視奪スル所ノ所有者ニ果實ヲ返スコトヲ強ラレタル時ハ果實ノ返
還

第三 買主ノ擔保ニ於ケル請求ニ付キ爲シタル費用及ヒ原始ノ原告人
ノ爲シタル費用

第四 損害ノ賠償並ニ契約ノ費用及ヒ其正當ノ入費(民一四九二五九九二六

二二二六二五、一六二六一六二九、一六三三、一六四六、一六八一、二二一七、八

第一千六百三拾壹條 若シ視奪ノ時ニ當リ其賣リタル物カ買主ノ懈怠ニ依リ
若クハ抗拒ス可カラサルカアル偶然ノ事故ニ依リ價額ノ減少シ又ハ著ル
ク損壞シタル時ハ賣主ハ矢張代金ノ全額ヲ返還ス可キモノトス(民一三三三、
二二七五)

第一千六百三拾貳條 然レモ若シ獲得者カ己レノ爲シタル毀害ニ依テ利益ヲ
得タル時ハ賣主ハ代金中ニテ其利益ニ等シキ金額ヲ引留ムルノ權利アリ

第一千六百三拾三條 若シ賣リタル物カ獲得者ノ所爲ニ拘ハラサルモ其視奪
ノ時期ニ於テ代價ノ増加シタル時ハ賣主ハ其賣買代價以上ノ價額ヲ獲得
者ニ辨濟ス可キモノトス(民一六三七)

第一千六百三拾四條 賣主ハ獲得者ノ其賣リタル物ニ爲シタル總テ有益ノ修
繕又ハ改良ヲ自カラ其獲得者ニ償還シ又ハ視奪スル所ノ者ヲシテ獲得者
ニ償還セシム可キモノトス

第一千六百三拾五條 若シ賣主ノ惡意ニテ他人ノ物ヲ賣リタル時ハ獲得者ノ

其物ニ爲シタル總テノ費額ヲ假令奢侈又ハ歡娛ノモノト雖モ其獲得者ニ償還スルノ義務アリ(民五四九以下一五九九二二六八)

第一千六百三拾六條 若シ獲得者ノ其物ノ一部分ノミヲ視奪セラレ而シテ其一部分ハ之ヲ全部ニ對比スルニ頗ル緊要ノモノニシテ獲得者カ其視奪セラレタル一部分ナカリセハ買入レサル可キニ於テハ獲得者其買買ヲ取消シシムルヲ得可シ

第一千六百三拾七條 若シ賣リタル物ノ一部分ノ視奪ノ場合ニ於テ其買買ヲ取消シタル時ハ其賣リタル物ノ價額ノ増加シタルト減少シタルトヲ問ハス獲得者ノ視奪セラレタル一部分ノ價額ヲ其視奪ノ時期ニ於ケル評價ニ從ヒ獲得者ニ償還ス可ク買買ノ全價ニ比准シテ之ヲ獲得者ニ償還ス可カラス(民一六一七一六三三)

第一千六百三拾八條 若シ賣リタル不動産ノ不外見ノ地役ヲ負ヒタルニ其地役アル旨ノ申述ヲ爲スコトナク而シテ其地役ノ頗ル重要ニシテ若シ獲得者ノ之ヲ知リシナラハ買入レサル可シト思量スルヲ得可キニ於テハ獲得者

其契約ノ取消ヲ求ムルヲ得可シ但シ其獲得者ノ賠償ヲ以テ満足スルヲ欲スル時ハ格別ナリトス(民一六二六二六四二)

第一千六百三拾九條 買買ノ不執行ヨリ獲得者ノ爲メニ生シタル損害ノ賠償ニ付キ發生スルヲ得可キ其他ノ問題ハ契約即チ一般ニ合意上ノ義務ノ卷ニ定メタル一般ノ規則ニ從ヒ之ヲ決定セサルヲ得ス(民一一三六以下一一四二以下一一四六以下一一八二一一八四二二二六以下)

第一千六百四拾條 獲得者ノ其賣主ヲ招喚セシテ終審ノ裁判ニ依テ取訴トナリ又ハ最早控訴ヲ許サレサル裁判ニ依テ取訴ナリタル時若シ賣主ニ於テ其請求ヲ棄却セシムルニ充分ナル憑據ノ存在セシ旨ヲ証スルニ於テハ視奪ノ原由ニ依レル擔保ハ止息スルモノトス(民一八五一八一七五以下)

○第貳款 賣リタル物ノ瑕疵ノ擔保

第一千六百四拾壹條 賣主ハ其賣リタル物ヲ供スル所ノ使用ニ不適當ナラシムル其物ノ隠レタル瑕疵又ハ頗ル其物ノ使用ヲ減少スルカ爲メ若シ買主ノ之ヲ知リシナラハ其物ヲ獲得セス又ハ更ニ少ナキ代金ナラテハ附與セ

サル可キ所ノ其物ノ隠レタル瑕疵ノ爲メニ擔保ヲ擔任ス可シ(民一六〇三二六
二六一六三六一六三二六一六四二二六四三二六四四二六四六)

第一千六百四拾貳條 賣主ハ外見ノモノニシテ買主ノ已レ自カラ覺知スルコ
ト得可キ瑕疵ヲ擔任セヌ(民一一一六一三一一六一六二九二六七四)

第一千六百四拾三條 賣主ハ已レ自カラ隠レタル瑕疵ヲ知ラサル時ト雖モ其
瑕疵ヲ擔任ス可シ但シ此場合ニ於テ賣主ニ毫モ擔保ノ義務ナカル可キ旨
ヲ約權シタル時ハ格別ナリトス(民一六一七一六一六二九)

第一千六百四拾四條 第一千六百四十一條及ヒ第一千六百四十三條ノ場合ニ於テ
買主ハ其物ヲ返シテ之レカ代金ヲ已レニ返還セシメ又ハ其物ヲ保チテ監
定人ノ裁斷シタル如キ其代金ノ一部分ヲ已レニ返サシムルヲ自由ナリト
ス(民一六一七一六一六三四)

第一千六百四拾五條 若シ賣主カ其物ノ瑕疵ヲ知リタルニ於テハ其收受シタ
ル代金ノ返還ノ外買主ニ對シ總テ損害賠償ヲ擔任ス可シ(民一一四九二六三〇
以下用四二三)

第一千六百四拾六條 若シ賣主カ其物ノ瑕疵ヲ知ラサルニ於テハ代金ノ返還
及ヒ賣買ニ依リ惹起シタル費用ヲ獲得者ニ償還スル事ノミヲ擔任ス可シ
(民一六三〇一六五〇)

第一千六百四拾七條 若シ瑕疵アル物カ其品質ノ惡シキニ依リ滅盡シタル時
ハ其損失ハ賣主ニ在リトス但シ賣主ハ買主ニ對シテ代金ノ返還及ヒ前二
條ニ説明シタル其他ノ損害賠償ヲ擔任ス可シ
然レモ意外ノ事故ニ依リ生シタル損失ハ買主ノ計算タル可シ(民一六四二)

第一千六百四拾八條 賣買ヲ解除スルヲ得セシムル瑕疵ヨリ生スル所ノ訴ハ
其瑕疵ノ性質ト其賣買ヲ爲シタル土地ノ習慣トニ從ヒ短キ期限内ニ獲得
者ヨリ之ヲ起サ、ルヲ得ス(民一一三〇四)

第一千六百四拾九條 其訴ハ裁判所ノ威力ニ依リ爲シタル賣買ニ於テハ之ヲ
爲ス可カラヌ(民一六八四)

○第五章 買主ノ義務

第一千六百五拾條 買主ノ主タル義務ハ其賣買ニ依リ規定シタル日ト場所ト

ニ於テ代金ヲ辨済スルニ在リトス(民一三三九、一六五三、一一〇、二ノ第四三、一〇、三ノ第一以下二一〇、八)

第一千六百五拾壹條 若シ賣買ノ時ニ當リ右ニ關シテ何事ヲモ規定セザリシ時ハ買主ハ其引渡ヲ爲サ、ル可カラサル場所ト時トニ於テ辨済セサルヲ得ス(民一四二七)

第一千六百五拾貳條 買主ハ左ニ記スル三箇ノ場合ニ於テハ元金ノ辨済ニ至ル迄其賣買代金ノ利息ヲ負擔ス可シ

賣買ノ時ニ於テ右ノ如クニ合意シタル時

其賣リテ引渡シタル物ヨリ果實又ハ其他ノ入額ヲ生スル時

買主ノ其辨済ヲ爲スコトヲ催促セラレタル時

右最後ノ場合ニ於テハ催促以後ナラテハ利息ヲ生セサルモノトス(民一三九、一一五三、一九〇、五二、一七六)

第一千六百五拾三條 若シ買主カ借入費ノ訴ニ依リ若クハ所有權取戻ノ訴ニ依リ妨害セラレ又ハ妨害セラル、ヲ恐ル可キ正當ノ事由アル時ハ賣主ノ

其妨害ヲ止息セシムルニ至ル迄買主ハ其代金ノ辨済ヲ停止スルコトヲ得可シ但シ賣主カ保證人ヲ立ツルコトヲ欲シ又ハ妨害ニ拘ハラヌ買主ノ辨済ス可キ旨ヲ約權シタル時ハ格別ナリトス(民一五九九、三〇、一一)

第一千六百五拾四條 若シ買主ノ代金ヲ辨済セサル時ハ賣主ハ其賣買ノ解除ヲ求ムルコトヲ得可シ(民八八三、一一八四、一一八四、一一三三、一六七〇、一六七四、一九七八、二一〇、三三、二二五、二四六、三二七、九)

第一千六百五拾五條 不動産ノ賣主若シ其物ト代金トヲ失フノ危難アル時ハ其不動産賣買ノ解除ヲ直チニ宣告ス可シ

若シ其危難ノ存在セサル時ハ裁判官其景況ニ從ヒ多少長キ猶豫ヲ獲得者ニ附與スルコトヲ得可シ

獲得者ノ辨済スルコトナクシテ其猶豫ヲ經過セシメタル時ハ賣買ノ解除ヲ宣告ス可シ(民一一八四、二二四四)

第一千六百五拾六條 若シ合意シタル期限ニ於テ代金ヲ辨済セサル時ハ當然其賣買ヲ解除ス可キ旨ヲ不動産賣買ノ時ニ當リ約權シタル時ト雖モ獲得

者ハ催促狀ニ依リ遲滯ニ附セラレサル間ハ其期限ノ經過セシ後ニ至リ辨濟スルコトヲ得可シ然レモ其催促狀ノ後ニ至リテハ裁判官ヨリ獲得者ニ猶豫ヲ附與スルコトヲ得ス(民一三九一―一八四―一九八三)

第一千六百五拾七條 飲食品及ヒ動産ノ賣買ノ事項ニ於テハ其引取ノ爲メニ合意シタル期限ノ經過セシ後當然且ツ催促狀ナクシテ賣主ノ利益ニ於テ賣買ノ解除ヲ爲ス可シ(民一五八五―二一〇―二ノ第四)

○第六章 賣買ノ無効及ヒ解除

第一千六百五拾八條 既ニ本卷ニ説明シタル無効又ハ解除ノ原由及ヒ總テノ合意ニ共通ノモノタル無効又ハ解除ノ原由ニ拘ハラヌ賣買ノ契約ハ買戻ノ權能ノ執行ニ依リ及ヒ代價ノ過廉ナル事ニ依リ之ヲ解除スルコトヲ得可シ(民一一〇―ス以下―一八三以下―一三〇―四以下―一五九五以下―一六二六以下―一六三六―一六四四以下―一六五五以下―一六五九以下―一六七四以下)

○第一節 買戻ノ權能

第一千六百五拾九條 買戻即チ買還ノ權能トハ賣主共主タル代金ノ返還ト第

千六百七十三條ニ記シタル償還トニ依リ其賣リタル物ヲ取戻スコトヲ己レニ貯存スル所ノ合意ヲ云フ(民一〇三―一六八―一七四―一五九九―一六九三―一七五二)

第一千六百六拾條 買戻ノ權能ハ五年ニ過クル期限ヲ以テ之ヲ約權スルコトヲ得ス

若シ其權能ヲ五年ヨリ長キ期限ヲ以テ約權シタル時ハ其期限ニ之ヲ短縮ス可シ

第一千六百六拾壹條 其定メタル期限ハ嚴重ノモノニシテ裁判官ヨリ之ヲ延ハスコトヲ得ス(民一六六二)

第一千六百六拾貳條 賣主ノ其定メタル期限内ニ買還ノ訴權ヲ執行セサル時ハ獲得者ハ廢止ス可カラサル所有者タル可シ(民一六七三―一七五二)

第一千六百六拾三條 其期限ハ凡ソ各人ニ對シテ經過シ假令幼者ニ對スルト雖モ亦經過スルモノトス但シ別段ノ道理アル時ハ其當然ノ者ニ對シテ償還ノ請求ヲ爲スコトヲ得可シ(民二二七八)

第一千六百六拾四條 買戻ノ合意ニ於ケル賣主ハ第二ノ獲得者ニ對シテ自己

ノ訴權ヲ執行スルコトヲ得可シ但シ其第二ノ契約ニ買還ノ權能ヲ申述セザル時ト雖モ亦之ニ同シ(民一一六五)

第六百六拾五條 買戻ノ合意ニ於ケル獲得者ハ自己ノ賣主ノ總テノ權利ヲ執行シ而シテ其真正ノ所有主ト其賣リタル物ニ付キ權利又ハ借入質ヲ稱旨スル所ノ者トニ對シテ期滿效ヲ得ルコトヲ得可シ(民二二五)

第六百六拾六條 其獲得者ハ自己ノ賣主ノ債主ニ索討ノ利益ヲ以テ對抗スルコトヲ得可シ(民二〇二以下)

第六百六拾七條 若シ不動産ノ不分共通ノ一部分ノ買還ノ合意ニ於ケル獲得者カ己レニ對シテ求メラレタル不分物權賣ノ上ニテ其全部ノ落札買入人トナリタル時ハ其獲得者ハ若シ其賣主ニ於テ右ノ合意ヲ用ヒント欲スルニ於テハ全部ヲ引取ルコトヲ賣主ニ強ユルヲ得可シ(民一六八六以下)

第六百六拾八條 若シ數人カ其互ニ共有スル不動産ヲ相合同シテ唯一箇ノ契約ヲ以テ賣リタル時ハ其各人ハ其不動産ニ付キ自己ノ有セシ分ヶ前ノ爲メナラテハ買還ノ訴權ヲ執行スルコトヲ得ス(民一一二七)

第六百六拾九條 唯一人ニテ不動産ヲ賣リタル者カ相續人數名ヲ遺留シ

タル時ハ亦右ニ同シ

其共同相續人ノ各自ハ自己ノ其遺留財産中ニ於テ收取スル所ノ分ヶ前ノ爲メナラテハ買戻ノ權能ヲ用フルコトヲ得ス(民一一二〇)

第六百七拾條 然レモ前二條ノ場合ニ於テ獲得者ハ共同賣主ノ全員又ハ共同相續人ノ全員ヲシテ其不動産全部ノ取戻ニ付キ互ニ相協議セシムル爲メ其共同賣主ノ全員又ハ共同相續人ノ全員ヲ訴訟ニ參セシムルコトヲ要求スルヲ得可シ而シテ若シ其共同賣主又ハ共同相續人ノ相協議セザル時ハ獲得者ハ其請求ヲ免脱セザル可シ(民一一二五一六八五)

第六百七拾壹條 若シ數人ニ屬スル不動産ノ賣買カ相合同シ且ツ其不動産ノ全部ニ付キ爲サレタルニ非スシテ各人カ其不動産ニ付キ有セシ分ヶ前ノミヲ賣リタル時ハ其數人ハ己レニ屬セシ部分ニ付キ別々ニ買還ノ訴權ヲ執行スルコトヲ得可シ
而シテ又獲得者ハ右ノ方法ヲ以テ買還ノ訴權ヲ執行スル者ニ全部ヲ引取

ルヲ強ニ得ス

第一千六百七拾貳條 若シ獲得者ノ相續人數名ヲ遺留シタル時其各人ノ分ケ前ノ猶不分ノモノタル場合ト其賣リタル物ヲ右數名ノ間ニ分派シタル場合トニ於テハ其各自ノ分ケ前ノ爲メナラテハ其各人ニ對シテ買還ノ訴權ヲ執行スルヲ得ス

然レモ若シ遺產ノ分派ヲ爲シテ其賣リタル物カ相續人中一人ノ區分財産中ニ入りタル時ハ買還ノ訴ヲ全部ニ付キ其一人ニ對シテ起スヲ得可シ
(民八七三三以下、二二〇以下)

第一千六百七拾三條 買戻ノ合意ヲ用フル所ノ賣主ハ主タル代金ノミナラス其賣買ノ費用及ヒ正當ノ入費已ムヲ得サル修繕及ヒ不動産ノ價額ヲ増加セシメタル修繕ニ付テハ其増加ノ額ニ充ツル迄ヲ償還セサルヲ得ス○其賣主ハ總テ此等ノ義務ヲ満足セシメタル後ニ非ツレハ占有ニ入ルヲ得ス

賣主カ買戻ノ合意ノ效ニ依リ其不動産ヲ取戻ス時ハ獲得者ノ之ニ負ハン

メタル總テノ責任及ヒ借入費ヲ免カレテ之ヲ取戻スモノトス但シ其賣主ハ獲得者ノ詐害ヲ爲シタル貸貸ヲ執行ス可シ(民一八三、一六五九三、三三二、三三三、三三八、三三九)

○第貳節

損失ノ理由ニ依レル賣買ノ廢棄

第一千六百七拾四條 若シ賣主カ不動産ノ代價ニ於テ十二分ノ七以上損失ヲ受ケタル時ハ假令其契約ニ於テ賣買ノ廢棄ヲ請求スルノ權能ヲ明カニ拋棄シ且ツ其剩餘ノ價額ヲ贈與スル旨ヲ申述シタル時ト雖モ賣主其賣買ノ廢棄ヲ請求スルノ權利アリ(民八八八、一六六八、一六七七、一七〇、六一九六四、一九六八、一九七六)

第一千六百七拾五條 十二分ノ七以上ノ損失アリタルヤヲ知ル爲メニハ不動産ヲ賣買ノ時ニ於ケル其景狀ト其價額トニ從ヒ評價スルヲ必要トス(民八九〇、一五八九、一六七四)

第一千六百七拾六條 其請求ハ賣買ノ日ヨリ起算シテ二年ヲ經過セシ後ニ於テハ最早受理ス可カラサルモノトス

其期限ハ結婚シタル婦ニ對シ及ヒ失踪者治産禁ヲ受ケタル者並ニ賣主タル成年者ノ權利ニ依レル幼者ニ對シテ經過スルモノトス
其期限ハ買戻ノ合意ノ爲メニ約權シタル時期ノ間ト雖モ亦經過スルモノニシテ之ヲ停止ス可カラス

第一千六百七拾七條 損失ノ証ハ裁判ニ依ルニ非サレハ之ヲ許スヲ得ス且ツ其明言シタル事柄カ損失ヲ思量セシムル爲メニ充分實ラシク及ヒ充分重要ナル場合ノミニ非サレハ之ヲ許スヲ得ス

第一千六百七拾八條 右ノ証ハ鑑定人三名ノ報告ニ依ルニ非サレハ之ヲ爲スヲ得ス但シ其鑑定人三名ハ共通ノ調書唯一通ノミヲ作り而シテ投言ノ多數ニ依リ唯一箇ノ意見ノミヲ作爲ス可キモノトス(附三〇三以下)

第一千六百七拾九條 若シ其意見ノ相異ナリタル時ハ調書ニ之レカ理由ヲ記載ス可シ但シ各個ノ鑑定人ハ如何ナル意見ノモノタルヤヲ知ラシムルヲ許サス(附三二八)

第一千六百八拾條 鑑定人三名ハ職權上ニテ之ニ選任ス可シ但シ雙方ノ者カ

相合同シテ其三名共ニ之ヲ選任スルヲ協議シタル時ハ格別ナリトス(附三〇四)

第一千六百八拾壹條 廢棄ノ訴ヲ許ス所ノ場合ニ於テハ獲得者ハ其辨濟シタル代金ヲ取戻シテ物ヲ返還シ又ハ全價ノ十分一ヲ引去リテ正當ナル代價ノ追補ヲ辨濟スルニ依リ不動産ヲ保ツト自由ナリトス

第三ノ占有者ハ右ト同一ノ權利ヲ有ス但シ其第三ノ占有者ハ自己ノ賣主ニ對シテ擔保ノ權利ヲ有スルモノトス(民八九二二六一八二六三〇)

第一千六百八拾貳條 若シ獲得者カ前條ニ規定シタル追補ヲ供給シテ其物ヲ保ツトヲ撰取シタル時ハ廢棄ノ請求ノ日ヨリ其追補金ノ利息ヲ負擔ス可シ

若シ獲得者カ其物ヲ返還シテ代金ヲ收受スルヲ撰取シタル時ハ請求ノ日ヨリ果實ヲ返還スルモノトス

其獲得者ノ辨濟シタル代金ノ利息ハ右ト同一ノ請求ノ日ヨリ亦其獲得者ニ計算ス可ク又其獲得者ノ毫モ果實ヲ收取セサル時ハ辨濟ノ日ヨリ之ヲ

其獲得者ニ計算ス可シ(民一六一四、一六五二)

第一千六百八拾三條 損失ノ爲メノ廢棄ハ買主ノ爲メニ之ヲ爲ス可カラヌ

第一千六百八拾四條 損失ノ爲メノ廢棄ハ法律ニ從ヒ裁判所ノ威力ニ非サレ

ハ爲スコトヲ得サル總テノ賣買ニ於テハ之ヲ爲ス可カラヌ(民一六四九)

第一千六百八拾五條 數人ノ合同シ又ハ別々ニ賣リタル場合ノ爲メ及ヒ賣主

又ハ買主カ相續人數名ヲ遺留シタル場合ノ爲メ前節ニ説明シタル規則ハ

廢棄ノ訴權執行ノ爲メニモ亦同シク之ヲ遵守ス可シ(民一六六八以下)

○第七章 不分物ノ雜賣

第一千六百八拾六條 若シ數人共通ノ物ヲ都合ヨク且ツ損壞ナク分派スルコ

ト得サル時

又ハ共通財産ノ協議上ニテ爲シタル分派ニ於テ共同分派人ノ誰アリテ取

取スルコトヲ得ヌ又ハ收取スルコトヲ欲セサルモノアル時ハ

其賣拂ヲ雜賣ニテ爲シ而シテ其代金ヲ共同所有者ノ間ニ分派ス可シ(民八一

五以下八八三二一〇九條九六六)

第一千六百八拾七條 共同所有者各員ハ外人ヲ其不分物ノ雜賣ニ招喚スルヲ

求ムルコトヲ得可シ而シテ又其共同所有者中一人ノ幼者タル時ハ必ス外人

ヲ招喚ス可シ(民四六〇六三九條九八四以下)

第一千六百八拾八條 不分物ノ雜賣ニ付キ遵守ス可キ執行ノ仕方及ヒ法式ハ

財産相續ノ卷及ヒ訴訟法ニ之ヲ説明ス(民八二七八三以下九八七二以下九八四以

下)

○第八章 債權及ヒ其他ノ無形ノ權利ノ轉移

第一千六百八拾九條 第三ノ人ニ對スル債權又ハ權利又ハ訴權ノ轉移ニ於テ

ハ其引渡ハ讓渡人ト讓受人トノ間ニ於テハ証券ノ交付ニ依テ成ルモノト

ス(民一一〇九一一二六一一七九一一五八三一一五八三一一六〇七一六九〇二〇七三)

第一千六百九拾條 讓受人ハ負債者ニ爲シタル轉移ノ通報ニ依ルニ非サレハ

第三ノ人ニ對シテ收據セサルモノトス

然レモ讓受人ハ公正ノ證書ニ於テ負債者ノ爲シタル轉移ノ受諾ニ依リ亦

同シク收據スルコトヲ得可シ(民八四二一一三〇一一三三一一四四三一一四三一一七二一一九

五二三三二二二二八二五八三一六。七一六八九一六九二二。七五五五七前一二六一三三八四四六
四四七)

第一千六百九拾壹條 若シ讓渡人又ハ讓受人ノ其轉移ヲ負債者ニ通報スル前
ニ負債者ヨリ讓渡人ニ辨濟シタル時ハ負債者ハ有效ニ釋免セラル可シ(民
二二四三二二七七一八九五)

第一千六百九拾貳條 債權ノ賣渡又ハ讓渡ハ保証先取特權及ヒ書入質ノ如キ
其債權ノ附屬件ヲ包含ス(民一。一八二二四九一六一五三二二二)

第一千六百九拾三條 債權又ハ其他ノ無形ノ權利ヲ賣ル者ハ假令擔保ナクシ
テ其轉移ヲ爲シタル時ト雖モ其轉移ノ時ニ於ケル右ノ債權又ハ其他ノ無
形ノ權利ノ存在ヲ擔保セサルヲ得ス(民二二三六二六以下一六四〇一六九二一六九
四前一六八)

第一千六百九拾四條 債權又ハ其他ノ無形ノ權利ヲ賣ル者ハ負債者ニ資力ア
ルヲ擔當スルノ約務ヲ爲シタル時ニ非ザレハ負債者ニ資力アルヲ擔
當セサルモノトス且ツ己レノ其債權ヨリ得タル所ノ代金ノ額ノミニ充ツ

ル迄ノ外負債者ニ資力アルヲ擔當セサルモノトス

第一千六百九拾五條 債權又ハ其他ノ無形ノ權利ヲ賣ル者ノ其負債者ニ資力
アルヲ擔保ヲ約務シタル時ハ其約務ハ現在ノ資力アル事ノミニ之ヲ解
ス可ク將來ノ時ニ之ヲ及ホス可カラズ但シ讓渡人カ將來ノ時ニ之ヲ及ホ
ス可キ旨ヲ明カニ約權シタル時ハ格別ナリトス(民一六九三二六九四)

第一千六百九拾六條 遺産ノ物品ヲ詳細ニ定ムルヲナクシテ遺産ヲ賣ル者ハ
自己ノ相續人タルノ分限ノミヲ擔保ス可キモノトス(民七八〇二一五六二一六三
一六九七一六九八)

第一千六百九拾七條 若シ遺産ヲ賣ル者カ既ニ其遺産ニ屬スル或ル不動産ノ
果實ヲ利得シ又ハ其遺産ニ屬スル或ル債權ノ金額ヲ收受シ又ハ遺留財産
中ノ或ル品物ヲ賣リタル時ハ此等ノモノヲ獲得者ニ償還ス可シ但シ其者
カ賣買ノ時ニ當リテ明白ニ此等ノモノヲ貯存シタル時ハ格別ナリトス(民
一六一五)

第一千六百九拾八條 獲得者ハ己レノ方ニ於テ賣主カ遺留財産ノ負債及ヒ負

任ノ爲メニ辨濟シタルモノヲ其賣主ニ償還セサルヲ得ズ自ツ其賣主カ債主タリシ所ノ諸件ヲ其賣主ニ補償セサルヲ得ス但シ之ニ反シタル約權アル時ハ格別ナリトス(民一六九七)

第一千六百九拾九條 己レニ對シテ争訟アル權利ヲ讓渡サレタル者ハ其讓渡ノ現實ノ代金ト其費用及ヒ正當ノ入費並ニ讓受人ノ己レニ爲サレタル讓渡ノ代金ヲ辨濟シタル日ヨリ以來ノ利息トヲ其讓受人ニ償還スルニ依リ讓受人ニ對シテ其實ヲ免カル、コヲ得可シ(民八四二五九七一七〇以下)

第一千七百條 權利ノ本案ニ付キ訴訟及ヒ争訟アル時ヨリシテ其事物ヲ争訟アルモノト看做ス可シ(民一六九九)

第一千七百壹條 第一千六百九十九條ニ載セタル成規ハ左ノ場合ニ於テハ止息スルモノトス

第一 讓渡サレタル權利ノ共同相續人又ハ共同所有者ニ其讓渡ヲ爲シタル場合

第二 債主ニ對シテ負擔スル所ノモノ、辨濟ニ於テ債主ニ其讓渡ヲ爲

シタル時

第三 争訟アル權利ヲ受クル不動産ノ占有者ニ其讓渡ヲ爲シタル時

○第七卷 交換千八百四年三月七日決定同月十七日宣令

第一千七百貳條 交換トハ雙方ノ者ノ相互ニ一箇ノ物ニ代ヘテ他ノ物ノ所有權ヲ移ス所ノ契約ヲ云フ

第一千七百三條 交換ハ賣買ト同一ノ方法ニテ承諾ノミヲ以テ成ルモノトス(民七一三二一三三八一三四七一五八三)

第一千七百四條 若シ共同交換者中ノ一人カ交換ヲ以テ自己ニ所有權ヲ移サレタル物ヲ既ニ收受シ而シテ其後ニ至リ他ノ契約者ノ其物ノ所有者ニ非サルコトヲ証スル時ハ其一人ハ反對交換ニ於テ自己ノ約務シタル物ヲ引渡スヲ強ラル、コトナカル可ク唯其收受セシ物ヲ返還スルコトヲ強ラル可

キヤノトス(民一六一二二六五三)

第七百五條 共同交換者ノ其交換ニ於テ收受セシ物ヲ觀察セラレタル時ハ損害賠償ヲ得ント求メ又ハ自己ノ物ヲ取戻スヲ自由ナリトス(民一一四三一一四九一一八四一六三〇一六三六一六五四一七〇四一七〇七)

第七百六條 損失ノ原由ノ爲メノ廢棄ハ交換ノ契約ニ於テハ爲ス可カラサルモノトス

第七百七條 賣買ノ契約ノ爲メニ定メタル總テ其他ノ規則ハ右ノ外交換ニモ適用ス可キモノトス(民一五八二以下一五九九)

○第八卷 貸貸ノ契約千八百四年三月七日決定同月十七日宣令

○第一章 總則

第七百八條 貸貸ノ契約ニ左ノ二種アリ

物ノ貸貸

勞力ノ貸貸(民一七〇九一七一以下一七七九以下)

第七百九條 物ノ貸貸トハ契約者中一方ノ者カ他ノ一方ノ者ニ於テ其者ニ辨濟スルノ義務ヲ己レニ負ヒタル特定ノ代價ヲ以テ他ノ一方ノ者ニ特定ノ時間一箇ノ物ヲ収益セシムルノ義務ヲ己レニ負フ所ノ契約ヲ云フ(民一一二七二七一九二七四三二一一八)

第七百拾條 勞力ノ貸貸トハ契約者中一方ノ者カ其雙方ノ間ニ合意シタル代價ヲ以テ他ノ一方ノ者ノ爲メニ或事ヲ爲スヲ己レニ義務スル所ノ契約ヲ云フ(民一七七九以下)

第七百拾壹條 此二種ノ貸貸ヲ更ニ細分シテ左ニ配スル別段ノ數種トス
家屋及ヒ動産ノ貸貸即チ家作ノ貸貸ト名クルモノ
田野不動産ノ貸貸即チ土地ノ貸貸ト名クルモノ
勞働又ハ役務ノ貸貸即チ賃雇ト名クルモノ
獸類ノ利益ヲ其所有者ト所有者ヨリ之ヲ委託セラレタル者トノ間ニ分

派スル獸類ノ貸貸即チ獸借契約ト名クルモノ
定メタル代價ヲ以テ一箇ノ工事ノ起作ノ爲メニ爲ス所ノ工作契約工事
契約又ハ請負契約ハ其工事ヲ爲サシムル者ヨリ物料ヲ供給スル時ハ亦
貸貸ナリトス

右ノ中後ニ記シタル三種ハ別段ノ規則アルモノトス(民一七一四一七五二一七六
三二七九一七八七一八〇商二七三)

第一千七百拾貳條 國ノ財産邑ノ財産及ヒ公同設立場ノ財産ノ貸貸ハ別段ノ
規則ニ服従スルモノトス

○第二章 物ノ貸貸

第一千七百拾三條 人ハ各種ノ助産又ハ不動産ヲ貸貸スルヲ得可シ

○第一章 家屋及ヒ田野財産ノ貸貸ニ共通ノ規則

第一千七百拾四條 人ハ書面ニ依リ又ハ口上ヲ以テ貸貸スルヲ得可シ(民一
七三六一七五八二一〇)

第一千七百拾五條 若シ書面ナクシテ爲シタル貸貸カ未タ毫モ執行ヲ受クル

ナリ而シテ契約者中一方ノ者カ其貸貸ヲ爲サスト述フル時ハ假令其代
價ノ如何ニ些少タリモ又手附金ヲ附與シタリト申立ツル時ト雖モ証人ニ
依レル證ヲ許スヲ得ス

其貸貸ヲ爲サスト述フル者ニ唯誓ヲ求ムルヲ得可キトス(民一三四一
一三五三一三五七)

第一千七百拾六條 執行ノ既ニ始マリタル口上ノ貸貸ノ代價ニ付キ等ヒアリ
テ而シテ其受取証書ノ存在セサル時ハ所有者ノ誓ヲ以テ其代價ノ信憑ト
爲ス可シ但シ家屋賃借人カ鑑定人ニ依レル評價ヲ求ムルヲ欲シタル時
ハ格別ニシテ此場合ニ於テハ若シ其評價ノ額カ家屋賃借人ノ申述シタル
代價ニ過クル時ハ其賃借人ニ於テ評價ノ費用ヲ責任ス可キモノトス(民一
三五七一三五六三三〇ニ以下)

第一千七百拾七條 賃借人ハ轉貸シ又然ノミナラス自己ノ賃借ヲ他人ニ讓渡
スノ權利アリ但シ其權能ヲ賃借人ニ禁止シタル時ハ格別ナリトス
其權能ハ全部又ハ一部ニ付キ之ヲ禁止スルヲ得可シ

右ノ約款ハ常ニ必ス嚴重ノモノトス(民一四三二一八四一三四一三五三一七四一
一七六三一七六六)

第一千七百拾八條 結婚シタル婦ノ財産ノ貸貸ニ關シテ婚姻ノ契約及ヒ夫婦
相互ノ權利ノ卷ニ記シタル各條ハ幼者ノ財産ノ貸貸ニ適用ス可キモノト
ス(民五九五、一四二九、一四三〇)

第一千七百拾九條 貸貸人ハ毫モ別段ノ約權ヲ要スルコトナク其契約ノ性質ニ
依リ左ノ諸件ヲ爲ス可キノ義務アリトス

第一 貸貸シタル物ヲ貸借人ニ引渡ス事

第二 其物ヲ貸貸シタルノ目的タル使用ニ用立ツ可キ景狀ニ於テ之ヲ
保持スル事

第三 貸貸ノ繼續間貸借人ヲシテ靜安ニ其物ヲ收益セシムル事(民一七二
〇、一七四二、一七七八)

第一千七百貳拾條 貸貸人ハ各種ノ修繕ノ良好ナル景狀ニ於テ其物ヲ引渡ス
可キモノトス

貸貸人ハ貸貸ノ繼續間必要トナルコトアル可キ總テノ修繕ヲ其物ニ付キ爲
サ、ルヲ得ス但シ貸借人負擔ノ修繕ハ格別ナリトス(民一七一、一九一、七三二、七四
二、一七五四)

第一千七百貳拾壹條 貸貸人ハ貸貸ノ時ニ當リテ其貸貸シタル物ノ使用ヲ妨
グル總テノ瑕疵又ハ瑕疵ヲ知ラザリシ時ト雖モ其總テノ瑕疵又ハ瑕疵ニ
付キ貸借人ニ對シテ擔保ヲ負擔ス可シ

若シ其瑕疵又ハ瑕疵ヨリシテ貸借人ノ爲メニ或ル損失ノ生シタル時ハ貸
貸人ノ賠償ス可キモノトス(民一六四一以下、一七一、一九一、七二四以下、一八九一以
下)

第一千七百貳拾貳條 若シ貸貸ノ繼續間ニ其貸貸シタル物ノ意外ノ事故ニ依
リ全部毀滅シタル時ハ當然其貸貸ヲ取消ス可シ若シ其物ノ一部分ノ毀
滅シタル時ハ貸借人ハ景況ニ從ヒ或ハ代價ノ減少ヲ求メ或ハ然ノミナラ
ズ貸貸ノ取消ヲ求ムルコトヲ得可シ○右ノ中何レノ場合ニ於テモ毫モ損害
賠償ヲ爲スニ及ハス(民一一三四、一七三、一七三二、一七三九、一七四一、一七六八)

第一千七百貳拾三條 貸貸人ハ貸貸ノ繼續間其貸貸シタル物ノ形狀ヲ變更スルコトヲ得ス(民一七二八)

第一千七百貳拾四條 若シ貸貸ノ間ニ其貸貸シタル物ニ付キ至急ヲ要スルカ爲メ其貸貸ノ終リ迄延ハスコトヲ得サル修繕ノ需要アル時ハ貸借人ハ假令其修繕ノ爲メニ如何ナル不便ヲ被ムリ且ツ其修繕ヲ爲ス間其貸借シタル物ノ一部分ヲ用フルコト能ハサルニ至ルト雖モ其修繕ヲ耐忍セサルヲ得ス然レモ若シ其修繕カ四十日以上繼續スル時ハ其時間ト貸借人ノ用ナルコト能ハサルニ至リシ貸借物ノ一部分トニ比准シテ貸貸ノ代價ヲ減ス可シ若シ其修繕カ貸借人及ヒ其家族ノ住居ニ必要ナル所ノモノヲ居住ス可カラサルニ至ラシムルカ如キ性質ノモノナル時ハ貸借人其貸貸ヲ取消サシムルコトヲ得可シ(民一七二〇)

第一千七百貳拾五條 貸貸人ハ第三ノ人カ其貸貸シタル物ニ付キ別段迄モ權利ヲ稱習スルコトナク暴行ニ依テ貸借人ノ收益ニ爲シタル妨害ニ付テハ貸借人ニ對シテ之ヲ擔保スルニ及ハス但シ貸借人ハ自己ノ一身ノ名前ヲ以テ其第三ノ人ヲ訴フルコトヲ得可キモノトス(民一七二七)

第一千七百貳拾六條 若シ之ニ反シテ家屋ノ貸借人又ハ土地ノ貸借人カ其不動産ノ所有權ニ關スル訴ニ依リ自己ノ收益ニ於テ妨害セラレタル時ハ此等ノ貸借人ハ家屋ノ貸借又ハ土地ノ貸借ノ代價ニ付キ之ニ比准シタル減少ヲ得ルノ權利アリトス但シ之レカ爲メニハ其妨害及ヒ障礙ヲ所有者ニ告知シタルコトヲ必要トス(民一七六八)

第一千七百貳拾七條 若シ暴行ヲ爲シタル者カ其貸借物ニ付キ或ル權利ヲ有スルモノト稱習スル時又ハ貸借人カ其貸借物ノ全部又ハ一部ノ拋棄ヲ旨渡サルノ爲メ又ハ或ル地役ノ執行ヲ耐忍ス可キノ旨渡ヲ受クル爲メ己レ自カラ裁判所ニ呼出サレタル時ハ其貸借人ハ貸貸人ヲ擔保ノ爲メニ招喚セサルヲ得ス而シテ若シ其貸借人カ要求スル時ハ己レニ占有ヲ爲サシムル所ノ貸貸人ヲ指名スルニ依リ其貸借人ヲシテ訴訟ヲ免カレシメサルヲ得ス(民一七六八附一七五)

第一千七百貳拾八條 貸借人ハ左ニ記スルニ箇ノ重要ナル義務ヲ擔任スルモ

ノトス

第一 其家父ニ於テ及ヒ賃借契約ニ依リ其賃借物ニ附與セラレタル用方ニ從ヒ又合意ノ欠缺ニ於テハ景況ニ據リ思量セラレタル用方ニ從ヒ其物ヲ使用スル事

第二 合意シタル時期ニ於テ賃貸ノ代價ヲ辨濟スル事(民一三〇、一三二、一三三、一三四、一三五、一三六、一三七、一三八、一三九)

第七百貳拾九條 若シ賃借人カ賃借物ヲ其定メラレタル使用ヨリ更ニ他ノ使用ニ供シ又ハ賃貸人ノ爲メニ損害ノ生スルヲアル可キ使用ニ供スル時ハ賃貸人ハ景況ニ從ヒ其賃貸ヲ取消サシムルヲ得可シ(民一七六、一七七、一七八、一七九)

第七百三十條 若シ賃貸人ト賃借人トノ間ニ於テ場所ノ景狀書ヲ作りタ
ル時ハ賃借人ハ其景狀書ニ從ヒ其賃借物ヲ收受シタルカ如クニテ其物ヲ返サ、ルヲ得ス但シ朽腐ニ依リ又ハ抗拒ス可カラサルカニ依リ減盡シ又ハ毀損シタル所ノモノハ格別ナリトス(民五五五、一七三、一七四、一七五)

第七百三十條 若シ場所ノ景狀書ヲ作りタル時ハ賃借人ハ賃借人負擔ノ修繕ノ良好ナル景狀ニテ之ヲ收受シタルモノト思量セラレ而シテ其如クニテ之ヲ返サ、ルヲ得ス但シ之ニ反スル証アル時ハ格別ナリトス(民一七三、一七四、一七五)

第七百三拾貳條 賃借人ハ自己ノ收益ノ間ニ生シタル毀損又ハ減盡ノ實ニ任スルモノトス但シ其毀損又ハ減盡ノ自己ノ過失ニ依ラヌシテ生シタルヲ証スル時ハ格別ナリトス(民五五五、一七三、一七四、一七五)

第七百三拾三條 賃借人ハ火災ノ實ニ任スルモノトス但シ左ノ諸件ヲ証スル時ハ格別ナリトス

意外ノ事故又ハ抗拒ス可カラサルカニ依リ又ハ築造ノ瑕疵ニ依リ火災ノ生シタル事

近隣ノ家屋ヨリ火ノ延及シタル事(民一四八、一四九、一五〇、一五一、一五二、一五三、一五四、一五五、一五六、一五七、一五八、一五九、一六〇、一六一、一六二、一六三、一六四、一六五、一六六、一六七、一六八、一六九、一七〇、一七一、一七二、一七三、一七四、一七五)

第七百三拾四條 若シ家屋賃借人ノ數名アル時ハ皆連帶シテ火災ノ實ニ

任ス可キモノトス

但シ其數名ノ賃借人カ其中一人ノ住居ニ於テ火災ノ始マリタルコトヲ証スル時ハ格別ニシテ此場合ニ於テハ其一人ノミ火災ノ實ヲ擔任ス可シ又其數名中ノ或者カ自己ノ住居ニ於テ火災ノ始マル可キコトナカリシ旨ヲ証スル時ハ格別ニシテ此場合ニ於テハ其或者ハ火災ノ實ヲ擔任セサルモノトス(民一三〇以下)

第七百三拾五條 賃借人ハ自己ノ家内ノ各人又ハ自己ノ轉借人ノ所爲ニ依リ生シタル毀損及ヒ滅盡ヲ擔任ス可シ(民一三八四)

第七百三拾六條 若シ書面ナクシテ賃貸ヲ爲シタル時ハ雙方中一方ノ者ハ土地ノ習慣ニ定メタル期限ヲ遵守スルニ非サレハ他ノ一方ノ者ニ解約ノ告知ヲ附與スルコトヲ得ス(民一七一五―七七五)

第七百三拾七條 若シ書面ヲ以テ賃貸ヲ爲シタル時ハ解約ノ告知ヲ附與スルノ必要ナルコトヲ其定メタル期限ノ終ニ至リ其賃貸ハ當然止息スルモノトス(民一二八―二七七五)

第七百三拾八條 若シ書面アル賃貸ノ終ニ至リ賃借人ノ猶其占有ヲ繼續シ且ツ其占有ヲ保存セシメラル、時ハ更ニ新ナル賃貸ノ成ルモノトス而シテ其新ナル賃貸ノ效ハ書面ナクシテ爲シタル賃貸ニ關スル條ニ依テ之ヲ規定ス(民一七二八―一七五九―七七六)

第七百三拾九條 若シ解約告知書ヲ送達シタル時ハ賃借人ハ假令其収益ヲ繼續シタルト雖モ默諾再賃貸ヲ申立ツルコトヲ得ス

第七百四拾條 前二條ノ場合ニ於テ賃借ノ爲メニ附與シタル保証ハ延期ヨリ生スル所ノ義務ニ擴及セサルモノトス(民二〇―一以下)

第七百四拾壹條 賃貸ノ契約ハ其賃貸シタル物ノ滅盡ニ依リ並ニ賃借人及ヒ賃借人各自ノ其約務ヲ履行スルコトノ欠缺ニ依リ解除スルモノトス(民一二八四―一八八―一七一七―一七六〇)

第七百四拾貳條 賃貸ノ契約ハ賃借人ノ死去ニ依リテモ又賃借人ノ死去ニ依リテモ解除セサルモノトス(民一二三三―二七九五)

第七百四拾三條 若シ賃借人ノ其賃貸シタル物ヲ賣リタル時ハ獲得者ハ

公正ノ貸貸契約書又ハ日附ノ正確ナル貸貸契約書ヲ有スル所ノ土地賃借人又ハ家屋賃借人ヲ辭却スルコトヲ得ス但シ貸貸ノ契約ニ依リ賃借人ノ其權利ヲ貯存シタル時ハ格別ナリトス(民五四六五四七二二五二二七五〇二七六一二一六六二一八三二一八五)

【參看】 第千四百四十條ノ下ニ記シタル千八百五十五年三月二十三日ノ法律ヲ看ル可シ

第千七百四拾四條 若シ貸貸ノ時ニ當リテ賣買ノ場合ニ於テハ獲得者其土地賃借人又ハ家屋賃借人ヲ辭却スルコトヲ得可キ旨ヲ合意シ而シテ其損害賠償ノ事ニ付キ毫モ約權ヲ爲サ、ル時ハ賃借人ハ以下ノ方法ヲ以テ土地賃借人又ハ家屋賃借人ニ賠償ス可キモノトス(民一七四六)

第千七百四拾五條 家屋房室又ハ店舗ニ關スル時ハ賃借人ハ土地ノ習慣ニ從ヒ解約ノ告知ト退去トノ間ニ於テ附與セラル、所ノ時間ノ貸貸ノ代價ニ等シキ金額ヲ損害賠償ノ名義ヲ以テ其親奪セラレタル家屋賃借人ニ辨濟スルモノトス

第千七百四拾六條 田野財產ニ關スル時ハ賃借人ヨリ土地賃借人ニ辨濟セ

サル可カラサル賠償ハ其殘餘ノ時間全部ノ貸貸代價ノ三分一トス

第千七百四拾七條 製造所工場又ハ巨額ノ立替金ヲ要スル所ノ其他ノ設立場ニ關スル時ハ鑒定人ヲシテ其賠償ヲ規定セシム可シ(附三〇二以下)

第千七百四拾八條 賣買ノ場合ニ於テハ土地賃借人又ハ家屋賃借人ヲ辭却スル爲メ貸貸契約ニ依リ貯存シタル權能ヲ用ヒント欲スル所ノ獲得者ハ右ノ外土地ノ習慣ニ於テ解約告知ノ爲メニ定メタル時期ニ豫メ家屋賃借人ニ通報ス可キモノトス

其獲得者ハ亦少クハ一年前ニ田野財產ノ賃借人ニ通報セサル可カラス(民一七三六一七七四)

第千七百四拾九條 土地賃借人又ハ家屋賃借人ハ賃借人ヨリ前ニ説明シタル損害賠償ヲ辨濟セラレ若シ賃借人ノ其損害賠償ヲ爲サ、ルニ於テハ新タナル獲得者ヨリ其損害賠償ヲ辨濟セラレタルニ非サレハ辭却セラル、コトナカル可シ

第千七百五拾條 若シ貸貸ヲ公正ノ証書ヲ以テ爲サス又ハ其貸貸ノ正確ナ

ル日附ヲ有セサル時ハ獲得者ハ毫モ損害賠償ヲ擔任セズ(民一三七一三二八
一七四三)

第一千七百五拾壹條 買戻ノ合意ニ於ケル獲得者ハ其買戻ノ爲メニ定メタル
期限ノ終リタルニ依リ助カス可カラサル所有者トナルニ至ル迄ハ賃借人
ヲ辭却スルノ權能ヲ用フルコトヲ得ス(民一六六五)

○第貳節 家屋ノ賃貸ニ特別ナル規則

第一千七百五拾貳條 家屋ニ充分ナル助産ヲ具備セサル家屋ノ賃借人ハ之ヲ
辭却スルコトヲ得可シ但シ其賃借人カ家屋ノ借賃ヲ擔當スルコト能フ可キ抵
保ヲ附與シタル時ハ格別ナリトス(民一三五〇三二二七九)

第一千七百五拾三條 家屋ノ轉借人ハ差押ノ時ニ當リテ其負債者タルコトアル
可キ轉借賃ノ額ニ充ツル迄ノ外所有者ニ對シテ擔任セサルモノトス而シ
テ其轉借人ハ時期ニ先ンシテ爲シタル辨濟ヲ以テ對抗スルコトヲ得ス
自己ノ賃貸ニ定メタル約權ニ據リ若クハ土地ノ習慣ニ依リ家屋轉借人ノ
爲シタル辨濟ハ時期ニ先ンシテ爲シタルモノト看做ス可カラス(民一三四一)

一三五三二七一七(八二〇)

第一千七百五拾四條 家屋賃借人負擔ノ修繕即チ反對ノ約款アルニ非サレハ
其賃借人ノ負擔ス可キ細少ナル補理ノ修繕ハ土地ノ習慣上ニテ斯クノ如
キモノトシテ指定メタル修繕及ヒ就中左ノ諸件ニ爲ス可キ修繕ナリトス
暖爐ノ火燒所暖爐ノ背面ノ板暖爐ノ周圍ノ裝具及ヒ暖爐上部ノ板
房室及ヒ其他住居ノ場所ノ壁ノ下端ヨリ二メートルノ高サニ至ル迄ノ
塗飾

房室ノ敷磚敷石但シ其中或者ノミノ破損シタル時ニ限ル
窓牖ノ玻璃版但シ霰又ハ家屋賃借人ノ擔任セサル其他ノ異常ナル偶然
ノ事故及ヒ抗拒ス可カラサルカアル偶然ノ事故ニ依リ破損シタル時ハ
格別ナリトス

門戸窓牖ノ戸(舖店ノ仕切板又ハ其外部ノ戸)蝶錠門鎖(民一七二〇)

第一千七百五拾五條 若シ朽腐又ハ抗拒ス可カラサルカノミニ依リ家屋賃借
人負擔ノモノト看做サレタル修繕ヲ爲ス可キニ至リシ時ハ其修繕ハ毫モ

家屋賃借人ノ負担タラサルモノトス(民一七三〇)

第一千七百五拾六條 井及ヒ糞坑ヲ浚フコトハ賃借人ノ負担タリ但シ之ニ反シタル約款アル時ハ格別ナリトス

第一千七百五拾七條 家屋ノ全部一棟ノ房室ノ全部、舖店又ハ總テ其他ノ房室ニ具フル爲メニ供給シタル動産ノ賃貸ハ土地ノ習慣ニ從ヒ家屋一棟ノ房室、舖店又ハ其他ノ房室ノ賃貸ノ通常ノ繼續間之ヲ爲シタルモノト看做ス可シ(民一一五九、一三五〇、一三五二)

第一千七百五拾八條 動産ノ備ハリタル房室ノ賃貸ハ一年何程ト定メテ之ヲ爲シタル時ハ一年毎ニ爲シタルモノト看做ス可シ

一月何程ト定メテ之ヲ爲シタル時ハ一月毎ニ爲シタルモノト看做ス可シ
一日何程ト定メテ之ヲ爲シタル時ハ一日毎ニ爲シタルモノト看做ス可シ
若シ一年又ハ一月又ハ一日ニ何程ト定メテ賃貸ヲ爲シタルノ証アラサル時ハ其賃貸ハ土地ノ習慣ニ從ヒ之ヲ爲シタルモノト看做ス可シ(民一一五九、一七三六)

第一千七百五拾九條 若シ家屋又ハ房室ノ賃借人カ書面ニ依レル賃借ノ終リシ後賃借人ノ方ヨリ故障ヲ受クルコトナクシテ其收益ヲ繼續スル時ハ土地ノ習慣ニ定メタル期限間以前ト同一ノ條件ヲ以テ之ニ占居スルモノト看做ス可シ而シテ其賃借人ハ土地ノ習慣ニ定メタル期限ニ從ヒ附與シタル解約告知ノ後ニ非サレハ最早其家屋又ハ房室ヲ退去スルコトヲ得ヌ又之ヲ其家屋又ハ房室ヨリ辭却スルコトヲ得ヌ(民一七三七、一七三八)

第一千七百六拾條 家屋賃借人ノ過失ニ依レル賃借取消ノ場合ニ於テハ其賃借人ハ再賃貸ノ爲メニ必要ナル時間賃借ノ代價ヲ辨濟スルコトヲ擔任ス可シ但シ妄用ヨリ生スルコトアル可キ損害ノ賠償ト相觸ル、コトナカル可シ(民一七二九、一七四二、一七五三、一七五五、一七五七、一七五九、一七六一)

第一千七百六拾壹條 賃借人ハ假令己レ自カテ其賃貸シタル家屋ニ占居セント欲スル旨ヲ申述スルト雖モ其賃貸ヲ解除スルコトヲ得ヌ但シ之ニ反シタル合意アル時ハ格別ナリトス(民一七四三)

第一千七百六拾貳條 若シ賃貸ノ契約ニ於テ賃借人ノ其家屋ニ占居スル爲メ

ニ來リ得可キ旨ヲ合意シタル時ハ其貸貸人ハ土地ノ習慣ニ依リ定メタル時期ニ於テ豫メ解約告知書ヲ送達スルコトヲ擔任ス可シ(民一七三六一七四三)

○第三節 土地ノ貸貸ニ特別ナル規則

第七百六拾三條 貸貸人ト果實ヲ分派スルノ條件ヲ以テ耕作スル者ハ轉貸スルコトヲ得ス又讓渡スコトヲ得ス但シ貸貸ノ契約ニ依リ明カニ右ノ權能ヲ附與セラレタル時ハ格別ナリトス(民一七一七)

第七百六拾四條 逃背ノ場合ニ於テハ所有者ハ收益ヲ復スルノ權利ヲ有シ而シテ貸借人ハ貸借ノ不執行ヨリ生スル損害賠償ヲ言渡サル可シ(民一七四一)

第七百六拾五條 若シ土地ノ貸貸ニ於テ其土地ノ現實ニ有スル所ノ面積ヨリモ更ニ小ナル面積又ハ更ニ大ナル面積ヲ其土地ニ附與シタル時ハ賣買ノ卷ニ明示シタル場合ト規則トニ從フニ非サレハ其土地賃借人ノ爲メニ代價ノ増加又ハ減少ヲ爲ス可ラサルモノトス(民一六一七以下)

第七百六拾六條 若シ田野不動産ノ賃借人カ其収益ノ爲メニ必要ナル家

畜及ヒ器具ヲ其田野不動産ニ備ヘス又ハ其耕作ヲ拋棄シ又ハ其家父ニ於テ耕作セス又ハ其賃借シタル物ヲ其定メラレタル使用ヨリ更ニ他ノ使用ニ供シ又ハ總テ一般ニ其賃借人カ賃借ノ約款ヲ執行セス而シテ之レカ爲メ賃借人ニ損害ヲ生セシメタル時ハ賃借人ハ景況ニ從ヒ其賃借ヲ取消シタルコトヲ得可シ

賃借人ノ所爲ヨリ生シタル取消ノ場合ニ於テハ其賃借人ハ第七百六十四條ニ記シタル如ク損害ノ賠償ヲ擔任ス可シ(民一七二九一七四六一〇二ノ第二)

第七百六拾七條 田野財産ノ各賃借人ハ賃借ノ契約ニ從ヒ其特ニ定メラル場所ニ收穫物ヲ貯藏ス可キモノトス(民一七七七一七七)

第七百六拾八條 田野財産ノ賃借人ハ其土地ニ行フコトアル侵奪ヲ所有者ニ通知ス可ク若シ然ラサル時ハ總テ費額及ヒ損害ノ賠償ヲ負擔ス可シ其通知ハ土地ノ距離ニ從ヒ裁判所ヘノ呼出ノ場合ニ於テ規定セラレタル期限ト同一ノ期限内ニ之ヲ附與セサル可カラズ(民一七二六附七二一〇三三)

第一千七百六拾九條 若シ數年間賃貸ヲ爲シ而シテ其賃貸ノ繼續間意外ノ事故ニ依リ收獲物ノ全部又ハ少クモ其一半ヲ失ヒタル時ハ土地賃借人ハ其賃借代價ノ釋放ヲ求ムルコトヲ得可シ但シ賃借人カ其以前ノ收獲物ニ依テ賠償セラレタル時ハ格別ナリトス

若シ其賃借人カ賠償セラレタル時ハ賃貸ノ終リニ至ラサレハ釋放ノ評價ヲ爲スコトヲ得ス但シ其賃貸ノ終ニ至リテハ收益シタル各年間ノ相殺ヲ爲ス可キモノトス

然レモ裁判官ハ賃借人ノ受ケタル損失ニ准シ賃借人ヲシテ代價ノ一部分ヲ辨濟スルコトヲ假リニ免カレシムルコトヲ得可シ(民一七三三二七七二)

第一千七百七拾條 若シ其賃貸ノ唯一年間ノミニシテ而シテ其損失カ果實ノ全部又ハ少クモ一半タル時ハ賃借人ハ其賃借代價ノ之ニ比准シタル一部分ヲ免除セラル可シ

若シ其損失カ一半ヨリ少キ時ハ賃借人毫モ釋放ヲ得ント稱言スルコトヲ得ス(民一七六九二七七二以下)

第一千七百七拾壹條 果實ヲ地ヨリ離分シタル後ニ其果實ノ損失ヲ生シタル時ハ土地ノ賃借人釋放ヲ受クルコトヲ得ス但シ其賃借ノ契約ニ所有者ニ品物ヲ以テ收獲物ノ一部分ヲ附與スル旨ヲ定メタル時ハ格別ニシテ此場合ニ於テハ賃借人ヨリ所有者ノ受ク可キ收獲物ノ一部分ヲ其所有者ニ渡スコトヲ遲滞シタルニ非サレハ所有者ニ於テ自己ノ損失ノ分ケ前ヲ負擔セサルヲ得ス

賃貸ノ契約ヲ爲シタル時期ニ當リ損害ノ原由ノ存在シテ之ヲ覺知シタルニ於テハ土地ノ賃借人亦同シク釋放ヲ求ムルコトヲ得ス(民一三〇二)

第一千七百七拾貳條 賃借人ハ明カナル約權ニ依リ意外ノ事故ヲ責任セシムルコトヲ得可シ(民一一三四一三〇三二七七三)

第一千七百七拾三條 右ノ約權ハ震雷火凍互不熟ノ如キ通常ナル意外ノ事故ノミニ及フモノト解ス可シ

其約權ハ戰亂ノ剽掠又ハ洪水ノ如ク其國ノ通常受クルモノニ非サル異常ナル意外ノ事故ニ及ハサルモノト解ス可シ但シ賃借人ノ總テ先見セラレ

又ハ先見セラレサル意外ノ事故ヲ責任シタル時ハ格別ナリトス

第一千七百七拾四條 田野不動産ノ書面ナキ貸貸ハ賃借人カ其賃借シタル不動産ノ總テノ果實ヲ收取スル爲メニ必要ナル時間之ヲ爲シタルモノト看做ス可シ

故ニ牧地、葡萄園及ヒ其他總テ一年間ニ全ク其果實ヲ收取スル土地ノ賃貸ハ一年間之ヲ爲シタルモノト看做ス可シ

耕作ス可キ地ノ賃貸ハ循環耕種又ハ四季耕種ニ其地ヲ分チタル時ハ其循環耕種ノ數ニ准スル若干年間之ヲ爲シタルモノト看做ス可シ(民一七一五、一七三六)

第一千七百七拾五條 田野不動産ノ賃貸ハ假令書面ナクシテ之ヲ爲シタルト雖也前條ニ從ヒ之ヲ爲シタルト看做ス可キ時間ノ終ニ至リ當然止息スルモノトス(民一七三七)

第一千七百七拾六條 若シ書面アル田野賃貸ノ終ニ至リ賃借人ノ猶其占有ヲ繼續シ且ツ其占有ヲ保存セシメラル、時ハ更ニ新タナル賃貸ノ成ルモノ

トス而シテ其新ナル賃貸ノ效ハ第一千七百七十四條ニ依テ之ヲ規定ス(民一七三八、一七五九、一七七四)

第一千七百七拾七條 退去スル土地賃借人ハ耕作ニ於テ自己ニ繼替スル所ノ者ニ翌年ノ事業ノ爲メニ適當ノ房舎及ヒ其他ノ便益物ヲ遺存セサル可カラズ又其裏面ニ於テ入り來ル所ノ土地賃借人ハ退去スル所ノ賃借人ニ秣糞ノ收拾及ヒ爲シ殘シタル收穫ノ爲メニ適當ノ房舎及ヒ其他ノ便益物ヲ得セシメサル可カラズ

右ノ中何レノ場合ニ於テモ土地ノ習慣ニ循ハサルヲ得ス(民一七六七)

第一千七百七拾八條 退去スル土地賃借人ハ其收益ニ入リシ時ニ於テ糞及ヒ肥料ヲ收受シタルニ於テハ亦本年ノ糞及ヒ肥料ヲ遺存セサルヲ得ス又其土地賃借人ノ當テ糞及ヒ肥料ヲ收受セサリシ時ト雖也所有者ハ評價ニ從ヒ之ヲ留置クヲ得可シ

○第三章 勞力及ヒ勉勞ノ賃貸

第一千七百七拾九條 勞力及ヒ勉勞ノ賃貸ノ重要ナル種類三箇アリ

- 第一 或人ノ役務ノ爲メニ雇入レラル、労働者ノ賃貸
- 第二 人又ハ商品ノ運送ヲ引受クル水陸運送人ノ賃貸
- 第三 工作契約又ハ工事契約ニ依レル工事起作人ノ賃貸(民一七八。以下、一七八二以下、一七八七以下)

○第壹節 雇人及ヒ職工ノ賃貸

第千七百八拾條 何人ニ限ラス制限アル時間又ハ定マリタル起作ノ爲メニ非サレハ自己ノ役務ヲ約束スルコトヲ得ス

第千七百八拾壹條 (千八百六十八年八月二日ノ法律ヲ以テ削除ス)雇主ハ左ノ諸件ニ付テハ其確言ニ依リ信據セラル、モノトス
雇賃ノ量額
満期トナリタル一年間ノ給料ノ辨濟
本年分ノ爲メニ附與シタル内金

○第貳節 水陸運送人

第千七百八拾貳條 水陸運送人ハ己レニ委託セラレタル物ノ監守及ヒ保存

ニ付テハ附託及ヒ爭訟アル物ノ附託ノ卷ニ記スル所ノ旅店主ト同一ノ義務ニ服従スルモノトス(民一九五三。二。二ノ第六節一。三以下)

第千七百八拾三條 水陸運送人ハ既ニ其船又ハ車ノ内ニ收受シタル所ノモノ、ミナラス其船又ハ車ニ載スル爲メニ港又ハ貨物貯藏場ニ於テ己レニ交付セラレタル所ノモノヲモ擔任ス(民一三八四。一七八二。一七八四。一七八五節一。三)

第千七百八拾四條 水陸運送人ハ己レニ委託セラレタル物ノ滅盡及ヒ損壞ヲ擔任ス可ヤモノトス但シ其物ノ意外ノ事故又ハ抗拒ス可カラサルカニ依リ滅盡シ及ヒ損壞シタル旨ヲ証スル時ハ格別ナリトス

第千七百八拾五條 水陸ニ依レル共同車輛ノ起作人及ヒ共同運輸ノ起作人ハ其引受クル所ノ金圓物品及ヒ包袋ノ簿冊ヲ設ケサル可カラス(民一七八四。節九六以下。一。七三三。四)

第千七百八拾六條 共同ノ車輛及ヒ運輸ノ起作人及ヒ掌理者並ニ船舶ノ首長ハ右ノ外其各人ト其他ノ國土トノ間ニ於テハ法律ヲ爲ス所ノ特別ノ規

則ニ服従ス可ヤモノトス

○第三節 工作契約及ヒ工事契約

第一千七百八拾七條 若シ或人ニ一箇ノ工事ヲ爲スコトヲ任シタル時ハ其者ノ唯自己ノ勞働又ハ勉勞ノミヲ供給シ又ハ物料ヲモ亦供給ス可ヤ旨ヲ合意スルコトヲ得可シ(民一三四二一三四八)

第一千七百八拾八條 若シ職工カ物料ヲ供給スル場合ニ於テ物ヲ引渡ス前ニ如何ナル方法タルヲ問ハス其物ノ滅盡シタル時ハ其損失ハ職工ニアリトス但シ囑託主カ其物ヲ收受スルコトヲ遲滞シタル時ハ格別ナリトス(民一三〇二一七八九一七九〇)

第一千七百八拾九條 職工カ唯自己ノ勞働又ハ自己ノ勉勞ノミヲ供給スル場合ニ於テ若シ其物ノ滅盡シタル時ハ職工ハ自己ノ過失ナラテハ擔任セス(民一三八二一三三三)

第一千七百九拾條 若シ前條ノ場合ニ於テ工作物ヲ收受セサル前ニ囑託主ノ之ヲ検査スルヲ遲滞スルコトヲシテ其物ノ滅盡シタル時ハ假令職工ノ方

ニ過失ヲ過失ナキ時ト雖モ職工ハ其給料ヲ得ント求ムルコトヲ得ス但シ其物カ物料ノ瑕疵ニ依テ滅盡シタル時ハ格別ナリトス

第一千七百九拾壹條 若シ數箇ニ分チ又ハ度量ヲ以テスル工事ニ關スル時ハ各箇ノ部分毎ニ其検査ヲ爲スコトヲ得可シ而シテ囑託主ヨリ其爲シタル工事ニ比准シテ職工ニ辨濟スル時ハ其辨濟シタル總テノ部分ニ付テハ検査ヲ爲シタリト看做ス可シ

第一千七百九拾貳條 若シ請負ヲ以テ建造シタル建築物カ其建造ノ瑕疵ニ依リ又ハ然ノミナラス地所ノ瑕疵ニ依リ全部又ハ一部ノ滅盡シタル時ハ其建築者及ヒ起作人ハ十年間其責ニ任ス可ヤモノトス(民一七八八一七九三二二七〇)

第一千七百九拾三條 若シ建築者又ハ起作人カ地所ノ所有者ト共ニ決定合意シタル註文書ニ從ヒ建造物ノ請負ヲ以テスル建造ヲ引受ケタル時ハ其建築者又ハ起作人ハ工價又ハ材料ノ價ノ増加シタルヲ口實ト爲シ又ハ右ノ註文書ニ爲シタル變更又ハ増加ヲ口實ト爲シテ其代價ノ増加ヲ求ムルコト

ヲ得ス但シ書面ヲ以テ其變更又ハ増加ヲ許可シ且ツ所有者ト其代價ヲ合
意シタル時ハ格別ナリトス(民二一〇三ノ第四二一〇)

第一千七百九拾四條 囑託主ハ假令工事ノ既ニ始マリタル時ト雖モ起作人ニ
其總テノ費額ト其總テノ勞働ト起作人ノ其起作ニ於テ得益スルコトヲ得タ
ル可キ諸件トヲ價フニ依リ自己ノ意ノミヲ以テ其購買ノ契約ヲ取消ス
コトヲ得可シ

第一千七百九拾五條 勞力貸貸ノ契約ハ職工、建築者又ハ起作人ノ死去ニ依リ
解分スルモノトス(民二二三七)

第一千七百九拾六條 然レモ所有者ハ其勞働又ハ材料カ自己ノ爲メニ有益タ
ルコトヲ得可キ時ノモニ於テハ合意ニ依リ定メタル代價ニ比准シテ其職工、
建築者又ハ起作人ノ遺留財産ニ其爲シタル勞力ノ價額及ヒ其準備シタル
材料ノ價額ヲ辨濟スルコトヲ擔任ス可シ

第一千七百九拾七條 起作人ハ其使用スル各人ノ所爲ヲ擔當ス(民二三八四)

第一千七百九拾八條 起作ヲ以テ爲ス所ノ建造物又ハ其他ノ工作物ノ建造ニ

使用セラレタル泥工匠工及ヒ其他ノ職工ハ其訴ヲ起ス時ニ當リ其工事ヲ
爲サシムル者カ起作人ニ對シテ負債者タル所ノモノ、額ニ充ツル迄ノ外
其工事ヲ爲サシムル者ニ對シテ訴權ヲ有セサルモノトス

第一千七百九拾九條 直接ニ購負ノ契約ヲ爲ス所ノ泥工匠工、職工及ヒ其他ノ
職工ハ本節ニ定メタル規則ニ從フ可キモノトス但シ此等ノ各人ハ其約定
スル所ノ部分ニ於テハ起作人タリ

○第四章 獸借契約

○第壹節 總則

第一千八百條 獸借契約トハ雙方ノ間ニ合意シタル條件ニ從ヒ家畜ノ元資ヲ
監守シテ之ヲ畜養シ及ヒ之ヲ管照スル爲メ其一方ヨリ他ノ一方ニ其家畜
ノ元資ヲ附與スル所ノ契約ヲ云フ

第一千八百壹條 獸借契約ハ之ヲ分テ數種トス
單一ナル即チ通常ノ獸借契約
折半ノ獸借契約

土地賃借人又ハ分果耕作人ニ附與シタル獸借契約

又不適當ニ獸借契約ト名クル所ノ第四種ノ契約アリ(民一八〇四以下一八一八以下一八二二以下一八二七以下一八三一)

第一千八百貳條 増殖スルコトヲ得可ク又ハ農業或ハ商業ノ爲メニ利益トナルコトヲ得可キ各種ノ獸類ヲ獸借契約ニテ附與スルコトヲ得可シ

第一千八百三條 別段ナル合意ノ欠缺ニ於テハ右等ノ契約ヲ以下ノ原則ヲ以テ規定ス(民一一三四一八一)

○第貳節 單一ナル獸借契約

第一千八百四條 單一ナル獸借契約トハ賃借人カ増殖シタル獸ノ一半ヲ利益シ而シテ又其損失ノ一半ヲ負擔ス可キノ條件ヲ以テ家畜ヲ監守シ之ヲ畜養シ及ヒ之ヲ管理スル爲メ一方ノ者ヨリ他ノ一方ノ者ニ家畜ヲ附與スル所ノ契約ヲ云フ(民一八一)

第一千八百五條 國貨貸契約ニ於テ家畜ニ附シタル評價ハ之レカ所有權ヲ賃借人ニ轉移セズ其評價ハ貸貸ノ終ニ於テ存在スルコトアル可キ損失又ハ利益

ヲ定ムル事ノ外更ニ其他ノ目的ヲ有セサルモノトス(民一八一〇一八一七一一八二)

三

第一千八百六條 賃借人ハ其家畜ノ保存ニ付テハ其家父ノ注意ヲ負擔スルモノトス(民一八一〇一八一七)

第一千八百七條 意外ノ事故アル前ニ賃借人ノ方ニ或ル過失アリテ其過失ナカリセハ滅盡ヲ生セサル可キ時ノ外ハ賃借人ハ意外ノ事故ヲ擔任セス(民一一四八一三八二)

第一千八百八條 爭ヒアル場合ニ於テハ賃借人ハ意外ノ事故ヲ証シ又貸貸人ハ賃借人ニ歸スル所ノ過失ヲ証ス可キモノトス(民一三〇三一一三一一五)

第一千八百九條 意外ノ事故ニ依リ免除セラレタル賃借人ハ常ニ必ス獸類ノ皮ヲ計算ス可キモノトス

第一千八百拾條 若シ賃借人ノ過失ナクシテ家畜ノ全ク滅盡シタル時ハ其損失ハ賃借人ニアリトス

若シ其一部分ノモノ滅盡シタル時ハ原來ノ評價ノ代價ト獸借契約ノ終ニ

於ケル其評價ノ代價トニ從ヒ共同シテ其損失ヲ負擔ス可シ(民三〇二八二七)
第一千八百拾壹條 何人ニ限ラス左ノ諸件ヲ約權スルコトヲ得ス

賃借人ノ過失ナク意外ノ事故ニ依リ滅盡ノ生シタル時ト雖モ賃借人ニ於テ其家畜ノ全キ滅盡ヲ負擔スル事

賃借人カ其損失ニ於テ利益ニ於ケルヨリモ更ニ大ナル分ケ前ヲ負擔スル事

賃貸人カ賃貸ノ終ニ至リ其供給セシ家畜ヨリモ幾許カ更ニ多數ヲ先収スル事

總テ此類ノ合意ハ無効ノモノナリ

賃借人ハ其獸借ヲ以テ附與セラレタル獸類ノ乳汁、糞料及ヒ勞働ヲ己レ一人ニテ利益ス

獸毛及ヒ増殖シタル獸ハ之ヲ分派ス(民五四七五八三二八二五)

第一千八百拾貳條 賃借人ハ賃貸人ノ承諾ナクシテ其元資タル獸群若クハ増殖シタル獸群中ノ一頭ノ獸ヲモ處分スルコトヲ得ス又賃貸人モ賃借人ノ承

諾ナクシテ之ヲ處分スルコトヲ得ス

第一千八百拾三條 若シ他人ノ土地賃借人ニ家畜ヲ附與シタル時ハ其土地賃借人ニ土地ヲ貸ス所ノ所有者ニ其旨ヲ通報セサルヲ得ス若シ然ラサル時ハ其所有者ハ其土地賃借人カ己レニ對シテ負擔スル所ノモノ、爲メニ其家畜ヲ差押ヘテ之ヲ賣ラシムルコトヲ得可シ(民二一〇三八一一九)

第一千八百拾四條 賃借人ハ賃貸人ニ告知スルコトヲシテ獸毛ヲ剪取スルコトヲ得ス(民一八一)

第一千八百拾五條 獸借契約ノ繼續スル時間ニ付キ合意ニ依テ其時期ヲ定メサル時ハ三年間之ヲ爲シタリト看做ス可シ(民一七七四)

第一千八百拾六條 若シ賃借人ノ其義務ヲ履行セサル時ハ賃貸人更ニ早ク獸借契約ノ解除ヲ求ムルコトヲ得可シ(民二一八四一七六九)

第一千八百拾七條 賃貸ノ終ニ至リ又ハ其解除ノ時ニ當リ家畜ノ更ニ新タナル評價ヲ爲ス可シ
賃貸人ハ初メノ評價ノ額ニ充ツル迄各種ノ獸ヲ先収スルコトヲ得可シ而シ

テ其剩餘ハ之ヲ分派ス
若シ初メノ評價ニ充ツルニ足ル可キ獸ノ存在セサル時ハ貸貸人其殘存ス
ル所ノモノヲ収取シ而シテ雙方ノ者ハ其損失ヲ分擔ス可シ(民一八〇五―一八一
〇、一八二六)

○第三節 折半ノ獸借契約

第千八百拾八條 折半ノ獸借契約トハ契約者各自ヨリ家畜ノ一半ヲ供給シ
而シテ其利益ニ付キ又ハ其損失ニ付キ之ヲ共通スル一箇ノ會社ヲ云フ(民
一八〇三、一八四二、一八五三)

第千八百拾九條 獸類ノ乳汁糞料及ヒ勞働ハ單一ナル獸借契約ニ於ケル如
ク賃借人唯一人ニテ之ヲ利益ス

貸貸人ハ獸毛及ヒ増殖シタル獸ノ一半ノミニ付キ權利ヲ有スルモノトス
總テ右ニ反シタル合意ハ無効ノモノナリ但シ賃借人カ分果貸地ノ所有者
ニシテ賃借人カ其土地ノ賃借人又ハ其分果耕作人タル時ハ格別ナリトス
(民一八二三)

第千八百貳拾條 右ノ外總テ單一ナル獸借契約ノ規則ハ折半ノ獸借契約ニ
適用スルモノトス

○第四節 所有者ヨリ其土地賃借人又ハ分果耕作人ニ附與シタル
獸借契約

○第壹款 土地賃借人ニ附與シタル獸借契約

第千八百貳拾壹條 此獸借ハ(亦之ヲ名ケテ)シエタル、ド、フェールト云フ)賃借
ノ終ニ至リ土地賃借人カ其收受セシ家畜ノ評價シタル代價ニ等シキ價額
ノ家畜ヲ還存ス可キノ責任ヲ以テ分果貸地ノ所有者ヨリ其貸地ヲ賃貸ニ
附スル所ノモノナリ

第千八百貳拾貳條 土地賃借人ニ附與シタル家畜ノ評價ハ土地賃借人ニ其
所有權ヲ移轉スルモノニ非ス然レハ其家畜ヲ土地賃借人ノ危険ニ附スル
モノトス(民一八〇五、一八二五)

第千八百貳拾三條 總テノ利益ハ其賃借ノ繼續スル間ハ土地賃借人ニ屬ス
但シ之ニ反シタル合意アル時ハ格別ナリトス(民一八一九)

第一千八百貳拾四條 土地賃借人ニ附與シタル黙借ニ於テハ糞料ハ賃借人ノ
一身上ノ利益中ニアラサルモノニシテ其分果貸地ニ屬スルモノトス但シ
其糞料ハ分果貸地ノ収益ノミニ之ヲ用ヒサルヲ得ス(民一七七八)

第一千八百貳拾五條 損失ハ假令全部ニシテ且ツ意外ノ事故ニ依ルモノト雖
モ土地賃借人ニ於テ全ク之ヲ負擔ス可シ但シ之ニ反シタル合意アル時ハ
格別ナリトス(民一八二二)

第一千八百貳拾六條 賃借ノ終ニ至リ土地賃借人ハ家畜ノ原來ノ評價額ヲ辨
濟シテ其家畜ヲ引留ムルヲ得ス其土地賃借人ハ己レノ收受セシモノニ
同シキ價額ノ家畜ヲ遺存セサルヲ得ス

若シ不足アル時ハ土地賃借人之ヲ辨濟セサルヲ得ス而シテ土地賃借人ニ
屬スルモノハ剩餘ノミトス

○第貳款 分果耕作人ニ附與シタル黙借契約

第一千八百貳拾七條 若シ分果耕作人ノ過失ナクシテ家畜ノ全ク滅盡シタル
時ハ其損失ハ賃借人ニアリトス(民一八一〇、一八一五)

第一千八百貳拾八條 分果耕作人ハ自己ノ分ケ前タル羊毛ヲ其通常ノ價額以

下ノ代價ヲ以テ賃借人ニ委付ス可キ旨ヲ約權スルヲ得可シ

又賃借人ハ利益ノ更ニ大ナル分ケ前ヲ受ク可キ旨ヲ約權スルヲ得可シ

又賃借人ハ乳汁ノ一半ヲ受ク可キ旨ヲ約權スルヲ得可シ

然レモ分果耕作人ニ於テ總テノ損失ヲ擔任ス可キ旨ヲ約權スルヲ得ス

(民一八一)

第一千八百貳拾九條 此黙借ハ分果貸地ノ賃借ト共ニ終ルモノトス(民一七三七

一七七四)

第一千八百三拾條 此黙借ハ右ノ外總テ單一ナル黙借契約ノ規則ニ服従スル

モノトス(民一八〇四以下)

○第五節 不適當ニ黙借契約ト名クル契約

第一千八百三拾壹條 若シ一頭又ハ數頭ノ牝牛ヲ畜養セシムル爲メニ之ヲ附
與シタル時ハ賃借人其所有權ヲ保存シ而シテ賃借人ハ唯其牝牛ノ産ミタ
ル體ノ利益ヲ受クルノミトス

○第九卷 會社ノ契約千八百四年三月八日決定同月十八日宣令

○第一章 總則

第一千八百三拾貳條 會社トハ二人又ハ數人カ或ル事物ヨリ生スルヲアル可キ利益ヲ分派スルノ主眼ヲ以テ其或ル事物ヲ共通ニ附スルヲ合意スル所ノ契約ヲ云フ(民一〇二以下、百五〇番一八以下)

第一千八百三拾三條 總テノ會社ハ合法ノ目的ヲ有シ而シテ結約者共同ノ利益ノ爲メニ之ヲ契約セサル可カラズ
各社員ハ其會社ニ或ハ金圓或ハ其他ノ財産或ハ自己ノ勉勞ヲ持參セサル可カラズ(民一一三、一一八、三三三、一八五)

第一千八百三拾四條 總テ會社ハ若シ其目的ノ百五十ヲラシク以上ノ價額タル時ハ書面ヲ以テ証明セサルヲ得ス

假令百五十ヲラシク以下ノ金額又ハ價額ニ關スル時ト雖モ會社ノ證書ニ記載シタル所ニ反スル事及ヒ其證書ニ記載シタル所ヨリ以外ノ事ニ付証人ノ証ヲ許サス又其證書ノ前或ハ其證書ノ時或ハ其證書ノ後ニ言説シタルト述フル所ノ事ニ付テモ亦証人ノ証ヲ許サス(民一三四一、三四七、三三三、一八六、百三九四。)

○第二章 會社ノ種々ノ種類

第一千八百三拾五條 會社ハ全括ノモノアリ又ハ特定ノモノアリ(民一八三六以下、一八四一以下)

○第一節 全括會社

第一千八百三拾六條 全括會社ヲ分テ二種トス一ハ總テノ現在ノ財産ノ會社又一ハ得益ノ全括會社是レナリ
第一千八百三拾七條 總テノ現在ノ財産ノ會社トハ結約者カ其現在占有スル總テノ財産及ヒ不動産ト其財産及ヒ不動産ヨリ得ルヲアル可キ利益トヲ共通ニ附スル所ノ會社ヲ云フ

締約者ハ亦總テ其他ノ種類ノ得益ヲ會社ニ包含スルコトヲ得可シ然レハ財產相續贈與又ハ遺囑ニ依リ其締約者ノ得ルコトアル可キ財產ハ收益ノ爲メノミニ非サレハ其會社ニ入ラサルモノトス而シテ此等ノ財產ノ所有權ヲ會社ニ入ラシムルヲ以テ旨趣トスル總テノ約權ハ之ヲ禁止ス但シ夫婦ノ間ニ於テ且ツ夫婦ニ關シテ規定シタル所ニ從フ時ハ格別ナリトス(民一三〇、一四九、一五二、一五六)

第一千八百三拾八條 得益ノ全括會社ハ締約者カ如何ナル名義タルヲ問ハス其會社ノ繼續スル間ニ自己ノ勉勞ニ依リ獲得スル所ノ諸件ヲ包含ス又各社員ノ其契約ノ時ニ於テ占有スル所ノ助産モ亦其會社ニ包含ス然レハ其各社員ノ一身上ノ不助産ハ收益ノ爲メノミニ非サレハ其會社ニ入ラサルモノトス(民一三七、一三五、一八四、一八五、一八七)

第一千八百三拾九條 全括會社ノ單一ナル合意ヲ其他ノ説明ナクシテ爲シタル時ハ得益ノ全括會社ノミヲ惹起スルモノトス

第一千八百四拾條 如何ナル全括會社ト雖モ各自相互ニ附與シ又ハ收受スル

ノ能力アリテ且ツ他人ノ損害ニ於テ己レヲ利スルコトヲ禁セラレサル各人ノ間ニ非サレハ之ヲ散クルコトヲ得ス(民八五、四九〇、六九一、三以下一〇、九八)

○第貳節 特定會社

第一千八百四拾壹條 特定會社トハ或ル定マリタル物又ハ其物ノ使用又ハ其物ヨリ收取スル果實ノミニ適用スル所ノ會社ヲ云フ(民一一二、六番一八)

第一千八百四拾貳條 數人カ指定メタル一箇ノ起作ノ爲メ若クハ或ル工技又ハ職業ノ執行ノ爲メニ結社スル所ノ契約ハ亦特定會社ナリトス(民一八七、三番一八以下)

○第三章 社員ノ間ニ於ケル及ヒ第三ノ人ニ關スル社員ノ約務

○第壹節 社員ノ間ニ於ケル社員ノ約務

第一千八百四拾三條 會社ハ其契約ノ時ヨリ直チニ始マルモノトス但シ契約ニ其他ノ時期ヲ指定メタル時ハ格別ナリトス

第一千八百四拾四條 若シ會社ノ繼續スル時間ニ付キ合意アラサル時ハ第一千八百六十九條ニ載セタル改條ヲ以テ社員ノ生存中之ヲ契約シタリト看做

ス可シ又其繼續時間ノ限リアル一箇ノ事業ニ關スル時ハ其事業ノ繼續セ
サル可カラサル時間中之ヲ契約シタリト看做ス可シ(民一八六五)

第千八百四拾五條 各社員ハ其會社ニ持參スルコトヲ約務シタル所ノ諸件ニ
付キ其會社ニ對シテ負債者タリ

若シ其持參物カ特定物ニシテ會社ノ之ヲ視奪セラル、時ハ其社員ノ會社
ニ對シテ之レカ擔保者タルコト猶ホ賣主ノ其買主ニ對シテ擔保者タルカ如
シ(民一六一九一六二五二八三三二八四六而二三二六)

第千八百四拾六條 一箇ノ金額ヲ會社ニ持參セサル可カラサル社員ノ其事
ヲ爲サ、ル時ハ其金額ヲ辨濟セサル可カラサル日ヨリ起算シテ請求ヲ受
クルコトナク當然右金額ノ利息ノ負債者トナルモノトス

社員ノ其會社ノ金庫ヨリ取り出シタル金額ニ關シテモ右社員ノ自己ノ私
シノ利益ノ爲メニ其金額ヲ會社ノ金庫ヨリ引出セシ日ヨリ起算シテ右ト
同一ナリトス

右ノ諸件ハ別段ノ道理アル時ハ更ニ多量ノ損害賠償ト相觸ル、コトナカル

可シ(民一一四六一一四九二二五三)

第千八百四拾七條 會社ニ自己ノ勉勞ヲ持參スルコトニ服從シタル社員ハ其
會社ノ目的タル作業ノ種類ニ依テ爲シタル總テノ得益ヲ其會社ニ計算セ
サルヲ得ス(民一八五三)

第千八百四拾八條 若シ社員中ノ一人カ其私シノ計算ノ爲メ一箇ノ人ニ對
シテ償還ヲ要求スルヲ得可キ金額ノ債主ニシテ而シテ其一個ノ人カ會社
ニ對シテ等シク償還ヲ要求セラル可キ金額ヲ負擔シタル時ハ假令其社員
中ノ一人カ其受取証書ニ依リ其負債者ヨリ收受シタルモノヲ自己ノ私
ノ債權ニ全ク充用ヲ爲ス旨ヲ定メタル時ト雖モ其負債者ヨリ收受シタル
モノ、充用ハ二箇ノ債權ノ割合ヲ以テ會社ノ債權ト其社員ノ債權トニ付
キ之ヲ爲サ、ルヲ得ス然レモ若シ其社員カ其受取証書ニ會社ノ債權ニ付
キ全ク充用ヲ爲ス可キ旨ヲ明記シタル時ハ其約權ヲ執行ス可キモノトス
(民一二五三一八四九)

第千八百四拾九條 社員中ノ一人カ共通債權中ノ自己ノ分ヶ前ノ全部ヲ收

受シ然ル後其負債者ノ無資カトナリタル時ハ假令其社員ハ特ニ自己ノ分
ケ前ノ爲メニ受取証書ヲ附與シタル時ト雖モ其收受セシ所ノモノヲ共通
ノ財産合部ニ返還ス可キモノトス

第一千八百五拾條 各社員ハ自己ノ過失ニ依テ會社ニ被ラシメタル損害ヲ會
社ニ對シテ擔任スルモノトス但シ其損害ト自己ノ勉勞ニ依リ其他ノ事業
ニ於テ會社ニ得セシメタル利益トヲ相殺スルコトヲ得ス(民一四六二九二二三
八二)

第一千八百五拾壹條 若シ収益ノミヲ會社ニ附シタル物カ使用ニ依テ消耗セ
サル特定ニシテ且ツ定マリタル物体ナル時ハ其物ハ所有者タル社員ノ危
險ニアルモノトス

若シ其物ノ消耗シ又ハ其物ヲ保チ置クニ依テ損壞シ又ハ其物ヲ賣ルコトニ
定メ又ハ目錄ニ載セタル評價ニ據リ其物ヲ會社ニ附シタル時ハ其物ハ會
社ノ危険ニアリトス

若シ其物ヲ評價シタル時ハ社員ハ其評價ノ額ノミヲ取戻スコトヲ得可シ(民

一三〇二二八四五二八六七)

第一千八百五拾貳條 社員ハ會社ノ爲メニ拂ヒ出シタル所ノ金額ニ付キ會社
ニ對シテ訴權ヲ有スルノミナラス會社ノ事業ノ爲メニ善意ヲ以テ契約シ
タル義務及ヒ其管理ヨリ離分ス可カラサル危険ニ付テモ亦會社ニ對シテ
訴權ヲ有スルモノトス(民二〇二二二四一八四五以下一八六二一九九八番六三)

第一千八百五拾三條 若シ會社ノ証書ニ利益又ハ損失ニ於ケル各社員ノ分ケ
前ヲ定メサル時ハ其各社員ノ分ケ前ハ會社ノ資本中ニ於ケル其各社員ノ
持參物ニ比准ス可キモノトス

自己ノ勉勞ノミヲ持參シタル者ニ關シテハ利益又ハ損失ニ於ケル其者ノ
分ケ前ハ最も少量ノ持參ヲ爲シタル社員ニ等シキ持參アルカ如クニ之ヲ
規定ス可シ(民一八三三二一八六三)

第一千八百五拾四條 若シ社員カ分ケ前ノ規定ニ付キ其社員中ノ一人又ハ第
三ノ人ノ裁定ニ任カヌ可キ旨ヲ合意シタル時ハ其規定ハ公正ニ反シタル
コトノ明白ナル時ニ非サレハ之ヲ取消サント求ムルコトヲ得ス

損失ヲ被リタリト稱言スル者ノ其規定ヲ知リシヨリ三月以上経過シタル時又ハ其者ノ方ニ於テ其規定ヲ執行シ始メタル時ハ右ノ事項ニ付キ訟求ヲ許サズ(民一五九二)

第千八百五拾五條 社員中ノ一名ニ利益ノ全部ヲ附與スル所ノ合意ハ無効ノモノナリ

社員中ノ一人又ハ數人ヨリ會社ノ資本中ニ加ヘタル金額又ハ物品ヲシテ總テ損失ノ分擔ヲ免カレシムル約權ハ亦右ニ同シ(民六一七三)

第千八百五拾六條 會社契約ノ特別ノ約款ニ依リ管理ヲ任セラレタル社員ハ他ノ社員ノ故障申立ニ拘ハラズ自己ノ管理ニ屬スル總テノ所爲ヲ行フコトヲ得可シ但シ之レカ爲メニハ詭害ナキコトヲ必要トス

其權力ハ會社ノ繼續スル間ハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ廢止スルコトヲ得ス然レハ會社契約以後ノ証書ニ依テノミ其權力ヲ附與シタル時ハ單一ナル代理委任ノ如クニ之ヲ廢止スルコトヲ得可キモノトス(民一八五九一八九二)。(二〇〇四)

第千八百五拾七條 若シ社員數人ニ管理ヲ委任シ而シテ其職務ヲ定ムルコトナク又ハ其中ノ一人ハ他ノ者ナクシテ事ヲ行フコトヲ得サル旨ヲ明示スルコトナキ時ハ右ノ數人ハ各自別々ニ其管理ノ總テノ所爲ヲ行フコトヲ得可シ(民一九九五)

第千八百五拾八條 若シ管理人中ノ一人カ他ノ者ナクシテハ何事ヲモ行フコトヲ得サル旨ヲ約權シタル時ハ其中ノ一人ハ更ニ新タナル合意ノアルニ非サレハ他ノ者ノ不在ニ於テ事ヲ行フコトヲ得ス但シ他ノ者カ現ニ管理ノ所爲ニ參加スルコト能ハサル時ト雖モ亦之ニ同シ(民一八五二一八六三一九八九)

第千八百五拾九條 管理ノ仕方ニ付キ特別ノ約權アラサル時ハ以下ノ規則ニ從フ可シ

第一 社員ハ其一人カ他人ノ爲メニ管理スルノ權力ヲ相互ニ附與シタリト看做ス可シ○其各人ノ爲ス所ノモノハ他ノ社員ノ承諾ヲ得スシテ他ノ社員ノ分ケ前ノ爲メニモ有效ノモノトス但シ他ノ社員又ハ其中ノ一人ハ行爲ヲ完成スル前ニ其行爲ニ付キ故障ヲ申立ツルノ權利

アリ

第二 各社員ハ會社ニ屬スル物ヲ用フルコトヲ得可シ但シ之レカ爲メニハ習慣ニ依テ定マリタル其用方ニ於テ之ヲ用ヒ且ツ會社ノ資益ノ害トナリ又ハ他ノ社員ノ自己ノ權利ニ從ヒ之ヲ用フルコト妨クル方法ニテ之ヲ用ヒサルコトヲ必要トス

第三 各社員ハ他ノ社員ヲシテ會社ノ物ノ保存ノ爲メニ必要ナル費用ヲ己レト共ニ爲スコトヲ強ユルノ權利ヲ有ス

第四 社員中ノ一人ハ他ノ社員ノ承諾スル時ニ非サレハ假令會社ノ爲メニ有益ナル旨ヲ主持スルト雖モ會社ニ屬スル不動産ニ付テ更改ヲ爲スコトヲ得ス(民二六五二三七五三三八二二八六二二九八八二二〇三)

第一千八百六拾條 管理人ニ非サル社員ハ會社ニ屬スル所ノ物ヲ假令動産タリモ所有權ヲ移轉シ又ハ抵當ト爲スコトヲ得ス

第一千八百六拾壹條 各社員ハ會社ニ於テ自己ノ有スル分ケ前ニ關シテハ他ノ社員ノ承諾ナクシテ第三ノ人ヲ自己ノ組入人ト爲スコトヲ得可シ然レモ

各社員ハ會社ノ管理ヲ爲ス時ト雖モ他ノ社員ノ承諾ナクシテ第三ノ人ヲ會社ノ社員ト爲スコトヲ得ス

○第二節

第三ノ人ニ關スル社員ノ約務

第一千八百六拾貳條 商業會社ヲ除クノ外其他ノ會社ニ於テハ社員ハ會社ノ負債ヲ連帶シテ擔任セス而シテ又社員中ノ一人ハ他ノ社員ヨリ其權力ヲ附與セラレタルニ非サレハ他ノ社員ニ義務ヲ負ハシムルコトヲ得ス(民一八五九一八七三三三九四二以下)

第一千八百六拾三條 社員ハ其契約シタル債主ニ對シテハ各々平等ナル金額及ヒ分ケ前ニ付テ擔任ス可ク假令會社ニ於ケル其社員中一人ノ分ケ前カ更ニ少量ノモノタル時ト雖モ亦之ニ同シ但シ其證書ニ其社員中一人ノ義務ヲ右少量ナル分ケ前ノ割合ニ特ニ限制シタル時ハ格別ナリトス

第一千八百六拾四條 會社ノ計算ノ爲メニ義務ヲ契約シタル旨ノ約權ハ其契約ヲ爲シタル社員ノミヲ結束シ其他ノ社員ヲ結束セス但シ他ノ社員ヨリ其社員ニ權力ヲ附與シ又ハ其事物カ會社ノ利益トナリタル時ハ格別ナリ

トス(民一八五九一八六三)

○第四章 會社ノ終ル種々ノ方法

第一千八百六拾五條 會社ハ左ノ諸件ニ依テ終ルモノトス

第一 會社ヲ契約シタル時間ノ經過シタル事

第二 物ノ消滅又ハ事業ノ落成

第三 社員中或者ノ死去

第四 社員中一人ノ准死治産禁又ハ破産

第五 一人又ハ數人ノ最早會社中ニ在ラサルコトヲ明言シタル意欲(民一

一八三一八四二二二六二二三二八四四一八六七一八六八二八七一前四六)

第一千八百六拾六條 時期ノ制限アル會社ノ延期ハ會社ノ契約ト同一ノ法式

ヲ具ヘタル書面ニ依ルニ非サレハ之ヲ証スルコトヲ得ス(民一三四二二三四七一

三五三一八三四四六)

第一千八百六拾七條 若シ社員中ノ一人カ一箇ノ物ノ所有權ヲ共通ニ附スル

コトヲ約務シタル時ハ其共通ニ附スル事ヲ爲ス前ニ生シタル滅盡ハ總テノ

社員ニ關シテ會社ノ解分ヲ爲スモノトス

物ノ收益權ノミヲ共通ニ附シ而シテ其所有權ハ社員ノ手裏ニ存シタル時

ニ於テハ如何ナル場合ニ於テモ其物ノ滅盡ニ依リ其會社ハ亦同シク解分

スルモノトス

然レモ其所有權ヲ既ニ會社ニ持參シタル物ノ滅盡ニ依テハ其會社ハ解分

サルモノトス(民一一三八一八四五一八五二)

第一千八百六拾八條 若シ社員中一人ノ死去ノ場合ニ於テハ其相續人ト共ニ

會社ヲ繼續シ又ハ唯生殘ル所ノ社員ノミノ間ニ於テ會社ヲ繼續ス可キ旨

ヲ約權シタル時ハ其所定ニ從フ可シ但シ右第二ノ場合ニ於テハ死者ノ相

續人ハ其死去ノ時ニ於ケル右會社ノ景狀ニ准シテ會社ノ分派ヲ受ク可キ

ノ權利ヲ有スルノミニシテ其後ノ權利ハ其相續人ノ相續セシ社員ノ死去

以前ニ爲シタル所ノモノハ已ムコトヲ得サル效果タル時ニ非サレハ死者ノ相

續人其後ノ權利ニ參加セサルモノトス(民一八六五)

第一千八百六拾九條 結約者中一人ノ意欲ニ依レル會社ノ解分ハ其繼續ノ制

限ナキ會社ノモニ適用ス可キモノニシテ而シテ總テノ社員ニ通知シタル
拋棄ニ依テ成ルモノトス但シ之レカ爲メニハ其拋棄ノ善意ニシテ且ツ機
會ニ適セサル時期ニ之ヲ爲サハルヲ必要トス(民一八四四)

第一千八百七拾條 若シ一社員カ諸社員ノ共同シテ得ント欲スル所ノ利益ヲ
己レ一人ノ所得ト爲ス爲メニ拋棄シタル時ハ其拋棄ハ善意ナラサルモノ
トス

事物ノ最早完全ナラヌシテ會社ノ解分ヲ延ハスヲ其會社ノ爲メニ緊要
ナル時ハ機會ニ適セサル時期ニ拋棄ヲ爲スモノトス

第一千八百七拾壹條 有期會社ノ解分ハ其正當ノ理由アル時例ヘハ他ノ社員
カ其約務ヲ缺キタル時又ハ其痼疾ニ罹リタルカ爲メ會社ノ事務ヲ行フニ
能ハサルニ至リタル時又ハ其他此類ノ場合ノ如キ時ニ非サレハ其合意シ
タル時期ニ至ラサル前ニ社員中ノ一人ヨリ之ヲ求ムルヲ得ス但シ此類
ノ場合ノ正當ナル事及ヒ其重要ナル事ハ裁判官ノ裁斷ニ任カスモノトス
(民一八四一八六五)

第一千八百七拾貳條 遺留財産ノ分派分派ノ法式及ヒ其分派ヨリシテ共同相
續人ノ間ニ生スル所ノ義務ニ關スル規則ハ社員ノ間ニ於ケル分派ニ適用
スルモノトス(民七九二一五以下八二六條九六六以下)

○商業會社ニ關スル成規

第一千八百七拾三條 本卷ノ成規ハ商業ノ法律及ヒ習慣ニ反スルヲナキ點ニ
非サレハ商業會社ニ適用セサルモノトス(番一八以下)

○第拾卷 貸借(千八百四年三月九日決定同月十九日宣令)

第一千八百七拾四條 貸借ニ二種アリ

減却セスシテ用フルヲ得ル物ノ貸借

人ノ爲ス所ノ使用ニ依テ消耗スル物ノ貸借

右第一種ヲ名ケテ使用ノ爲メノ貸借又ハ使用貸借ト云フ

右第二種ヲ名ケテ消耗貸借又ハ單ニ貸借ト云フ(民一八七五、一八九二)

○第壹章 使用ノ爲メノ貸借即チ使用貸借

○第壹節 使用ノ爲メノ貸借ノ性質

第一千八百七拾五條 使用ノ爲メノ貸借即チ使用貸借トハ借主ノ其物ヲ用ヒシ後ニ之ヲ返ス可キノ責任ヲ以テ雙方中ノ一方ヨリ使用ノ爲メ他ノ一方ニ一箇ノ物ヲ引渡ス所ノ契約ヲ云フ

第一千八百七拾六條 此貸借ハ本質上ヨリ無償ノモノトス

第一千八百七拾七條 貸主ハ其貸シタル物ノ所有者タルモノトス(民一八八〇、一八八五、一八九三)

第一千八百七拾八條 凡ソ各人ノ處分内ニ在リテ且ツ使用ニ依テ消耗セサル諸件ハ此合意ノ目的タルコトヲ得可シ(民一二八、一八九四、一九三三)

第一千八百七拾九條 使用貸借ニ依テ生スル所ノ約務ハ貸主ノ相續人及ヒ借主ノ相續人ニ移ルモノトス

然レモ若シ借主ノ考察ニ於テ其一身ノミニ貸シタル時ハ其借主ノ相續人

ハ借受ケタル物ヲ収益スルコトヲ繼續スルヲ得ス(民一一三)

○第貳節 借主ノ約務

第一千八百八拾條 借主ハ其借リタル物ノ監守及ヒ保存ニ付キ其家父ニ於テ注意ス可キモノトス○借主ハ其性質ニ依リ又ハ合意ニ依リ定マリタル使用ニ非サレハ之ヲ用フルコトヲ得ス若シ之ニ反キテ損害アル時ハ其損害ノ賠償ヲ爲ス可シ(民五七八、一三七一、七二八)

第一千八百八拾壹條 若シ借主カ其物ヲ他ノ使用ニ用ヒ又ハ其用フ可キ時間ヨリモ更ニ長キ時間之ヲ用ヒタル時ハ假令意外ノ事故ニ依リ生シタルモノト雖モ其滅盡ヲ擔任ス可シ(民二四五一、三〇三)

第一千八百八拾貳條 若シ借主カ自己ノ物ヲ用ヒシナラハ其借リタル物ヲ擔保スルコトヲ得タル可キ意外ノ事故ニ依リ其借リタル物ノ滅盡シタル時又ハ借主カ二箇ノ中一箇ヲラテハ保存スルコトヲ得サルニ於テ自己ノ物ヲ撰取シタル時ハ借主他ノ物ノ滅盡ヲ擔任ス可シ(民二四八)

第一千八百八拾三條 若シ物ヲ貸スニ當リテ之ヲ評價シタル時ハ假令意外ノ

事故ニ依テ生シタルモノト雖モ其滅盡ハ借主ニ於テ之ヲ擔任ス可シ但シ之ニ反シタル合意アル時ハ格別ナリトス(民一四八、一八五)

第一千八百八拾四條 若シ借主ノ方ニ於テ毫モ過失ナク其物ヲ借受クルノ主眼タル使用ノ效ノミニ依テ其物ノ損壞シタル時ハ借主其損壞ヲ擔任セス

(民一二四五)

第一千八百八拾五條 借主ハ貸主カ己レニ對シテ負擔スル所ノモノ、相殺ニ依リ其物ヲ留置クイヲ得ス(民一二九三)

第一千八百八拾六條 若シ其物ヲ用フル爲メニ借主ノ若干ノ費額ヲ爲シタル時ハ借主其費額ヲ取戻スイヲ得ス(民一八九〇)

第一千八百八拾七條 若シ數人共同シテ同一ノ物ヲ借リタル時ハ其數人ハ相連帶シテ貸主ニ對シ實ニ任ス可キモノトス(民一二〇〇、一二〇二、一二〇三、一二〇五)

○第三節 使用ノ爲メニ貸ス者ノ義務

第一千八百八拾八條 貸主ハ合意シタル期限ノ後ニ非サレハ其貸シタル物ヲ

取戻スイヲ得ス又合意ノアラサルニ於テハ其物ヲ借受クルノ主眼タル使用ニ之ヲ用ヒタル後ニ非サレハ其貸シタル物ヲ取戻スイヲ得ス(民一一八五以下)

第一千八百八拾九條 然レモ若シ右ノ期限ノ間又ハ借主ノ需要ノ止ム前ニ貸主ノ爲メ其物ノ切迫ニシテ且ツ先見セラレサル需要ノ起リタル時ハ裁判官其狀況ニ從ヒ貸主ニ其物ヲ返スイヲ借主ニ強ユルイヲ得可シ

第一千八百九拾條 若シ貸借ノ繼續間借主カ其物ノ保存ノ爲メ異常必要ニシテ且ツ貸主ニ通知スルイヲ得サル程ニ至急ヲ要スル若干ノ費額ヲ爲サハルヲ得サリシ時ハ貸主ヨリ其費額ヲ借主ニ償還ス可キモノトス(民一八八六)

第一千八百九拾壹條 若シ貸シタル物カ之ヲ用フル者ニ損害ヲ被ムラシムルイアル可キ如キ瑕疵アル時貸主ノ其瑕疵ヲ知り而シテ之ヲ借主ニ告知セサルニ於テハ貸主其責ニ任ス可キモノトス(民一三八二以下、一六四一以下)

○第二章 消耗貸借即チ單一ナル貸借

○第一節 消耗貸借ノ性質

第一千八百九拾貳條 消耗貸借トハ雙方中ノ一方ヨリ他ノ一方ニ使用ニ依テ消耗スル物ノ若干ノ分量ヲ引渡シ而シテ他ノ一方ニ於テ之ト同種同質ノモノ、同一ノ分量ヲ一方ノ者ニ返ス可キノ責任アル契約ヲ云フ

第一千八百九拾三條 借主ハ此契約ノ效ニ依リ其借リタル物ノ所有者トナリ而シテ其物ノ滅盡スル方法ノ如何ヲ問ハス借主其滅盡ヲ負擔ス可シ

第一千八百九拾四條 何人ニ限ラス假令同種ノモノタリト雖モ各自相異ナル物例ヘハ獸類ノ如キ物ヲ消耗貸借ノ名義ヲ以テ附與スルコトヲ得ス斯ル場合ニ於テハ其貸借ハ使用ノ爲メノ貸借ナリトス

第一千八百九拾五條 金圓ノ貸借ヨリ生スル所ノ義務ハ常ニ必ス其契約ニ表シタル算數上ノ金額ノミノモノトス

辨濟ノ時期ノ前ニ貨幣ノ價格ニ増減アリト雖モ負債者ハ其借リタル算數上ノ金額ヲ返サ、ル可カラス而シテ辨濟ノ時ニ於テ通用スル貨幣ヲ以テ右ノ金額ニ非サレハ返ス可カラサルモノトス(民一八九六)

第一千八百九拾六條 若シ地金ヲ以テ貸借ヲ爲シタル時ハ前條ニ載セタル規

則ヲ用フ可カラス(民一二四三)

第一千八百九拾七條 若シ貸借シタル物カ地金又ハ飲食品ナル時ハ其代價ノ増減ノ如何ヲ問ハス負債者ハ常ニ必ス同量同質ノモノヲ返サ、ル可カラス而シテ其同量同質ノモノニ非サレハ返ス可カラサルモノトス(民一二四三一二四六)

○第貳節 貸主ノ義務

第一千八百九拾八條 消耗貸借ニ於テハ貸主ハ使用ノ爲メノ貸借ニ付キ第一千八百九十一條ニ定メタル責任ヲ負擔スルモノトス

第一千八百九拾九條 貸主ハ合意セラレタル期限ノ前ニ其貸シタル物ヲ取戻サント求ムルコトヲ得ス(民一八八八)

第一千九百條 返還ノ爲メニ期限ヲ定メサル時ハ裁判官其景況ニ從ヒ借主ニ猶豫ヲ附與スルコトヲ得可シ(民一二四四、一八八八)

第一千九百壹條 若シ借主カ辨濟シ得ル時ニ辨濟ス可ク又ハ借主カ辨濟ノ資カヲ有スル時ニ辨濟ス可キコトヲ合意シタル時ハ裁判官其景況ニ從ヒ

辨濟ノ期限ヲ借主ニ定ム可シ(民一九〇〇)

○第三節 借主ノ義務

第一千九百貳條 借主ハ其借リタル物ヲ同量及ヒ同質ニ於テ且ツ合意セラレタル期限ニ至リテ返ス可キモノトス(民一一八五、一二四四、一八九三)

第一千九百三條 若シ借主ノ之ヲ履行スルコト能ハサル時ハ合意ニ從ヒ其物ヲ返サ、ル可カラサル時ト場所トニ於ケル其價額ヲ辨濟ス可キモノトス
若シ其時ト場所トヲ規定セサル時ハ借受ヲ爲シタル時ト場所トノ代價ヲ以テ其辨濟ヲ爲ス可シ(民一二四七)

第一千九百四條 若シ借主ノ其合意セラレタル時期ニ於テ其借リタル物又ハ其價額ヲ返サ、ル時ハ借主ハ裁判所ニ於ケル訟求ノ日ヨリ之レカ利息ヲ負擔スルモノトス(民一二五三、一九〇七)

○第三章 利息アル貸借

第一千九百五條 金圓若クハ飲食品又ハ其他ノ動産ノ單一ナル貸借ノ爲メニ利息ヲ約權スルコトヲ許可ス(民二二七七)

第一千九百六條 約權セラレザリシ利息ヲ辨濟シタル借主ハ之ヲ取戻スコトヲ得ヌ又之ヲ元金ニ充用スルコトヲ得ヌ(民二二三五)

第一千九百七條 利息ハ法律上又ハ合意上ノモノトス○法律上ノ利息ハ法律ヲ以テ之ヲ定ム○合意上ノ利息ハ法律ニ禁止セサル度毎ニ法律上ノ利息ニ過クルコトヲ得可シ

合意上ノ利息ノ割合ハ書面ヲ以テ之ヲ定メサルヲ得ヌ(民四五六、四七四六、九六一、二八五六、一一五三、一一四四、一四七三、一五四八、一五七〇、一六六二、一六五三、一六八二、一八四六、一九〇四、三〇三二、二八、三二七、三七一、四一八、四一八、五一、一八七)

金圓ノ利息ノ高ク定ムル千八百七年九月三日ノ法律

第一條 合意上ノ利息ハ民事ニ於テハ百ニ付キ五ニ過クルコトヲ得ヌ又前事ニ於テハ百ニ付キ六ニ過クルコトヲ得ヌ但シ此等ノ高ハ總テ扣除ナキモノトス

第二條 法律上ノ利息ハ民事ニ於テハ百ニ付キ五タル可ク又前事ニ於テハ百ニ付キ六タル可レ但シ此等ノ高ハ扣除ナキモノトス

第三條 若シ第一條ニ定メタル所ニ過クル割合ヲ以テ合意上ノ貸借ヲ爲シタルノ証アル時

ハ其貸主ノ若シ既ニ其過分ノ金高ヲ收受シタルニ於テハ右ノ罪限ヲ常時シタル裁判所ヨリ其過分ヲ返ス可キノ旨渡ヲ受ケ又ハ債權ノ元金ニ付キ減少ヲ受ク可キノ旨渡ヲ受ケ又然ノミナラス別段ノ道理アルニ於テハ後條ニ從ヒ裁判シタルハ爲メ懲治罪裁判所ニ移送セラルハテアル可シ

第四條 凡ソ何人ニ限ラズ平常高利貸ヲ爲スノ罪ヲ既ヘラレタル者ハ懲治罪裁判所ニ引致セラレ而シテ其犯罪ノ証アル場合ニ於テハ其高利ニテ貸レタル元金ノ一半ニ過クルイヲ得サル罰金ヲ旨渡サル可シ○若シ其犯罪審問ノ手續ニ依リ貸主ノ方ニ於テ詐欺取財ノアリタルイヲ知リ得タル時ハ其貸主ハ右ノ罰金ノ外二年ニ過クルイヲ得サル禁錮ヲ旨渡サル可シ

高利貸ノ犯罪ニ關スル千八百五十年十二月十九日ノ法律

千八百七年九月三日ノ法律第三條及ヒ第四條ハ左ノ如ク更改ス

第一條 若シ一箇ノ民事又ハ商事ノ際既ニ於テ法律ニ定ムル所ニ過キタル割合ヲ以テ合意上ノ貸借ヲ爲シタルノ証アル時ハ過當ノ收取ヲ其之ヲ爲シタル時期ニ於テ當時拂ヒ期限

ニ至リシ法律上ノ利息ニ當然之ヲ充用シ又補助ノ方法ヲ以テ債權ノ元金ニ當然之ヲ充用ス可シ○若シ其債權ノ元金ト利息トニ於テ共ニ消滅シタル時ハ其貸主ハ不當ニ收取シタル金額ヲ其之ヲ受取シ日ヨリ以來ノ利息ト共ニ返還スルノ旨渡ヲ受ク可シ○右ノ性質アル所爲ヲ証明スル所ノ民事又ハ商事ノ各裁判所ハ一月内ニ裁判所ノ書記ヨリ檢察官ニ送附ス可ク若シ之ニ違フ時ハ十六「フランク」ヨリ少ナキイヲ得ヌ一「フランク」ニ過クルイヲ得サル罰金ヲ旨渡サル可シ

第二條 高利貸ヲ以テ常價ト爲スノ犯罪ハ其高利ニテ貸シタル元金ノ一半迄ニ至ルイヲ得可キ罰金ト六日以上六月以下ノ禁錮トニ處セラル可シ

第三條 高利貸ノ罪ヲ再犯シタル場合ニ於テハ其犯罪人ハ前條ニ定メタル刑ノ最多限ニ處セラル可ク而シテ其刑ハ一倍迄ニ昇ラシムルイヲ得可シ但シ刑法第五十七條及ヒ第五十八條ニ定メタル再犯ノ一般ノ場合ト相觸ルハ「ナカ」ル可シ○高利貸常價ノ爲メ第一次ノ刑ヲ旨渡サシタル後其上等又ハ下等裁判所ノ旨渡ヨリ五年内ニ同一ノ所爲ヲ行ヒタルニ於テハ假令其所爲ノ唯一箇ノ「ナカ」ル時ト雖モ其所爲ヨリシテ再犯ヲ生セシムルモノトス
第四條 若シ貸主ノ方ニ於テ詐欺取財ノアリタル時ハ其貸主ハ刑法第四百五條ニ定メタル

刑ヲ受ク可シ但シ其罰金ハ此回ノ法律第二條ヲ以テ之ヲ規定ス可キモノトス

第五條 如何ナル場合ニ於テモ裁判所ハ最重ノ重罰ナルニ從ヒ犯罪人ノ費用ヲ以テ裁判書ノ貼附及ヒ本州ノ一箇又ハ數箇ノ新聞紙ニ於ケル其抜キ書ノ記入ヲ命令スルヲ得可シ

第六條 裁判所ハ亦如何ナル場合ニ於テモ刑法第四百六十三條ヲ適用スルヲ得可シ

第七條 該條ノ末項ニ定メタル罰金ハ檢察官ノ求メニ依リ民事裁判所ヨリ之ヲ言渡ス可シ

第一千九百八條 利息ノ貯存ナクシテ附與シタル元金ノ受取証書ハ其利息ノ辨濟ヲ思量セシメ而シテ其釋免ヲ爲スモノトス(民一三一九一三三〇・一三五〇)

第一千九百九條 貸主ノ要求スルヲ自カラ禁止スル所ノ元資ニ依リ利息ヲ約權スルヲ得可シ

此場合ニ於テハ其貸借ヲ名ケテ年○金○收○受○權○ノ○設○定○ト云フ(民五三〇・一九一三〇・一九一六八以下)

第一千九百拾條 其年金收受權ハ二箇ノ方法即チ無期又ハ畢生間ニ於テ之ヲ設定スルヲ得可シ(民一九六八)

第一千九百拾壹條 無期ニ於テ設定シタル年金收受權ハ其本質上ヨリシテ買

戻ヌコヲ得可キモノトス

雙方ノ者ハ唯十年ニ過クルヲ得サル期限ノ前又ハ雙方ノ者ノ定メタル豫先ノ期限ニ於テ債主ニ告知スルヲナクシテ其買戻ヲ爲ス可カラサル旨ヲ合意スルヲ得可シ(民五三〇・一九一七)

第一千九百拾貳條 無期ニ於テ設定シタル年金收受權ノ負債者ハ左ノ場合ニ於テハ之ニ買戻ヲ限ユルヲ得可シ

第一 其負債者ノ二年間自己ノ義務ヲ履行スルヲ止メタル時

第二 其負債者ノ契約ニ依リ約務シタル抵保ヲ貸主ニ供給スルヲ缺キタル時(民一七八一・一八四二・一八八)

第一千九百拾三條 無期ニ於テ設定シタル年金收受權ノ元資ハ負債者ノ家資分散又ハ破産ノ場合ニ於テハ亦要求スルヲ得可キモノトナル可シ(民一八八)

第一千九百拾四條 畢生間ノ年金收受權ニ關スル規則ハ偶然ノ契約ノ卷ニ之ヲ設定ス(民一九六四)

○第拾壹卷

附託及ヒ争訟アル物ノ附託千八百四年三月十四日決定
同月二十四日宣令

○第壹章

一般ニ附託及ヒ其種々ノ種類

第一千九百拾五條 一般ニ附託トハ人カ他人ノ物ヲ監守シ及ヒ原品ノ儘ニテ
之ヲ返還スルノ責任ヲ以テ其物ヲ收受スル所ノ所爲ヲ云フ

第一千九百拾六條 附託ニ二種アリ一ハ眞ニ所謂附託又一ハ争訟アル物ノ附
託是レナリ(民一九一七一九五五)

○第貳章

眞ニ所謂附託

○第壹節

附託契約ノ性質及ヒ本質

第一千九百拾七條 眞ニ所謂附託ハ本質上ヨリシテ無償ノ契約タリ(民一九一五
一九三六一九五七)

第一千九百拾八條 其附託ハ動産ニ非サレハ目的ト爲スコトヲ得ス(民一九五九)

第一千九百拾九條 其附託ハ附託シタル物ノ現實又ハ假定ノ引渡ニ依ルニ非
サレハ完全ナリトセズ

受託者カ人ヨリ附託ノ名義ニテ委付スルコトヲ承諾スル所ノ物ヲ既ニ或ル
他ノ名義ニテ保有シタル時ハ假定ノ引渡ヲ以テ足レリトス(民一六〇六)

第一千九百貳拾條 附託ハ任意ノモノアリ又ハ已ムヲ得サルモノアリ(民一九二
二一九四九)

○第貳節

任意ノ附託

第一千九百貳拾壹條 任意ノ附託ハ附託ヲ爲ス人ト之ヲ受クル人トノ相互ノ
承諾ニ依テ成ルモノトス(民二〇八二〇九)

第一千九百貳拾貳條 任意ノ附託ハ正規ニ於テハ其附託シタル物ノ所有者ニ
依リ又ハ其所有者ノ明認又ハ默認ノ承諾ニ依ルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ
得ス(民一九三八)

第一千九百貳拾三條 任意ノ附託ハ書面ヲ以テ之ヲ証セサルヲ得ス○百五十

「フランク」ニ過キタル價額ニ付テハ之レカ証人ノ証ヲ許サス(民一三四一三四
七一九二四一九五〇刑四〇八)

第一千九百貳拾四條 百五十「フランク」以上ノ附託カ書面ニ依テ証セラレサル
時ハ受託者ナリトシテ言掛ラレタル者ハ附託ノ事實ニ付テモ若クハ附託
ノ目的タル物ニ付テモ若シクハ其返還ノ事實ニ付テモ自己ノ申述ニ依テ
信憑セラル、モノトス(民一三五七一三六六)

第一千九百貳拾五條 任意ノ附託ハ契約スルノ能力アル各人ノ間ニ非サレハ
之ヲ爲スコトヲ得ス

然レモ若シ契約スルノ能力アル者カ其能力ナキ者ヨリ爲ス所ノ附託ヲ受
諾シタル時ハ其者ハ眞ノ受託者ノ總テノ義務ヲ擔任ス可シ但シ其者ハ附
託ヲ爲ス者ノ後見人又ハ管理人ヨリ訴ラル、コアル可シ(民一二三四)

第一千九百貳拾六條 若シ能力アル者ヨリ能力ナキ者ニ附託ヲ爲シタル時ハ
其附託ヲ爲シタル者ハ其附託シタル物カ受託者ノ手裏ニ存在スル間ハ其
物ノ所有權取戻ニ於ケル訴權又ハ受託者ノ利益トナリタルモノ、額ニ充

ツル迄償還ニ於ケル訴權ノミヲ有スルモノトス(民一三一一)

○第三節 受託者ノ義務

第一千九百貳拾七條 受託者ハ其附託セラレタル物ノ監守ニ於テ自己ニ屬ス
ル物ノ監守ニ付キ其加フル所ニ同シキ注意ヲ加ヘサル可カラヌ(民一一三
七)

第一千九百貳拾八條 前條ノ成規ハ左ノ場合ニ於テハ更ニ嚴重ニ之ヲ適用セ
サル可カラヌ

- 第一 受託者ノ自身ヨリ其附託ヲ受ケント供陳シタル時
 - 第二 受託者ノ其受託物ノ監守ノ爲メニ給料ヲ約權シタル時
 - 第三 受託者ノ資益ノ爲メニニ附託ヲ爲シタル時
 - 第四 受託者カ各種ノ過失ヲ擔當ス可キ旨ヲ明カニ合意シタル時
- 第一千九百貳拾九條 受託者ハ如何ナル場合ニ於テモ抗拒ス可カラサルカ
ル偶然ノ事故ヲ擔任セス但シ受託者ノ其附託セラレタル物ヲ返還スル
ニ付キ遲滞ニ附セラレタル時ハ格別ナリトス(民一二三九)

第一千九百三拾條 受託者ハ附託者ノ明カナル又ハ思量セラレタル許ナクシテ其附託セラレタル物ヲ用フルコトヲ得ス(民八九五―一八八二)

第一千九百三拾壹條 受託者ハ其附託セラレタル物ノ鎖閉シタル箱篋中ニ在リ又ハ封印ヲ爲シタル封袋ノ中ニ在リテ之ヲ委託セラレタル時ハ其物ノ如何ナルモノタルヤヲ知ラント求ム可カラス

第一千九百三拾貳條 受託者ハ收受シタル其物ヲ其原物ニテ返サ、ル可カラヌ

故ニ金圓ノ附託ハ其價額ノ増シタル場合ト減シタル場合トヲ問ハス其附託ヲ爲シタルト同一ノ種類ヲ以テ之ヲ返サ、ル可カラヌ(民一二九三―一九一五―一九三三)

第一千九百三拾三條 受託者ハ附託セラレタル物ヲ其返還ノ時ニ於ケル現在ノ景狀ニ於テ返ヌ可キノミトス○受託者ノ所爲ニ依テ生シタルモノニ非サル損壞ハ附託者ノ責任ナリトス(民一二四五―一三〇二)

第一千九百三拾四條 抗拒ヌ可カラサルカニ依テ物ヲ奪取セラレ而シテ之ニ

代ヘテ代金又ハ或物ヲ收受シタル受託者ハ其交換ニ於テ收受シタル所ノモノヲ返還セサル可カラヌ(民一三〇三)

第一千九百三拾五條 受託者ノ相續人其受託ノコトヲ知ラサル物ヲ善意ヲ以テ賣リタル時ハ其收受シタル代金ヲ返スコトヲ擔任シ又其代金ヲ領収セサルニ於テハ買主ニ對スル自己ノ詐糴ヲ讓渡スコトヲ擔任ヌ可シ(民一三八〇―一五九九)

第一千九百三拾六條 若シ附託セラレタル物ノ果實ヲ生シテ受託者ノ之ヲ收取シタル時ハ受託者之ヲ返還ヌ可キノ義務アリ○受託者ハ其附託セラレタル金圓ノ返還ヲ爲スコトニ付キ遲滞ニ附セラレタル日ヨリ後ニ非サレハ毫モ其金圓ノ利息ヲ負擔セス(民五四八―一三九九)

第一千九百三拾七條 受託者ハ其附託物ヲ己レニ附託シタル者又ハ自己ノ名前ヲ以テ附託ヲ爲サシメタル者又ハ其附託物ヲ收受スル爲メニ指示セラレタル者ノミニ其附託物ヲ返還ヌ可シ(民一九二四―一九三九―一九四〇)

第一千九百三拾八條 受託者ハ附託ヲ爲ス者ニ對シ其附託物ノ所有者タルノ

証ヲ要求スルヲ得ス

然レモ若シ受託者カ其附託物ノ盜品ニシテ之レカ眞ノ所有者ノ誰タルヤ
ヲ發見シタル時ハ自己ニ爲サレタル附託ノ事ヲ其眞ノ所有者ニ通知シ并
ニ定マリタル充分ナル期限内ニ其附託物ヲ取返ス可キ旨ヲ其眞ノ所有者
ニ催促セサル可カラヌ○若シ其通知ヲ受ケタル者カ其附託物ヲ取返ス
ヲ怠リタル時ハ受託者ハ附託ヲ爲セシ者ニ其附託物ヲ引渡スニ依リ有效
ニ義務ヲ免除セラル、モノトス(民九二二二七九)

第一千九百三拾九條 附託ヲ爲シタル者ノ死去又ハ准死ノ場合ニ於テハ附託
物ヲ其者ノ相續人ノミニ返ス可シ

若シ其相續人數人アル時ハ其各自ノ分ケ前及ヒ部分ニ付キ之ヲ其各相續
人ニ返サ、ル可カラヌ

若シ其附託物カ不可分ノ物タル時ハ相續人數人ハ之ヲ收受スル爲メ相互
ニ協議セサル可カラヌ(民一二二〇)

第一千九百四拾條 若シ附託ヲ爲シタル者ノ身分ノ變シタル時例ヘハ附託ヲ

爲セシ時ニ當リ自由ノモノタリシ婦女ノ其後結婚シテ夫ノ威權ニ從フ可
キモノトナリ又ハ附託ヲ爲セシ成年者ノ治産禁ヲ受ケタル時ノ如キ總テ
此等ノ場合及ヒ其他之ト同一ノ性質ノモノタル場合ニ於テハ其附託者ノ
權利及ヒ財産ノ管理ヲ爲ス者ノミニ其附託物ヲ返還ス可シ(民一二七四五。五
〇九五。一三二四。二二四。二八。一五三。二一五。四九。一九二五)

第一千九百四拾壹條 若シ後見人夫又ハ管理人ヨリ此等ノ分限中ノ一箇ヲ以
テ附託ヲ爲シ而シテ此等ノ者ノ管財又ハ管理ノ終リタル時ハ其後見人夫
又ハ管理人ノ代理セシ其本人ノミニ其附託物ヲ返還ス可シ(民一九三七)

第一千九百四拾貳條 若シ附託ノ契約ニ其返還ヲ爲サ、ル可カラサル場所ヲ
指定メタル時ハ受託者附託物ヲ其場所ニ移送ス可キモノトス○若シ運送
ノ費用アル時ハ其費用ハ附託者ノ責任タリ(民一二四七)

第一千九百四拾三條 若シ契約ニ其返還ノ場所ヲ指定メサル時ハ附託ヲ爲シ
タル其場所ニ於テ返還ヲ爲サ、ル可カラヌ(民一二四七)

第一千九百四拾四條 假令契約ニ返還ノ爲メニ特定ノ期限ヲ定メタル時ト雖

ハ附託者ノ要求ニ從ヒ直チニ其附託物ヲ附託者ニ返サ、ル可カラズ但シ受託者ノ手元ニ於テ其附託物ノ返還及ヒ移送ニ付テノ差押即チ差止ノ存在シタル時ハ格別ナリトス(証五五七以下)

第一千九百四拾五條 不誠實ナル受託者ハ讓給ノ利益ヲ許サレサルモノトス(民一七〇、証八九八以下)

第一千九百四拾六條 若シ受託者カ己レ自カラ其附託セラレタル物ノ所有者タルコトヲ發見シテ且ツ之ヲ証スル時ハ受託者ノ總テノ義務止息スルモノトス(民一三〇〇以下)

○第四節 附託ヲ爲ス者ノ義務

第一千九百四拾七條 附託ヲ爲ス者ハ其附託シタル物ノ保存ノ爲メニ受託者ノ爲シタル費額ヲ受託者ニ償還シ且ツ附託ノ爲メ受託者ニ被ラシメタル總テノ損失ヲ受託者ニ賠償ス可キモノトス(民一三七五、一三八二、一八九〇)

第一千九百四拾八條 受託者ハ附託ノ爲メ己レニ補償ヲ受ク可キモノ、全部ノ辨濟ヲ得ルニ至ル迄ハ其附託物ヲ留置クコトヲ得可シ

○第五節 已ムヲ得サル附託

第一千九百四拾九條 已ムヲ得サル附託トハ火災崩潰掠奪破船ノ如キ或ル偶然ノ事故又ハ其他ノ豫見セラレサル事故ニ依リ強制セラレタル附託ヲ云フ

第一千九百五拾條 已ムヲ得サル附託ニ付テハ假令百五十フランク以上ノ價額ニ關スル時ト雖モ証人ニ依レル証ヲ許スコトヲ得可シ(民一三四八、一九二四、一九四九)

第一千九百五拾壹條 右ノ外止ムヲ得サル附託ハ前ニ表示シタル總テノ規則ヲ以テ管理セララル、モノトス

第一千九百五拾貳條 旅店主又ハ旅會主ハ其家ニ宿泊スル旅客ノ持來リタル品物ニ付テハ其受託者トシテ責ニ任ス可キモノトス但シ此類ノ品物ノ附託ハ已ムヲ得サル附託ト看做サ、ルヲ得ス(民一七八二以下、一九五三以下)

第一千九百五拾三條 旅店主又ハ旅會主ハ旅會ノ雇人及ヒ召使人ノ盜取ヲ爲シ又ハ損害ヲ加ヘタルト若クハ其旅會ニ出入スル外人ノ盜取ヲ爲シ又ハ

損害ヲ加ヘタルトシテ問ハス旅客ノ品物ノ盗取又ハ損害ノ實ニ任ス可キモノトス(民一三八四刑三五六ノ第四)

第一千九百五拾四條 旅店主又ハ旅舎主ハ兵器ヲ携ヘタルカ又ハ其他ノ抗拒ス可カラサルカヲ以テ爲シタル盗取ニ付テハ其實ニ任セサルモノトス(民一一四八)

○第三章 争訟アル物ノ附託

○第一節 争訟アル物ノ附託ノ種々ノ種類

第一千九百五拾五條 争訟アル物ノ附託ハ合意上ノモノアリ又ハ裁判上ノモノアリ(民一九五六以下)

○第二節 争訟アル物ノ合意上ノ附託

第一千九百五拾六條 争訟アル物ノ合意上ノ附託トハ一人又ハ數人ヨリ一箇ノ争訟アル物ヲ第三ノ人ノ手裏ニ附託スル事ヲ云ヒ而シテ其第三ノ人ハ争訟ノ終リシ後其物ヲ得可シト裁判セラレタル者ニ之ヲ返ス可キノ義務ヲ己レニ負フモノトス

第一千九百五拾七條 争訟アル物ノ附託ハ無償ノモノタラサルコトヲ得可シ(民一九一七)

第一千九百五拾八條 争訟アル物ノ附託カ無償ノモノタル時ハ眞ニ所謂附託ノ規則ニ服従スルモノトス但シ以下ニ表示スル所ノ差異ハ格別ナリトス
第一千九百五拾九條 争訟アル物ノ附託ハ動産ノミナラス不動産ヲモ亦其目的ト爲スコトヲ得可シ(民一九一八)

第一千九百六拾條 争訟アル物ノ附託ヲ任セラレタル受託者ハ其争訟ノ終ラサル前ハ關係各人ノ承諾ニ依リ又ハ正當ナリト裁判セラレタル理由ノ爲メニ非サレハ其義務ヲ免除セラルコトヲ得ス

○第三節 争訟アル物ノ裁判上ノ附託

第一千九百六拾壹條 裁判所ハ左ノ諸件ノ附託ヲ命スルコトヲ得可シ

- 第一 負債者ニ付キ差押ヘタル動産
- 第二 二人又ハ數人ノ間ニ於テ所有權又ハ占有ノ争訟アル不動産又ハ

動産

第三 負債者ノ自己ノ釋免ノ爲メニ渡サント供陳スル所ノ物(民六〇三)

二五七以下二二六四(五五〇前一〇六)

第一千九百六拾貳條 裁判上監守人ノ設定ハ差押人ト監守人トノ間ニ於テ相互ノ義務ヲ生セシム○監守人ハ其差押ヘタル品物ノ保存ニ付キ其家父ノ注意ヲ加ヘサル可カラズ

監守人ハ賣拂ノ爲メ差押人ノ義務免除ニ於テ其品物ヲ差出シ若シクハ差押解除ノ場合ニ於テハ執行ヲ受ケタル者ニ其品物ヲ差出サ、ル可カラズ
差押人ノ義務ハ法律上ニ定メタル給料ヲ監守人ニ辨濟スルニ在リトス(民五九六以下)

第一千九百六拾三條 争訟アル物ノ裁判上ノ附託ハ關係各人ノ間ニ合意シタル者ニ之ヲ附與シ若クハ裁判官ヨリ職權ヲ以テ撰任シタル者ニ之ヲ附與ス可シ

右ノ中何レノ場合ニ於テモ其物ヲ委託セラレタル者ハ争訟アル物ノ合意上ノ附託ヲ惹起スル所ノ總テノ義務ニ服從ス可シ(民一九五六)

○第拾貳卷 偶然ノ契約(千八百四年三月十日決定同月二十日宣令)

第一千九百六拾四條 偶然ノ契約トハ總テノ契約者ノ爲メ若クハ其中ノ一人又ハ數人ノ爲メノ得益及ヒ損失ニ付テノ効カ不定ノ事故ニ關スル所ノ相互ノ合意ヲ云フ

斯クノ如キモノハ左ノ諸件ナリトス

保險契約

航海ノ危険ニ於ケル貸借

遊戯及ヒ賭博

畢生間ノ年金收受權ノ契約

右ノ中初メノ二箇ハ海上法律ヲ以テ之ヲ管理ス(民一一〇四一一三三三一九六五以下一九六八以下前三一三三三三)

第一千九百七拾貳條 畢生間ノ年金收受權ハ一人又ハ數人ノ生存中之ヲ設定スルコトヲ得可シ(民一九七三)

第一千九百七拾三條 畢生間ノ年金收受權ハ假令他人ヨリ其代金ヲ供給シタル時ト雖モ第三ノ人ノ利益ニ於テ之ヲ設定スルコトヲ得可シ

此最後ノ場合ニ於テハ其畢生間ノ年金收受權ハ假令恩惠ノ性質ヲ有スルト雖モ贈與ノ爲メニ必要ナリト爲ス法式ニ服從セサルモノトス但シ第一千九百七十條ニ表示シタル減殺及ヒ無効ノ場合ハ格別ナリトス(民一一二二)

第一千九百七拾四條 凡ソ契約ノ日ニ既ニ死去セシ者ノ生存中創設シタル畢生間ノ年金收受權ノ契約ハ尠モ其效ヲ生セサルモノトス(民一一〇四一九六四)

第一千九百七拾五條 病ニ罹リタル者ノ生存中其年金收受權ヲ創設スルノ契約ヲ爲シ而シテ其者ノ其契約ノ日附ヨリ二十日內ニ其病ノ爲メニ死去シタル時ハ其契約ハ亦右ト同一ナリトス

第一千九百七拾六條 畢生間ノ年金收受權ハ契約者ノ定ムルコトノ隨意ナル制合ヲ以テ之ヲ設定スルコトヲ得可シ(民一五六八一五八三二五八三二六七四一九〇七)

○第貳節

契約者ノ間ニ於ケル其契約ノ效

第一千九百七拾七條 代金ニ據リ自己ノ利益ニ於テ畢生間ノ年金收受權ヲ設定セラレタル者ハ若シ其設定者ヨリ契約執行ノ爲メニ約權シタル抵保ヲ己レニ附與セサル時ハ其契約ノ取消ヲ請求スルコトヲ得可シ(民一一八四)

第一千九百七拾八條 年金賦額辨濟ノ欠缺ノミニテハ其年金收受權設定ノ利益ヲ受クル者ハ元資ノ償還ヲ請求シ又ハ自己ヨリ所有權ヲ移轉セシ不動產ヲ取戻スコトヲ許サレヌシテ其者ハ自己ノ負債者ノ財產ヲ差押ヘテ之ヲ賣拂ハシメ且ツ其賣拂ニ依リ得タル金額ニ就キ年金賦額支辨ノ爲メニ充分ナル金額ノ使用ヲ命令セシメ又ハ承諾セシムルノ權利ノミヲ有スルモノトス(民一六五四一六五六一九一三一九七七一九八三三〇九三以下三一一三三三二〇四以下)

第一千九百七拾九條 設定者ハ元資ヲ償還セント供陳シ且ツ既ニ辨濟セシ年金賦額ノ取戻ヲ拋棄シテ年金ノ辨濟ヲ免カルコトヲ得ス其設定者ハ年金收受權ヲ設定スルニ付キ其生存ヲ標準ト爲シタル一人又ハ數人ノ生存間ノ如何ナルヲ問ハス又年金支辨ノ如何ニ重劇トナルコトアルヲ問ハス其一

人又ハ故人ノ生存中年金ヲ支辨スルヲ擔任ス可シ(民一九一三二二六三)

第一千九百八拾條

畢生間ノ年金ハ其所有者ノ生存シタル日數ノ割合ノミヲ以テ其所有者ニ於テ之ヲ獲得スルモノトス

然レモ其年金ヲ前拂ニ爲ス可キ旨ヲ合意シタル時ハ辨濟ス可キ各期ハ其辨濟ヲ爲ス可キニ至リシ日ヨリ之ヲ獲得スルモノトス(民五八四五八六一五七)

二

第一千九百八拾壹條

畢生間ノ年金收受權ハ無償ノ名義ニテ之ヲ設定シタル時ニ非サレハ差押ニ可カラサル旨ヲ約權スルヲ得ス(民一九六九以下五八)

二

第一千九百八拾貳條

畢生間ノ年金收受權ハ其所有者ノ准死ニ依テ消滅セシ其生存中ハ之レカ辨濟ヲ繼續セサルヲ得ス(本條ハ准死ヲ廢セシ以來無用ノモノナリ)

第一千九百八拾三條

畢生間ノ年金收受權ノ所有者ハ自己ノ生存スル事又ハ其年金收受權ヲ設定スルニ付キ其生存ヲ標準ト爲シタル者ノ生存スル事

ヲ証明スルニ非サレハ年金賦額ヲ求ムルヲ得ス(民一三一五)

○第拾三卷

代理千八百四年三月十日決定同月二十日宣令

○第壹章

代理ノ性質及ヒ法式

第一千九百八拾四條

代理即チ名代トハ一人ヨリ他人ニ委任者ノ爲メ且ツ委任者ノ名前ヲ以テ或事ヲ爲スノ權力ヲ附與スル所ノ所爲ヲ云フ

其契約ハ代理者ノ受諾ニ依ルニ非サレハ成ラサルモノトス(民一一〇八以下一

一三二一五八三二五八九一九九八一九九九九一以下)

第一千九百八拾五條

代理ハ公ケノ證書ニ依リ又ハ私シノ署名證書ニ依リ又ハ然ノミナラス書狀ニ依リ之ヲ附與スルヲ得可シ○代理ハ亦口上ニテ

之ヲ附與スルヲ得可シ然レモ証人ノ証ハ契約即チ一般ニ合意上ノ義務

ノ卷ニ從フニ非サレハ之ヲ許サス

代理ノ受諾ハ承認ノミニシテ代理者ノ其代理ニ附與シタル執行ヨリ生スルヲ得可シ(民一三四一以下、一三四七、一三五三、一三五六、一三七三、一三八三、一九八四、一九九一、一九九二)

第一千九百八拾六條 代理ハ無償ノモノナリ但シ之ニ反シタル合意アル時ハ格別ナリトス(民一九九二)

第一千九百八拾七條 代理ハ特別ニシテ一箇ノ事件又ハ特定ノ事件ノミニ關スルモノアリ又ハ一般ニシテ委任者ノ總テノ事件ニ關スルモノアリ

第一千九百八拾八條 汎博ナル諮詢ヲ用ヒタル代理ハ管理ノ所爲ノミヲ包含スルモノトス

若シ所有權ヲ移轉スルコト又ハ書入質ト爲スコト又ハ或ル其他ノ所有權ノ所爲ニ關スル時ハ代理ハ明示ノモノナラサルヲ得ス(民一三一九、一九二一、一九八五、一九八七、一九八九、一九九八前二、三、三三三)

第一千九百八拾九條 代理者ハ其代理委任狀ニ載セタル所ノモノ、外何事ヲモ爲スコトヲ得ス故ニ和解スルノ權力ハ裁斷人ノ裁斷ニ任カスノ權力ヲ包

含セサルモノトス(民一九八五、一九九七、一九九八、九八三、三五二、一〇〇四)

第一千九百九拾條 婦及ヒ後見ヲ免脱セラレタル幼者ハ代理者トシテ撰ムコトヲ得可シ然レハ委任者ハ幼年ノ代理者ニ對シテハ幼者ノ義務ニ關スル總則ニ從フニ非サレハ訴權ヲ有セサルモノトス又夫ノ許可ナクシテ代理ヲ受諾シタル結婚シタル婦ニ對シテハ婚姻ノ契約及ヒ夫婦相互ノ權利ノ卷ニ定メタル規則ニ從フニ非サレハ訴權ヲ有セサルモノトス(民四八一以下、一、二四以下、一三〇五以下、一三二四、一三二四二、一四二六)

○第二章 代理者ノ義務

第一千九百九拾壹條 代理者ハ其代理ヲ委任セラル、問ハ之ヲ履行ス可ク而シテ其不執行ヨリ生スルコトアル可キ損害ヲ賠償スルノ責ニ任スルモノトス

代理者ハ若シ遲滞ニ於テ危險アル時ハ委任者ノ死去ニ當リテ始メタル事件ヲ成就スルコトヲ右ニ同シク擔任ス可シ(民一三七二以下、一九八四、一九八五、一九九二)

第一千九百九拾貳條 代理者ハ其管理ニ於テ行フ所ノ詐欺ノミナラス其過失ニ付テモ亦其實ニ任スルモノトス

然レハ過失ニ關スル責任ハ給料ヲ收受スル者ヨリモ代理ノ無償ナル者ニハ更ニ輕緩ニ適用ス可シ(民一三七四一三八二一九九二)

第一千九百九拾三條 總テノ代理者ハ其管理ノ計算ヲ爲シ且ツ其名代委任ニ據テ收受シタル諸件ヲ委任者ニ交付ス可キモノトス但シ代理者ノ收受セシモノカ委任者ノ受ク可キモノニ非サル時ト雖モ亦之ニ同シ(民一九九二附五二七以下五三三)

第一千九百九拾四條 代理者ハ左ノ場合ニ於テハ管理ニ付キ己レニ代ハラシメタル者ノ實ニ任ス可シ

第一 代理者カ或人ヲシテ己レニ代ハラシムルノ權力ヲ受ケサル時

第二 人ヲ指定セスシテ其權力ヲ代理者ニ附與シ而シテ代理者ノ撰ミタル者カ顯然其任ニ堪ヘヌ又ハ無資力ナル時

如何ナル場合ニ於テモ委任者ハ代理者ノ己レニ代ハラシメタル者ニ對シ

テ直接ニ請求スルコトヲ得可シ(民一三八四)

第一千九百九拾五條 同一ノ證書ヲ以テ設定シタル代理者數人アル時ハ其連帶ノ旨ヲ明示シタルニ非サレハ其數人ノ間ニ連帶アラサルモノトス(民一三〇一三〇二三三三三三三)

第一千九百九拾六條 代理者ハ自己ノ使用ニ供シタル金額ノ利息ヲ其使用ノ日ヨリ起算シテ負擔スルモノトス又其殘額負債者タル金額ノ利息ヲ其遲滞ニ附セラレシ日ヨリ起算シテ負擔スルモノトス(民一一三九二二七七)

第一千九百九拾七條 代理者カ其代理者タルノ分限ヲ以テ契約シタル者ニ自己ノ權力ヲ充分ニ告知シタル時ハ其權力外ニ於テ爲シタル所ノモノ、爲メ或モ擔保ヲ擔任セサルモノトス但シ代理者ノ己レ自カラ其擔保ニ服從シタル時ハ格別ナリトス(民一九八九一九九八)

○第三章 委任者ノ義務

第一千九百九拾八條 委任者ハ其代理者ニ附與シタル權力ニ從ヒ其代理者ノ契約シタル義務ヲ執行スルコトヲ擔任ス可シ

保存シタル時ハ其副本ヲ己レニ還付スルコトヲ代理者ニ強ユルコトヲ得可シ
(民二〇〇六)

第貳千五條 代理者ノミニ通知シタル廢止ハ其廢止ヲ知ラスシテ約定シタル
ル第三ノ人ニ之ヲ對抗スルコトヲ得ス但シ委任者ハ其代理者ニ對シテ償還
ヲ請求スルコトヲ得可キモノトス(民一一六五)

第貳千六條 同一ノ事務ニ付キ更ニ新ナル代理者ヲ設定シタル時ハ其設
定ノ旨ヲ初メノ代理者ニ通知シタル日ヨリ起算シテ其初メノ代理者ヲ廢
止シタルノ効力アルモノトス(民二〇〇三以下七五)

第貳千七條 代理者ハ委任者ニ自己ノ拋棄ヲ通知シテ其代理ヲ拋棄スルコ
トヲ得可シ

然レモ若シ其拋棄ノ爲メ委任者ニ損害ヲ被ムラシムル時ハ委任者ハ代理
者ヨリ其賠償ヲ受ク可シ但シ代理者ノ著大ナル損害ヲ己レ自カラ受クル
ニ非ツレハ其代理ヲ繼續スルコト能ハサル時ハ格別ナリトス(民一三七二以下
一三八三一九九二)

第貳千八條 若シ代理者カ委任者ノ死去又ハ其代理ヲ止息セシムル其他ノ
原由中ノ一ヲ知ラサル時ハ之ヲ知ラスシテ爲シタル所ノモノハ有效ナリ
トス(民一九九二二〇〇九三二四四二二四七)

第貳千九條 前ノ場合ニ於テハ代理者ノ約務ハ善意ナル第三ノ人ニ關シテ
之ヲ執行ス可シ(民二二六八)

第貳千拾條 代理者死去ノ場合ニ於テハ其相續人ヨリ其旨ヲ委任者ニ通報
シ而シテ其相續人ハ待ツ間ニ景況カ委任者ノ資益ノ爲メニ必要トスル所
ノモノヲ設備セサル可カラヌ(民一三七三)

○第拾四卷 保証千八百四年二月十四日決定同月二十四日宣令

○第壹章 保証ノ性質及ヒ限界

第貳千拾壹條 一箇ノ義務ノ保証人タル者ハ若シ負債者カ自カラ義務ヲ履

行セサル時ハ其義務ヲ履行スルコトヲ債主ニ對シテ負擔スルモノトス(民一〇三三・一〇三四・一〇三五以下)。

第貳千拾貳條 保証ハ有效ノ義務ニ關スルニ非サレハ存在スルコトヲ得ス然レハ假令一箇ノ義務カ純粹ニ義務者ノ一身上ノモノタル抗辨ノ憑據ニ依テ取消スコトヲ得可キ時例ヘハ幼年ノ場合ニ於ケルカ如キ時ト雖モ其義務ヲ保証スルコトヲ得可シ(民一一二九・一一三〇・一一三一・一一三二・一一三四・一一三六)

第貳千拾三條 保証ハ負債者ノ負擔スル所ノモノニ過クルコトヲ得ス又更ニ重劇ナル條件ヲ以テ之ヲ契約スルコトヲ得ス保証ハ負債ノ一部分ノミノ爲メニ之ヲ契約シ及ヒ更ニ輕緩ナル條件ヲ以テ之ヲ契約スルコトヲ得可シ

負債ニ過クル所ノ保証又ハ更ニ重劇ナル條件ヲ以テ契約シタル保証ハ無効ナリトセズ唯之ヲ其主タル義務ノ程度ニ減ス可キモノトス(民二〇一五以下)

第貳千拾四條 主タル負債者ノ差圖ナク又然ノミナラス主タル負債者ノ知

ラサルニ於テ保証人トナルコトヲ得可シ

又主タル負債者ノ保証人トナルノミナラス之ヲ保証シタル者ノ保証人トナルコトヲ得可シ(民一一二〇以下)

第貳千拾五條 保証ハ思量ス可キモノニ非ス其明白ナルコトヲ必要トス而シテ又保証ヲ契約シタル制限以外ニ之ヲ撤及スルコトヲ得ス(民一一三三・一一三五・一一三六)

第貳千拾六條 主タル義務ノ無限ノ保証ハ其負債ノ總テノ附屬件ニ撤及シ又然ノミナラス最初ノ請求ノ費用及ヒ其請求ヲ保証人ニ通知セシ以後ノ總テ費用ニ撤及スルモノトス(民一七四〇・二〇二五)

第貳千拾七條 保証人ノ約務ハ其相續人ニ移ルモノトス但シ其約務カ保証人ノ拘留ヲ受ケサルコトヲ得サル如キモノタル時ニ於テ其拘留ハ格別ナリトス(民七二四・七二五)

第貳千拾八條 保証人ヲ立ツ可キノ義務ヲ負ヒタル負債者ハ契約スルノ能カヲ有シ且ツ其義務ノ目的ヲ擔當スルニ充分ナル財産ヲ有シ而シテ其保

証人ヲ立テサルヲ得サル地ノ控訴裁判所ノ管轄内ニ住所ヲ有スル所ノ保証人ヲ立テサルヲ得ス(民ニ。四〇。四。五。七以下)

第貳千拾九條 保証人ノ資力ハ其不動産ノ所有物ノミニ據テ之ヲ量定スルモノトス但シ商業ノ事項ニ關スル時又ハ負債ノ些少ナル時ハ格別ナリトス

争訟アル不動産又ハ所在地ノ遠隔ナルカ爲メ其索討ノ至難タル可キ不動産ハ之ヲ算計セス(民ニ。四〇。二一八五。五。一七以下)

第貳千貳拾條 若シ債主ノ其任意ニ容受シ又ハ裁判上ニテ容受シタル保証人カ其後ニ至リ無資力トナル時ハ更ニ他ノ保証人ヲ立テサルヲ得ス
右ノ規則ハ債主カ其人ヲ保証人トシテ要求シタル合意ニ據リ保証人ヲ立テタル場合ノミニ於テハ取除ヲ受クルモノトス

○第貳章 保証ノ效

○第壹節 債主ト保証人トノ間ニ於ケル保証ノ效

第貳千貳拾壹條 保証人ハ負債者ノ辨濟ヲ缺ク時ニ非サレハ債主ニ對シテ

之ニ辨濟スルノ義務ヲ負ハサルモノニシテ其負債者ハ豫メ自己ノ財産ニ付キ索討セラレサルヲ得ス但シ保証人ノ索討ノ利益ヲ拋棄シ又ハ負債者ト相連帶シテ義務ヲ已レニ負ヒタル時ハ格別ニシテ此場合ニ於テハ保証人ノ約務ノ效ハ連帶負債ノ爲メニ定メタル原則ヲ以テ之ヲ規定ス(民ニ。四〇)

第貳千貳拾貳條 債主ハ保証人ニ對シテ起シタル最初ノ訟求ニ於テ保証人

ヨリ索討スルヲ求ムル時ニ非サレハ主タル負債者ヲ索討スルニ及ハス
第貳千貳拾三條 索討ヲ求ムル保証人ハ主タル負債者ノ財産ヲ債主ニ指示シ且ツ索討ヲ爲スニ充分ナル金額ヲ立替ヘサルヲ得ス

其保証人ハ辨濟ヲ爲サ、ル可カラサル地ノ控訴裁判所ノ管轄外ニ在ル主タル負債者ノ財産ヲ指示ス可カラヌ又争訟アル財産ヲ指示ス可カラヌ又其負債ニ書入質ト爲シタルモノニシテ最早負債者ノ占有ニアラサル財産ヲ指示ス可カラヌ(民ニ。一九三。二四二。一七。)

第貳千貳拾四條 保証人カ前條ニ依リ許可セラレタル財産ノ指示ヲ爲シ且